

# 極秘

## 内閣總理大臣 友

内閣書記官長

内閣書記官

簡甲第八五號

起 昭和三十二年九月五日

閣議決定 昭和三十二年九月五日 施行  
裁可 昭和三十二年九月五日

昭和三十二年九月五日 指令

外務大臣

友

陸軍大臣

海

文部大臣

友

遞信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙外務大藏陸軍海軍商工五大臣請議北樺太ニ於ケル石油及石炭利

權ノ確保ニ關スル件  
右閣議ニ供ス

指令案

北樺太ニ於ケル石油及石炭利權ノ確保  
ニ關スル件請議ノ通

一三閣商第一一八號

北樺太ニ於ケル石油及石炭利權ノ確保ニ關スル件

北樺太ニ於ケル我石油及石炭ニ關スル利權ハ實ニ大正九年ノ尼港事  
件ノ代償トシテ同十四年ノ北京條約ニ依リ蘇聯ヲシテ承認セシメタ  
ル重要ナル權益ナリ而シテ本利權ニ基ク事業ヲ營ムコトヲ目的トシ  
テ設立セラレタル北樺太石油株式會社竝ニ北樺太鑛業株式會社ノ兩  
社ハ孰レモ漸次相當ノ業績ヲ舉グルニ至リ本邦燃料國策ノ遂行上期  
待スルトコロ大ナルモノアリタリ然ルニ日獨防共協定ノ成立乃至ハ  
支那事變ノ勃發ヲ契機トシテ蘇聯ノ我方ニ對スル態度ハ頓ニ惡化シ  
綱來本利權事業ニ對シテモ不法ナル壓迫ヲ加フルニ至リ之ガ爲兩利  
權會社ハ事業遂行上多大ノ支障ヲ來シ其ノ財政モ亦甚シク苦境ニ瀕  
スルニ至リ本件利權ハ重大ナル難局ニ遭遇スルニ至レリ

惟フニ本件利權ハ帝國ノ海外權益トシテノ重要性ニ加フルニ資源トシテモ石油及石炭共ニ其ノ埋藏量極ノテ豊富ニシテ且ツ其ノ石炭ハ強度粘結性ヲ有スル特殊炭ニシテ製鐵用コークス配合炭ニ好適シ孰レモ軍事上、産業上極ノテ重要ナリ從テ本件利權ヲ確保スルコトハ本邦燃料國策遂行上緊要ナリト認ム

仍テ政府ハ現下ノ對蘇關係其ノ他ノ國際情勢ニ鑑ミ暫定的ニ之等利權企業ノ強化ヲ圖ル爲石油ノ試掘ニ付テハ試掘期間内ニ於ケル豫定計畫ノ完了ヲ期シ石油及石炭ノ採掘ニ付テハ蘇側ノ不法壓迫ニ拘ラズ積極的ニ事業ヲ遂行セシムル爲助成金等ニ依リ一層ノ援助ヲ加フルト共ニ當該事業ニ要スル資金ノ調達ニ就テモ社債元利保證等ニ依リ格別ノ配慮ヲナシ以テ利權會社ヲシテ資源ノ開發ヲ容易ナラシメ本件利權ノ確保ヲ圖ルコトト致度尙本件利權ノ重要性ニ鑑ミ利權企業ノ基礎ヲ確立セシムルト共ニ利權企業ヲシテ本邦燃料國策ニ即應

日本標準規格 B4 小張納

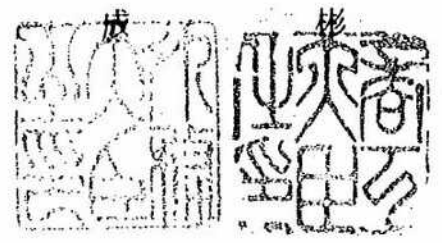
シ其ノ圓滑ナル運営ヲ期セシメンガ爲ニハ其ノ組織ヲ強化スルノ要アリト認メラルルモ之ガ實現ニ付テハ適當ナル時機ニ於テ考慮スルコトト致度

右閣議ヲ請フ

昭和十三年九月二十六日

商工大臣 池田 成

外務大臣 宇垣 一



# 参考資料

(袋入) 参考資料工部在中

- ① 北樺太鑛業株式会社
- ② 北樺太石油株式会社

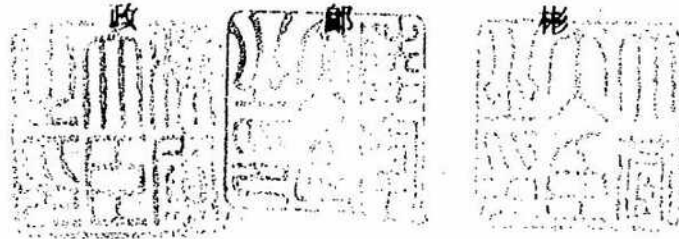
商工省

大藏大臣 池田 成彬

陸軍大臣 板垣 征四郎

海軍大臣 米内 光政

内閣總理大臣 公府 近衛 文麿 殿



日本標準規格 B4 小張納

北京條約  
利權契約

北樺太鑛業株式會社

国立公文書館	
排架番号	2 A 1
	① 241
	6の参考資料

目次

一、法 令

法律第三十七號 (帝國利權會社設置)	一
勅令第八號 (法律第三十七號施行期日)	一
勅令第九號 (帝國利權會社法)	三
商工省告示第十一號 (重要財産ニ關スル商工大臣指定)	四
日蘇基本條約	二
基本條約附屬議定書 (甲)	二
基本條約附屬議定書 (乙)	六
外務省告示第二十號 (聲明書)	三
外務省告示第二十一號 (交換公文)	七
外務省告示第二十二號 (同)	三

外務省告示第二十三號（基本條約署名議定書）……………三  
 外務省告示第二十四號（基本條約批准）……………四

|| 利權契約目次 ||

第一條 石炭利權附與……………一  
 第二條 財產及設備利用權……………二  
 第三條 ノ聯法令官憲命令遵奉……………三  
 第四條 契約締結權……………三  
 第五條 財產租借並ニ取得權……………三  
 第六條 裁判出頭權……………三  
 第七條 法人權……………三  
 第八條 決算書公表義務……………三  
 第九條 企業組成財產ノ處分……………三  
 第十條 企業組成財產ノ徵發並強制處分及戰時徵發……………三  
 第十一條 租稅郵便及關稅規定適用……………四

第六條	「ソ」聯政府ノ損害賠償	四
第七條	「ソ」聯政府企業監視	四
第八條	實習學生	五
第九條	利權讓渡	五
第十條	利權地域	五
第十一條	財産引繼及鑛區劃定	八
第十二條	鑛業施業案	九
	統計資料及諸報告提出義務	九
	鑛山監督機關檢閱	〇
第十三條	利權期間	〇
第十四條	報 償	〇
第十五條	採掘炭輸出權	三
	「ソ」聯政府産炭買入レ優先權	三

第十六條	單一稅	四
	鑛業用材拂下	五
第十七條	物資無稅輸入權	五
	物資輸入手續	五
	供給物資價值段認可手續	六
第十八條	輸入物資地域外販賣	六
	輸入物資返送權	六
第十九條	地表使用權	六
	「マ」鑛地域地表使用權	七
	農園經營權	七
第二十條	建設物及引込道路建設權	七
	代理店設置權	八
	文化教育衛生機關設置權	八



第二十一條	土砂採取權	六
第二十二條	水面使用權	六
第二十三條	鑛業備林	九
	坑木拂下料率	六
第二十四條	勞働條件	三
	社會保險	三
第二十五條	勞働者比率	三
第二十六條	企業從業員及家族ノ旅券手續	三
第二十七條	電話架設權	三
第二十八條	船舶入港及航行權	四
	港灣稅	四
	稅關吏派遣費	四
	曳船ノ西海岸自由航行及亞港寄港權	五

第二十九條	積込設備設置權	五
	築港	五
第三十條	財產保險	五
	附保物件ノ損害填補	六
第三十一條	期間滿了時ノ引渡條件	六
	原價償却	七
第三十二條	不可抗力ニ關スル企業中止	七
第三十三條	利權解消罰則	六
第三十四條	契約違反ニ因ル損害賠償	六
第三十五條	最高法院	元
	仲裁ノ制	元
第三十六條	財產使用料	元
第三十七條	石炭以外ノ有用埋藏物	五

第三十八條	印紙稅	六
第三十九條	利權契約原本及寫本	三〇
第四十條	效力發生時	三〇
第四十一條	法律上ノ兩當事者宛名	三三
	兩當事ノ住所變更手續	三三
附	北樺太鑛業株式會社ニ對スル利權讓渡許可書	三四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國會社ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正十四年三月三十日

內閣總理大臣	子爵	加藤高明
農商務大臣	高橋是清	
外務大臣	男爵	幣原喜重郎
司法大臣	小川平吉	

法律第三十七號

條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

附則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二 二

朕大正十四年法律第三十七號條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ム  
コトヲ目的トスル帝國會社ニ關スル法律ノ施行期日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ  
シム

御名 御璽

攝政 名

大正十五年三月五日

內閣總理大臣	若 禮 次 郎
外務大臣	男 幣 原 喜 重 郎
司法大臣	江 木 重 郎
商工大臣	片 岡 直 温

勅令 第八號

大正十四年法律第三十七號ハ大正十五年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

三

朕日本國及ソヴィエト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書(乙)ニ基ク利權契約ニ依リ北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御 璽

攝政名 大正十五年三月五日

內閣總理大臣 若 槻 禮 次 郎  
商工大臣 片 岡 直 溫

勅令第九號

第一條 日本國及ソヴィエト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書(乙)ニ基ク利權契約ニ依リ北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外商法及付屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二條 會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款及事業目論見書ヲ具シ商工大臣ニ會社設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項ノ免許ノ申請ニハ株式申込證ノ謄本ヲ添付スヘシ

第三條 株式ハ記名式トシ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニシテ議決權ノ過半數カ外國人若ハ外國法人ニ屬セサルモノニ非サレハ之ヲ所有スルコトヲ得ス

第四條 定款變更、合併、及解散ノ決議並重要財産ノ讓渡ハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ重要財産ノ範圍ハ商工大臣之ヲ指定ス

第五條 會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ收支豫算ヲ添ヘ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

事業計畫ヲ變更セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第一項ノ認可ノ申請ハ營業年度開始三月前ニ之ヲ爲スヘシ

但初營業年度ニ於テハ會社ノ設立登記後二月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ位置及深度ヲ指定シテ試掘ヲ命ジ其他事業計畫ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第七條 會社ノ採取シタル石油ニ付テハ政府ハ時價ヲ標準トシ優先シテ之ヲ購入スルコトヲ得

第八條 會社ノ採取シタル石油ノ購入ニ付テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第九條 政府ノ北極太ニ於ケル財産ヲ會社ニ對シテ讓渡スル場合ニ於テハ其ノ代價ハ會社ノ設立登記後四年目以後ニ於テ其配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ達シ一年百分ノ拾ノ割合ヲ超過シタル年ノ翌年ヨリ起算シ拾年以内ニ於テ之ヲ年賦償還セシムルコトヲ得

第十條 會社ハ商工大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條 毎營業年度ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ拾五ノ割合ヲ超過スルトキハ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ  
但シ當該營業年度ヲ除キ其ノ前三年ニ包含セラルル營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ

利益金額(該利益金額中政府ニ納付シタル金額アルトキハ之ヲ控除ス)ノ通算シ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ拾五ノ割合ニ達セザルトキハ其ノ不足額ヲ當該營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額ヨリ控除シ其ノ殘額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ拾五ノ割合ヲ超過スル場合ニ限リ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

第十二條 會社ハ定時總會開會前ニ財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、收支決算書及株主名簿ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第十三條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ノ業務若ハ財産ノ狀況ノ報告ヲ命ジ又ハ官吏ヲシテ之ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 商工大臣ハ會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十五條 商工大臣ハ會社ノ決議法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得  
商工大臣ハ取締役ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ若ハ公益ヲ害スト認メタルトキ又ハ

取締役商工大臣ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得  
第十六條 第五條第六條第九條及第十條ノ規定ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ  
目的トスル會社ニ關シテハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正十五年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營  
ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ノ重要財産ノ範圍

大正十五年七月二日商工省告示第十一號

大正十五年勅令第九號第四條第二項ニヨリ北樺太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事  
業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ノ重要財産ノ範圍ヲ左ノ通指定ス

- 一、石油掘採ニ關スルモノ
- イ、石油ノ試掘及採掘ヲ行フ權利
- ロ、鑿井並採油設備及其ノ豫備品

- ハ、送油設備及送油鐵管
- ニ、製油設備及天然揮發油採收設備
- ホ、附屬工場及其ノ設備
- ハ、鐵槽但シ容量參拾噸以上ノモノ
- ト、油槽船及曳船
- チ、發電設備及送電線
- リ、軌 道
- ス、棧 橋
- ル、通信機關
- 二、石炭掘採ニ關スルモノ
- イ、石炭ノ採掘ヲ行フ權利
- ロ、選炭設備
- ハ、附屬工場及其ノ設備

- 三、貯炭庫及貯炭設備
- ホ、駁及良船
- ヘ、發電設備及送電線
- ト、軌道及運搬設備
- チ、棧橋
- リ、通信機關

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員カ「ソヴ  
 イエト」社會主義共和國聯邦全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國及「ソヴイエト」社  
 會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的方法則ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ關係議定書ト  
 共ニ之ヲ交布セシム

御名 御 嘸

攝政 名

大正十四年二月二十七日

内閣總理大臣 子爵 加藤 高明  
 外務大臣 男爵 幣原 喜重郎

條約第五號

日本國及「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦  
 間ノ關係ヲ律スル基本的方法則ニ關スル條約

日本國及「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ハ兩國間ニ善隣及經濟的協力ノ關係ヲ促

進セムコトヲ希望シ右關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ  
爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

日本 國 皇 帝 陛下

支那共和國駐劄特命全權公使 從四位勳一等 芳澤 謙吉

ソヴィエト 社會主義共和國聯邦ノ中央執行委員會

支那共和國駐劄大使 「レフ・ミハイロヴィチ・カラハン」

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協  
定セリ

### 第一條

兩締約國ハ本條約ノ實施ト共ニ兩國間ニ外交及領事關係ノ確立セラレハキコトヲ約ス

### 第二條

ソヴィエト 社會主義共和國聯邦ハ千九百五年九月五日ノ「ボーツマス」條約カ完  
全ニ效力ヲ存續スルコトヲ約ス

千九百十七年十一月七日前ニ於テ日本國ト露西亞國トノ間ニ締結セラレタル條約、協  
約及協定ニシテ右「ボーツマス」條約以外ノモノハ兩締約國ノ政府間ニ違テ開カレハキ  
會議ニ於テ審查セラレハク且變化シタル事態ノ要求スルコトアルハキ所ニ從テ改訂又ハ  
廢棄セラレ得ヘキコトヲ約ス

### 第三條

兩締約國政府ハ本條約實施ノ上ハ千九百十七年ノ漁業協約ノ締結以後一般事態ニ付發生  
スルコトアルハキ變化ノ考慮シ右漁業協約ノ改訂ヲ爲スヘキコトヲ約ス

右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ日本國臣民

ニ對スル漁區ノ貸下ニ關シ千九百二十四年ニ確立セラレタル實行方法ヲ維持スヘキ

### 第四條

兩締約國ノ政府ハ本條約實施ノ上ハ左記ノ原則ニ從テ通商航海條約ノ締結ヲ爲スヘク  
且右條約ノ締結ニ至ル迄ノ間兩國間ノ一般交通ハ右原則ニ依リ律セラルヘキコトヲ約ス  
(一) 兩締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他方ノ法令ニ從ヒ、イニ其ノ領域内ニ到リ、旅



行シ且居住スルノ完全ナル自由ヲ有スヘク、**ロ**、身體及財産ノ安全ニ對シ恒常完全ナル保護ヲ享有スヘシ

(二) 兩締約國ノ一方ハ私有財産權並通商、航海、産業及其ノ他ノ平和的業務ニ從事スルノ自由ヲ最廣キ範圍ニ於テ且相互條件ノ下ニ他方ノ臣民又ハ人民ニ對シ自國領域内ニ於テ自國ノ法令ニ從ヒ付與スヘシ

(三) 自國ニ於ケル國際貿易ノ制度ヲ自國ノ法令ヲ以テ定ムルノ各締約國ノ權利ヲ害スルコトナク、兩國ノ通商航海及産業ヲ成ルヘク最惠國ノ地歩ニ置クハ兩締約國ノ意嚮ナルニ依リ兩締約國ハ兩國間ノ經濟上又ハ其ノ他ノ交通ノ増進ヲ妨クルニ至ルコトアルヘキ禁止、制限又ハ課金ヲ他方締約國ニ對シ差別的ニ行フコトナカルヘキモノトス又兩締約國ノ政府ハ兩國間ニ於ケル經濟上ノ關係ヲ調整シ且促進スル爲通商及航海ニ關聯スル特別ノ協定ヲ締結スルノ目的ヲ以テ事能ク要求スルコトアルヘキ所ニ從ヒ隨時商議ヲ爲スコトヲ約ス

第五條

兩締約國ハ互ニ平和及友好ノ關係ヲ維持スルコト、自國ノ法權内ニ於テ自由ニ自國ノ生活ヲ律スル當然ナル國ノ權利ヲ充分ニ尊重スルコト公然又ハ陰密ノ何等カノ行爲ニシテ苟モ日本國又ハソウヰエト一社會主義共和國聯邦ノ領域ノ何レカノ部分ニ於ケル秩序及安寧ヲ危殆ヲシムルコトアルヘキモノハ之ヲ爲サズ、且締約國ノ爲何等カノ政府ノ任務ニ在ル一切ノ人及締約國ヨリ何等カノ財的援助ヲ受クル一切ノ團體ヲシテ右ノ行爲ヲ爲サシメテハ自國ノ希望及意嚮ヲ嚴肅ニ確認ス

第六條

又締約國ハ其ノ法權内ニ在ル地域ニ於テ、**イ**、他方ノ領域ノ何レカノ部分ニ對スル政府ナリト稱スル團體若ハ集團又ハ、**ロ**、右團體若ハ集團ノ爲政治上ノ活動ヲ現ニ行フモノト認メラルヘキ外國人タル臣民若ハ人民ノ存在ヲ許ササルヘキコトヲ約ス

兩國間ノ經濟上ノ關係ヲ促進スル爲又天然資源ニ關シ日本國ノ需要ヲ考量シソウヰエト一社會主義共和國聯邦政府ハソウヰエト一社會主義共和國聯邦ノ一切ノ領域内ニ於ケル鑛産、森林及其ノ他ノ天然資源ノ開發ニ對シ權利ヲ日本國ノ臣民及組合ニ許

與スルノ意嚮ヲ有ス

第七條

本條約ハ批准セラルヘシ

各締約國ノ右批准ハ成ルヘク速ニ其ノ北京駐劄外交代表者ニ由リ他方ノ政府ニ通知セラルヘク且本條約ハ右通知中後ニ爲サレタルモノノ日ヨリ完全ニ實施セラルヘシ

批准書ノ正式交換ハ成ルヘク速ニ北京ニ於テ行ハルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本條約ニ通ニ署名調印セリ  
千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉 (印)

エル・カザン (印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝 (御名) 此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣ボス  
朕大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員カ「ソヴィエト」社會主義共和  
國聯邦全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ  
關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス  
神武天皇即位紀元二千五百八十五年大正十四年二月二十五日東京宮城ニ於テ親ヲ署名  
シ調印セシム

御名 御璽

攝政名

外務大臣 幣原 喜重郎

議定書(甲)

日本國及一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦ハ兩國間ノ關係ヲ律スル其本の法則ニ關スル條約ニ本日署名スルニ當リ同條約ニ關聯スル諸問題ノ規定ニスル有益ナルコトヲ認メ其ノ各全權委員ニ由リ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

各締約國ハ他方ノ大使館及領事館ニ屬スル動産及不動産ニシテ自國ノ領域内ニ現存スルモノヲ右他方ニ引渡スコトヲ約ス

東京ニ於テ前露西亞國政府ノ占有シタル土地カ東京ノ都市計畫又ハ公共ノ目的ノ爲ニスル事業ニ對シ支障ト爲ルカ如キ位置ニ在リト認メラルル場合ニ於テハ一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦政府ハ右支障除去ノ爲日本國政府ノ爲スコトアルハキ提議ヲ考慮スルノ義務アルモノトス

一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦政府ハ一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦ノ領域内ニ設置セラレハキ日本國大使館及領事館ニ對スル相當ノ敷地及建物ノ選定ニ付一切ノ

適當ナル便益ヲ日本國政府ニ與フハ

第二條

前露西亞國政府即チ露西亞帝國政府及之ヲ繼承シタル臨時政府ノ發行シタル公債及國庫證券ニ依リ日本國ノ政府又ハ臣民ニ對シテ負ヘル債務ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於テ調整ニ留保セララルコトヲ約ス

尤モ右問題ノ調整ニ當リ日本國ノ政府又ハ臣民ハ一切ノ他ノ條件ニシテ均シキニ於テハ一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦政府方同様ノ問題ニ付他ノ何レノ國ノ政府又ハ國民ニ與フルコトアルハキモノヨリモ不利益ナル地位ニ置カラルコトヲサカスルニシテ又締約國ノ一方ノ政府ノ他方ノ政府ニ對スル請求權又ハ締約國ノ一方ノ國民ノ他方ノ政府ニ對スル請求權ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於ケル調整ニ留保セララルコトヲ約ス

第三條

北「サカリン」ニ於ケル氣候ノ狀態カ現ニ同地方ニ駐屯スル日本國軍隊ノ即時本國檢  
査ヲ妨クルニ鑑ミ右軍隊ハ千九百二十五年五月十五日迄ニ同地方ヨリ完全ニ撤退セラ  
ルヘシ

右撤退ハ氣候ノ狀態カ之ヲ許スニ至ラハ直ニ開始セララルヘク且日本國軍隊ノ撤退シタ  
ル北「サカリン」ノ總テノ地方ハ直ニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ當該官憲ニ  
完全ナル主權ニ於テ還付セラルヘシ

行政ノ引渡及占領ノ終了ニ關スル細目ハ「アレクサンドロフスク」ニ於テ日本國占領  
軍司令官ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦代表者トノ間ニ協定セララルヘシ

#### 第 四 條

兩締約國ハ其ノ一方カ何レカノ第三國ト締ヒタル軍事同盟ノ條約若ハ協定又ハ其ノ他  
ノ秘密協定ニシテ他方締約國ノ主權、領土權又ハ國家的安全ニ對スル侵害又ハ脅威ト成  
ルハキモノノ現ニ存在セサルコトヲ互ニ聲明ス

#### 第 五 條

本議定書ハ同日附シ以テ署名セラルル日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦  
間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ批准ト共ニ批准セラルルモノト看做サル  
ヘシ

右證據トシテ各全權代表ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ  
千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤 謙吉 (印)  
エ・カシハシ (印)

議定書(乙)

兩締約國ハ日本國ト一ソウイエト一社會主義共和國聯邦トノ全權委員間ニ本日署名セラレタル議定書(甲)第三條ニ規定セラレタル所ニ從ヒ日本國軍隊カ北一サガレン一ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ締結セラレハキ利權契約ニ對スル基礎トシテ左ノ如ク協定セリ

一、一ソウイエト一社會主義共和國聯邦政府ハ日本國代表者ニ依リ千九百二十四年八月二十九日聯邦ノ代表者ニ交付セラレタル覺書ニ記載セラルル北一サガレン一ニ於ケル油田ノ各ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス

右開發ノ爲日本國當業者ニ貸付セラレハキ地積ヲ決定スルノ目的ヲ以テ右油田ノ各ハ各十五乃至四十一デシアテイン一ノ甚靈日方形ニ區分セラレハク且全地積ノ五割ニ相當スル右方形ノ數ハ日本人ニ割當テラレハシ但シ右日本人ニ貸付セラレハキ方形ハ原則トシテ相隣接スヘカクモ日本人ノ現ニ掘鑿又ハ作業中ナル一切ノ

坑井ヲ包含スヘキモノトス右覺書ニ記載セラレタル油田中貸付セラレサレ殘餘ノ地區ニ關シテハ一ソウイエト一社會主義共和國聯邦政府カ右地區ノ全部又ハ一部ヲ外國人ノ利權ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本國當業者ハ右利權ニ關スル事項ニ付均等ノ機會ヲ與ヘラレハキコトヲ約ス

二、又一ソウイエト一社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約締結ノ後一年内ニ選定セラレハキ一千平方一ウエニス一ノ地積ニ亘リ北一サガレン一ノ東海岸ニ於テ五年乃至十年ノ期間油田ヲ調査試掘スルコトヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許可スルコトヲ約ス又油田カ日本人ニ依リ右調査試掘ノ結果確定セラレタル場合ニ於テハ右確定セラレタル油田ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ハ日本人ニ許與セラレハシ

三、一ソウイエト一社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラレハキ特定ノ地積ニ亘リ北一サガレン一ノ西海岸ニ於テ油田ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス又一ソウイエト一社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラレハキ特定ノ地積ニ亘リ一トウ一エ一地方ニ於ケ

炭田ニ關スル利權ヲ有日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス、又前二項ニ掲ケラル  
 特定ノ地積以外ノ炭田ニ關シテハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府力之ヲ  
 外國人ノ利權ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本國當業者ハ右利權ニ關スル事項ニ  
 付均等ノ機會ヲ與ヘラルヘキコトヲ約ス

- 四、前諸號ニ規定セラルル油田及炭田ノ開發ニ對スル利權ノ期間ハ四十年乃至五十年  
 タルヘシ
- 五、日本人タル利權取得者ハ右利權ニ對スル報償トシテ炭田ノ場合ニ於テハ其ノ總產  
 額ノ五分乃至八分ヲ又油田ノ場合ニ於テハ其ノ總額ノ五分乃至一割五分ヲ「ソヴィ  
 エト」社會主義共和國聯邦政府ニ對シ毎年提供スヘシ但シ自噴油井ノ場合ニ於テハ  
 右報償ハ其ノ總產額ノ四割五分迄之ヲ増加スルコトヲ得、報償トシテ提供セラルヘ  
 キ產額ノ割合ハ利權契約ニ於テ協定のニ定メラルヘキ且右契約中ニ定メラルヘキ方  
 法ニ依リ年產額ノ率ニ應ジ等差ヲ設ケラルヘシ
- 六、右日本國當業者ハ企業ノ目的ニ要スル木材ヲ伐採スルコトヲ日交通並物資又生産

物ノ運輸ヲ容易ナラシムル爲諸般ノ施設ヲ爲スルコトヲ許スルヘシ右ニ關スル細目ハ  
 利權契約ニ於テ定メラルヘシ

- 七、前記ノ報償ニ鑑ミ又企業カ當該地區ノ地理上ノ位置及其ノ他ノ一般狀態ニ依リ受  
 クヘキ不利益ヲ考量シ右企業ニ要スル又ハ之ヨリ得タル何等カノ物件物資又ハ生産  
 物ノ輸入及輸出ハ無税ニテ許可セラルヘキ且右企業ハ其ノ收益的經營ノ事實上不可  
 能ナラシムルコトアルヘキ如何ナル課税又ハ制限ヲモ加ヘラルコトナカクヘキコ  
 トヲ約ス
- 八、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ右企業ニ對シ一切ノ適當ナル保護及便  
 益ヲ與フハシ
- 九、前諸號ニ關聯スル細目ハ利權契約ニ於テ協定セラルヘシ  
 本議定書ハ同日附シ以テ署名セラレタル日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國  
 聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト  
 看做サルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ  
千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉(印)  
エルク・カラハン(印)

告 示

◎外務省告示第二十號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權委員  
ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條  
約ノ署名調印ニ際シ帝國全權委員ニ左ノ聲明書ヲ手交セリ  
大正十四年二月二十七日

外務大臣 野澤 常 原 喜重郎

聲 明 書

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦及日本國間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條  
約ニ本國署名スルニ當リ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員タル下名ハ本國  
政府ニ於テ千九百二十五年九月五日ノ「ボーツマ」條約ノ效力ヲ承認スルコトハ同國政府  
ニ於テ右條約ノ締結ニ付前帝政府ト政治上ノ責任ヲ分ツコトヲ何等意味セザルコトヲ

聲明スルノ光榮ヲ有ス

千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

エ ル ・ カ ラ ハ ン (印)

二八

◎外務省告示第二十一號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權委員トノ間ニ左ノ公文ヲ交換セリ

大正十四年二月二十七日

外務大臣 幣原 喜重郎

交 換 公 文

(來 朝)

以書翰啓上致候陳者本官ハ日本國ノ全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員ニ手交セラレタル覺書ニ記載セラレタル油田及炭田ニ付北「サガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ實行中ナル作業ハ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ行ハルヘキ利權契約ノ締結ニ至ル迄續行セラルヘキコトニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ聲明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記條件ハ日本人ニ依リテ遵守セラルヘキモノニ候

- 一、作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覺書ニ掲ケラレタル地區、使用セラルル労働者及専門家ノ數、機械並其ノ他ノ條件ニ關シテハ右覺書ニ記載事項ニ嚴ニ準據シテ續行セラルヘシ
- 二、石油及石炭ノ如キ產出物ハ之ヲ輸出シ又ハ販賣スルコトヲ得ス右作業ニ關係アル従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ
- 三、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ許與ヒラルル作業續行ノ許可ハ將

二九



來ノ利權契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ボササルヘシ

四、北「サガレン」ニ於ケル日本國無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ將來ノ協定ニ留

保セラルヘク且私人及外國人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴィエト」社會主義

共和國聯邦ノ現存法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラルヘシ

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

エー・カ・ラ・ハン

日本國特命全權公使 芳澤謙吉 閣下

(往 翰)

以書翰啓上致候陳者本官ハ閣下ヨリノ本日附左記ノ書翰ヲ領承スルノ光榮ヲ有シ候

本官ハ日本國ノ全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社會主

義共和國聯邦ノ全權委員ニ手交シテ「ソヴィエト」社會主義ニ記載セラルル油田及炭田ニ付北「サ

ガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ實行中ナル作業ハ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全

ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ行ハルヘキ利權契約ノ締結ニ至ル迄續行セラルヘキコト

ニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ

聲明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記條件ハ日本人ニ依リテ遵守セラハルヘキモノニ候

一、作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覺書ニ掲ケラレタル地區ニ使用セラルル勞

働者及専門家ノ數、機械並其ノ他ノ條件ニ關シテハ右覺書ノ記載事項ニ嚴ニ準據シ

テ續行セラルヘシ

二、石油及石炭ノ如キ產出物ハ之ヲ輸出シヌハ販賣スルコトヲ得ヌ右作業ニ關係アル

従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ

三、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ許與セラルル作業續行ノ許可ハ將

來ノ利權契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ボササルヘシ

四、北「サガレン」ニ於ケル日本國無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ將來ノ協定ニ留

保セラルヘク且私人及外國人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴィエト」社會主義

共和國聯邦ノ現存法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラレハシ本國政府ノ名ニ於テ本  
官ハ日本帝國政府ハ右書翰ニ全然同意ナル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦大使

「レフ・ミハイロヴィチ・カラハン」閣下

芳 澤 謙 吉

◎外務省告示第二十二號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會  
主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエ  
ト」社會主義共和國聯邦全權委員ヨリノ左ノ附屬公文ヲ受領セリ  
大正十四年二月二十七日

外務大臣 男 幣 原 喜 重 郎

附 屬 公 文

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦及日本國間ノ關係ヲ律スル基本法則ニ關スル條  
約ニ本日署名スルニ當リ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員タル下名ハ茲ニ  
日本國政府ニ對シ千九百二十年ノ「ニコラエウスター」事件ニ對スル誠實ナル遺憾ノ意ヲ  
表スルノ光榮ヲ有ス

千九百二十四年一月二十日 北京ニ於テ

エ ル ・ カ ラ ハ ン

◎外務省告示第二十三號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會  
主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエ

三三

下「社會主義共和國聯邦全權委員」ト共ニ左ノ署名議定書ニ署名調印セリ  
大正十四年二月二十七日

外務大臣 男 幣原 喜重郎

署名議定書

支那國駐劄日本國特命全權公使芳澤謙吉及支那國駐劄「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦大使「レフ・ミハイロヴィチ・カフハン」ハ良好妥當ト認ミラレタル各自ノ全權委任狀ニ基キ本日北京ニ會合シテ左ノ文書ヲ審査セリ

- 一、日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約
- 二、議定書 二通
- 三、聲明書 一通
- 四、交換公文 一通

五、附屬公文 一通

全權委員ハ右文書ニ掲ケラレタル總テノ用語及條項ニ同意シタルヲ以テ正式ニ各文書ニ署名調印セリ

尙兩全權委員ハ日本國全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權委員ニ手交セラレ且日本人カ北「サガレン」ニ於テ作業中ナル油田及炭田ノ狀態ニ關スル説明ヲ掲ケタル覺書ヲ本議定書ニ添附スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩締約國ノ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書二通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ作成ス

芳澤 謙吉 (印)  
レフ・カフハン (印)

千九百二十四年八月二十九日日本代表者ニ  
依リ聯邦ノ代表者ニ交附セラレタル覺書

石油試掘作業

此等試掘作業ハ政府ノ爲ニ株式會社北辰會ニ依リテ行ハレ居ル

作用	位置	地積	試掘井
オ	ハ一オハ河ノ流域ニ於テウルクト灣ノ西ニ哩	二、五〇〇	四七
エ	ハ一エハビ灣ノ西ニ哩	一、六〇〇	三
ビ	ビルトウン河ニ沿ヒキヤツクル灣ノ南西六哩	一、二〇〇	三
ヌ	ヌトウオ河ノ河口ヲ西五哩	二、五〇〇	一
チ	チアイウオ河ニ沿ヒチアイウオ灣ノ西三哩	一、三〇〇	一

作用	位置	地積	試掘井
ウ	ウグリウツタ河ノ河口ニ於テ西七哩	一、六〇〇	一
ウ	ウイグレトウ河ノ流域ニ沿ヒ同河ノ河口ノ南三哩	八〇〇	ナシ
カ	カタンダリ湖ノ北カタンダリ湖ノ岸	一、六〇〇	一

三、使用セラルル専門家  
労働者 四〇〇 (夏季)

- 四、機 械
- 「ハイドロロツク・ロータリー」式
  - 「スタンダード・ケーブル」式
  - 「ダイアモンド・ボーリング」式
  - 「スプリング・ボーリング」式 (人力ニヨルモノ)
- 五、設 備
- 「深掘用」
  - 「浅掘用」

イ、通信用

各所ノ作業ヲ連絡スル電話線「オハー」及「チアイヴオ」ニ於ケル無線電信所

ロ、運搬用

行及傳馬船十二隻ノ外各所ノ作業ヲ連絡スル爲夏季使用セラル小型蒸汽船一隻及發動機船數隻

ハ、建設物

職員及勞働者	三〇	一	二	七	八	六	一	一五
用家屋	一一	三	三	三	一	二	二	一
貯油所	六	一	一	一	一	一	一	一
燃料油	四	一	一	一	一	一	一	一
鋼製								

六、輕便鐵道

「ツルクト」跨ト「オハー」於ケル工場トノ間二哩半ニ亘ル「トロツコ」線及「カタンズグリート」ナビルトノ間約三哩ニ亘ル他「トロツコ」線

七、石油ノ輸出

坑 作 業

一、作業者

「ドゥーエ」鑛山 三菱會社ハ古領軍ノ爲ニ作業ヲ居レリ  
「ロガトウイ」鑛山 「スタヘエ」會社及三菱會社カ合同事業トシテ作業シ居レリ

二、鑛山ノ位置

「ドゥーエ」鑛山海ニ近キポストツアヤノ流域ニ於テ「アレクサンドロウ」ステク「港」南約六哩、現ニ作業中ノ水平坑ハ二、但シ該坑ナシ、千九百二十三年ノ産額約五萬噸

「ロガトウイ」鑛山 海ニ面シ「ブクサン」ドロウスクー港ノ南約十里、現ニ  
作業中ノ坑ニ、堅坑ナシ、千九百二十三年ノ産額約三萬噸

三、専門家及労働者ノ數

「ドゥーエ」鑛山 五 約二〇〇  
「ロガトウイ」鑛山 三 約一五〇

(右數ハ夏季ノモノトス)

四、機 械

「ドゥーエ」鑛山ニ於テハ小型機關車ハ石炭ノ運搬ノ目的ニ爲ニ使用セラル

「ロガトウイ」鑛山ニ於テハ機械ヲ使用セス採掘及運搬ハ人及馬ニ依リテ行ハレ  
居レリ

五、建 設 物

「ドゥーエ」鑛山ヨリ海岸ニ至ル「トロツコ」線及「ロガトウイ」ニ於  
ケル四分ノ一哩弱ノ他ノ「トロツト」線ノ除キ炭坑用ニハ特殊ノ建設物ナシ

六、輸 送

「ドゥーエ」鑛山ノ産額ハ古領軍及古領區域内ノ住民ニ依リ消費セラレ島外ニ搬  
出セララルモノナシ

「ロガトウイ」鑛山ノ産額ノ約三萬噸ハ三菱及「スタハエ」ニ依リ千九百二  
十三年ニ輸出セラレタリトノコトナリ

◎外務省告示第二十四號

帝國政府ハ本年一月二十日支那國北京ニ於テ署名調印セラレタル日本國及「ソツイエ

ト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約カ本年二月二十五日  
御批准濟ノ旨ヲ同月二十六日在支芳澤公使ヲ通シ「ソツイエト」社會主義共和國聯邦政

府ニ通知シ又同聯邦政府ハ同條約カ本年二月二十日同聯邦政府ニ依リ批准セラレタル旨  
同月二十六日在支「カラハン」大使ヲ通シ帝國政府ニ通知シタリ

利  
權  
契  
約

大正十四年二月二十七日

外務大臣 幣原 喜重郎

四二

二

一九二五年十二月十四日莫斯科市ニ於テ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府（以下單ニ政府ト稱ス）ハ一九二五年十二月八日付「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會ノ決定（議事録第百三十四號第二項）ニ基キ行動スル人民經濟最高委員會議長「ツエリクス・エドムンドヴィツチ・ゼルヂンスキ」ニヨリ代表セラレタル人民經濟最高委員會ヲ通シ他方一九二五年七月七日在莫斯科日本大使ヨリ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦外務人民委員會宛通知ニヨリハ一九二五年一月二十日北京ニテ調印ノ日本及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ基本的關係ニ關スル條約議定書乙ノ規定ニ基キ日本政府ヨリ推薦セラレタル當業者タル北「マガリン」石炭企業組合（以下單ニ利權者ト稱ス）ハ同組合ノ代表者ニシテ且ツ同組合ノ名ニ於テ本契約ニ調印ソナス權限ヲ有スル旨證明シタル一九二五年十二月五日付在莫斯科日本大使發給ノ證明書第六號ニ基キ行動スル奥村政雄ヲ通シ下記條件ヲ以テ鑛業企業ノ利權ニ關シ本契約ヲ締結セリ

第一條 「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ利權者ニ對シ一般法令ノ除外例トシテ本契約ノ範圍内ニテ本契約所定ノ地域ニ於テ鑛山調査（試掘）鑛山業（採掘）



及其附帶事業ヲ營ミ且其事業ヨリ生スル利益ヲ收得スル權利ヲ許與ス

前項ノ目的ノ爲ニ政府ハ本契約所定ノ期間中本契約ニ定ムル條件ヲ以テ本契約ニ指  
定セラルソツイエト「社會主義共和國聯邦ニ屬スル財産ヲ利權者ニ使用セシムルト  
共ニ本契約所定ノ條件ニ從ヒ新設備ヲナシ及其設備ヲ利用スルコトヲ利權者ニ許與  
ス

利權者ハ本契約ニ於テ許サレタル權利及特權ノ範圍内ニ於テ行動シ又適當ニ經營セ  
ラルル商工業ニ適應セル方法ヲ以テ其事業ヲ遂行スルト共ニ本契約所載ノ一切ノ義  
務ヲ履行スルモノトス

第二條 本契約ニ特別ノ規定無キ限リ利權者ハ「ソツイエト」社會主義共和國聯邦領  
土内ニ於テ「ソツイエト」社會主義共和國聯邦ニ於ケル現行ノ一般法令並ニ將來發  
布セラルルコトアルヘキ一般法令ヲ遵奉スルト共ニ之等ノ法令ニ基ク官憲ノ命令ニ  
服従スルヲ要ス

第三條 利權者ハ本契約實行ノ爲本契約ニ特別ノ規定無キ限リ「ソツイエト」社會主

義共和國聯邦ノ一般法令ニ從ヒ契約ヲ締結シ財産ヲ租借シ取得シ處分シ原告又ハ被  
告トシテ裁判所ニ出頭スル權利ヲ有シ尙「ソツイエト」社會主義共和國聯邦内ニ存  
スル法人ニ對スル一般規定ニ從ヒ法人トシテノ權利ヲ享有シ決算書ヲ公表スルノ義  
務ヲ負フ

第四條 利權消滅後本契約ニ從ヒ政府ニ引渡サルヘキ利權企業ヲ組成スル財産ハ之ヲ  
他人ニ移轉シ又ハ擔保ノ目的トナスコトヲ得サルト共ニ利權者ニ對スル債權者ノ請  
求ノ目的トナスコトヲ得ス炭坑設備ノ修理、模様替、及完成ニ際シ不用トナル古  
機械設備品及材料ハ利權者ノ完全ナル支配ニ移リ政府ノ許可ヲ得テ賣却スルコトヲ  
得

第五條 本條ノ規定ハ現存スル設備ノ外今後輸入セラルヘキ設備ニモ適用セシムルモノトス  
利權企業ヲ組成スル財産ハ徵發沒收其他ノ強制處分ヲ受クルコトナシ但利權  
者ハ戰時軍ノ必要ニ基ク徵發ニ關スル一般規定ノ適用ヲ受クルモノトス此場合ニハ  
公平ナル賠償ヲ受クハシ

又利權者ハ交通及聯絡線ノ用ニ供スル土地ノ使用除外ニ關スル法律規則ニ服スルモノトス

本條ハ一ツツイエト一社會主義共和國聯邦ニ於ケル現行ノ租稅郵便及關稅ニ關スル一般法令ニ基ク徵收手續ヲ變更スルモノニアラス

第六條 利權契約ノ效力發生後ニ於テ一ツツイエト一社會主義共和國聯邦ノ中央及地方官憲ノ發布スル命令其他ノ規定又ハ指圖ニヨリ本契約ニ定ムル利權者ノ權利カ制限ヲ受ケヌハ消滅シタルトキハ政府ハコレニ依リテ生スル總テノ損害ヲ賠償スルモノトス

前項ノ規定ハ第三十三條ニ規定スル場合ノ外期間終了前ニ於テ政府ノ一方的行爲ニヨリ利權契約ヲ廢棄又ハ變更スルコトヲ意味スルモノニ非ス

第七條 本契約實施期間中利權企業ハ絕對ニ利權者ノ經濟的使用及支配ニ屬スルモ政府ハ利權者ノ生産及商業上ノ行爲ノ進行ヲ自己ノ權限アル代表者ヲシテ監視セシムル權利ヲ留保ス但シ政府代表者ハ右監視ニ付利權者カーソツイエト一社會主義共和國聯邦ノ法令及利權契約ノ條件ニ違反セザル限り生産並ニ經濟的行爲ニ對シ干渉スルコトヲ得ス

第八條 利權者ハ政府ヨリ派遣セラルル地質學者鑛山技師又ハ技術者カ利權企業ニ於ケル作業ノ研究ヲナスコトヲ許容スル義務ヲ有ス尙利權者ハ一九二三年五月二十二日附命令(一九二三年政府ノ法令及命令集第四九號四八四條)ニ基キ一ツツイエト一社會主義共和國聯邦ノ高等技術學校學生及卒業生ヲ實習ノクメ自己ノ企業ニ毎年雇入ルル義務アルモノトス

第九條 利權者ハ政府ノ許可ヲ得タル場合ニ限り本契約ニヨル權利義務ノ全部又ハ一部ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得

第十條 政府ハ利權者ニ對シ本契約ニ記載セザレタル期間及條件ヲ以テ北樺太西海岸ノ下記地域ニ於テ石炭ノ試掘及採掘ノ獨占的權利ヲ許與ス  
一、土威地方ノ境界  
イ、北方一ツツリナヤ一溪ヲ以テシ其河口ヨリ第一及第三マカリエフスキー

採掘鑛區ノ西部境界ノ延長線トノ交叉迄

ロ、東方 第一及第三「マカリエフスキー」採掘鑛區ノ西部境界ト其延長線ノ「ウ  
ゴリナヤ」溪ニ達スル迄、第三及第四「マカリエフスキー」採掘鑛區ノ南部境  
界線、第二及第四「マカリエフスキー」採掘鑛區ノ東部境界ノ延長線ニ從ヒ第  
四「マカリエフスキー」採掘鑛區ノ東南角ヨリ利權者ニ與ヘラレタル地域ノ南  
部境界ヲ形成スル線トノ交叉迄

ハ、南方 「オゴロドナヤ」溪河口ヨリ南方一直線ニ一露里半ノ海岸地點ヨリ緯  
度線ニ從ヒテ利權者ニ與ヘラレタル地域ノ東部境界線ノ交叉迄

ニ、西方 「ウゴリナヤ」溪河口ヨリ利權者ニ與ヘラレタル地域ノ南部境界線ノ  
起點迄ノ範圍内ニ於ケル海岸線

(備考)

一「マカリエフスキー」採掘鑛區ノ境界ハ政府ニヨリ確認サレタル一九一〇年ノ  
土地區劃ニ從テ而シテ本契約書ニ添附サレタル一九二五年測量ニ係ル縮尺壹萬  
貳千分ノ壹ノ土成地方圖面ニ符記セリ

三、一ウラヂミロフスキ「炭坑」地方ノ境界

イ、南方 第三溪河口ヨリ緯度線ニ從ヒ東方五露里ノ地點間

(備考) 第三溪河口ハ「ノヤミ」河口ノ南方海岸線ニ沿ヒ約三露里ノ地點ニ存ス

ロ、北方 「ノヤミ」河口ヨリ北方一直線ニ○●四露里ノ海岸地點ヨリ緯度線ニ  
從ヒテ東方ハ

(備考) 右北方境界ハ「ムズ」炭坑ノ「アナスターシエフスキー」採掘鑛區ヲ侵害  
スルヲ得ス

ハ、東方 南部境界ノ東端地點ヨリ北方へ子午線ニ從ヒテ利權者ニ與ヘラレタル  
地域ノ北方境界ヲ形成スル線トノ交叉迄

ニ、西方 第三溪河口ヨリ北部境界ノ起點迄ノ範圍内ニ於ケル海岸線

三、「マナチ」河地方ノ境界

イ、南方 「クムジューズナイ」河口ヨリ緯度線ニ從ヒ東方二露里八分ノ五ノ地

點間

ロ、北方、一、シロイカヤ、河口ヨリ南方一直線ニ一露里ノ海岸地點ヨリ緯度線ニ  
從ヒテ東方四露里ノ地點間

ハ、東方、南北兩境界線ノ東端地點ノ結合線

ニ、西方、一、クルジュ、ユーズナイ、河口ヨリ北部境界線ノ起點迄ノ範圍内ニ於ケル

海岸線

本條ニ舉ケタル三ケノ地域ハ本契約書ニヨリ利權地域ヲ形成ス

本條指定ノ距離ハ水平距離トス

以上學ケタル利權地域ノ境界ハ本契約書ニ添附セルル假圖面ニ符記シ此圖面ニ從ヒ  
利權契約書第拾壹條ニ述ヘラレタル利權地域ノ正確ナル土地區劃ヲ定ムルモノトス

第十一條 試掘並ニ採掘ノ爲利權者ニ許與セラルヘキ地域ノ範圍ニ存在スル政府所屬ノ  
建物及備品ハ利權者ノ使用ニ之ヲ引渡ス引渡サルヘキ總テノ財産ハ双方代表者立會  
ノ下ニ其目錄及評價表ヲ作り其ノ引渡ニ關シ特別ナル調書ヲ作成シ双方契約代表者  
之ニ調印ス本調書ハ本利權契約書ニ添附セラルヘキモノトス

利權者ニ交付セルヘキ地域ノ境界ノ劃定及立標ノ設定ハ契約調印後來ルヘキ最近ノ  
夏季ニ於テ利權者ノ代表者立會ノ下ニ政府之ヲ行フ之ト同時ニ双方代表立會ノ上區  
劃サレタル地域ヲ記載シタル確定的圖面ヲ作成スルモノトス兩者ニヨリ調印セラレタ  
ル調書並ニ圖面ハ本契約書ニ添附ス財產引渡及鑛區劃定行爲ニ關スル總テノ經費ハ  
利權者ノ負擔トス

第十二條 利權者ハ其許與セラレタル地域ニ於テ一ツウイエト一社會主義共和國聯邦ノ

鑛業法ニヨリ許シラレタル方法ニ因リ炭鑛調査ニ試掘ニ並ニ採掘ヲ行フモノトス

利權者ハ本契約ノ效力發生ノ日ヨリ一ケ年以内ニ炭層開拓ノ順序ヲ明示シタル利權  
地域内ノ一般採掘計畫ヲ極東鑛山局ニ提出セラルヘキヲス

採掘ノ計畫及其計畫實行ノ方法ハ坑及坑道毎ニ經濟的價值ヲ有スル石炭ノ全部ヲ  
採掘シ一般ニ埋藏炭ノ規則正シキ且經濟的ナル採掘ヲ確保スル樣立案セラレサル可  
ラニ  
是等ノ計畫ハ五年毎ニ作成セラルヘク而テ極東鑛山局ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

利権者ハ試掘並ニ探掘事業ノ結果得タル總テノ材料及技術上及統計上ノ資料ヲ鑛山監督機關ト協定シタル期間内ニ政府ニ提出セサルヘカラス右ノ外鑛山監督機關ハ利権者ヲ隊行中ノ試掘及探掘事業ヲ隨時檢閱スルノ權利ヲ有ス利権者ハ其檢閱ニ際シ充分ノ便宜ヲ與ヘ其要求ニヨリテハ試掘明細表圖面及其他技術上ノ報告ヲ提出スヘキモノトス

第十三條 本契約ノ有効期間ハ本契約ノ效力ヲ發生シタル日ヨリ起算シ四拾五ヶ年トス第十四條 本契約ニヨリ許與セラレタル權利並ニ特權ニ對シ利権者ハ總出炭額ニ對シ以下ノ報償ヲ仕拂フモノトス

總年産額	一〇〇、〇〇〇佛噸迄	五・〇〇%
	一五〇、〇〇〇同	五・二五%
	二〇〇、〇〇〇同	五・五〇%
	二五〇、〇〇〇同	五・七五%
	三〇〇、〇〇〇同	六・〇〇%

	三五〇、〇〇〇同	六・二五%
	四〇〇、〇〇〇同	六・五〇%
	四五〇、〇〇〇同	六・七五%
	五〇〇、〇〇〇同	七・〇〇%
	五五〇、〇〇〇同	七・二五%
	六〇〇、〇〇〇同	七・五〇%
	六五〇、〇〇〇同	七・七五%
	六五〇、〇〇〇以上	八・〇〇%

利権者ハ報償ノ航海期間中(即チ毎年五月一日ヨリ九月十五日ニ至ル)ニ現物ヲ以テ仕拂フモノトス但右期間内ニ於テ政府ハ報償ヲ受取ルヘキ期日並ニ數量ヲ決定シ各數量受取ノ三週間前ニ之ヲ利権者ニ通告スルモノトス

報償ノ引渡ハ各利権企業ノ積出地點ニ於テ利権者ニヨリ行ハン汽船ノ船荷證ニヨルFOB 渡トス但鑛山ヨリ棧橋迄ハ利権者ノ設備ニヨリ其計算ニ於テ之ヲ行フ、棧橋

ヨリ本船積込ハ利権者ノ設備ニヨリ之ヲ行フモ其實費ハ政府之ヲ負擔ス、汽船カ政  
府ノ指定シタル日ニ到着シタル場合ハ利権者ハ順番ニヨラズ報償ノ積込ヲ行フモノ  
トス汽船ノ延着二十四時間以内ノ場合ニ於テ該汽船到着前ニ利権者カ他ノ汽船ノ荷  
役ニ着手セルトキハ報償積取船入港前開始セラルル汽船荷役ノ終了直後利権者ハ報  
償ノ積込ヲ行フモノトス報償積取船二十四時間以上延着ノ場合ニ於テハ報償積込ハ  
待船順ニヨリ利権者之ヲ行フモノトス荷役ノ標準ハ地方的ノ事情ヲ參酌シ海上航海  
ノ一般商慣習ニ應スルモノトス

若シモ利権者カ本條第三項ノ條件ヲ履行セサルトキハ利権者ハ之ヨリ生スル總テノ  
損害ヲ政府ニ賠償スルモノトス  
報償トシテ利権者ヨリ引渡サルハキ石炭ノ炭質並ニ種類ハ各炭坑別ニ販賣炭ノ平均  
炭質及種類ニ應ゼサルハカラス而シテ右ハ技術上ノ分荷ニヨリ證明セラルハキモノ  
トス

利権者ヨリ引渡サルヘキ前年度分報償ノ外利権者ハ政府ノ希望ニヨリ當年度分報償

ノ内渡トシテ前年度ノ報償トシテ引渡サル數量ノ七割ヲ引渡ス義務ヲ負フ前渡  
報償ノ清算ハ本條前項ニ從ヒ報償ノ決算ニ當リ之ヲ行フモノトス報償前渡ノ希望ニ  
就テハ政府ハ毎年五月一日迄ニ利権者ニ通知スルモノトス利権者ハ政府ノ委託ニヨ  
リ相互協定ノ條件ニ基キ手數料制度ノ下ニ利権者カ報償トシテ支拂フヘキ石炭販賣  
ヲ引受タル義務ヲ負フ

利権者カ報償仕拂延滞ノ場合ニハ不適時引渡ニ干渉シテ生シタル損害ヲ賠償スルノ  
外未納ノ報償ニ對シ一ヶ月一分ノ割合ヲ以テスル過怠金ヲ仕拂フモノトス報償仕拂  
ノ延滞一ケ年ニ及フトキハ政府ハ本契約第拾參條ニ基キ利権契約ヲ解除スルノ權  
利ヲ有ス利権者ノ責ニ歸スヘカラスル事由ニヨリ九月十五日迄ニ完了セザリテ報償  
ノ支拂ハ翌年航海期迄繰越シ之ヲ延滞ト看做ス

第十五條 利権者ハ何等ノ支障ナク且無稅ニテ自己採掘石炭ヲ海外ニ輸出スルノ權利ヲ  
有ス

一ソツイエト一社會主義共和國聯邦内市場ニ於ケル石炭販賣ハ各作業年度ニ於テ其

數量其豫メ當該極東政府機關ト協定セサルヘカクニ俱利權企業ニ從事スル汽船ニ供給スル燃料炭ハ以上ノ協定ヲ要セム

政府ハ前年度利權企業ノ採掘數量ノ五割ヲ超エタル數量ニ於テ内地消費ノ爲必要ナル石炭ノ利權者ヨリ買入スル優先權ヲ有ス右方法ニヨリ買入石炭ノ値段ハ相互ノ協定ニヨリ決定セラルヘキモノナルモ政府ノ申込前ニ於ケル横濱 C&F 平均卸値(樺太横濱港ノ普通運賃ヲ控除シ)ヨリ高カクモトス右自己ノ希望ニ就テ政府ハ各作業年度開始前少クトモ六ケ月前ニ利權者ニ豫告スルモノトス

第十六條 裁判費並ニ本契約ニ於テ特ニ定メラレタル税金及支拂ヲ除ク外有ソユル一般國稅地方稅並ニ手数料ノ代價トシテ利權者ハ總產額ヨリ政府ニ支拂フヘキ報償ヲ控除シタル年總出炭額ノ樺太 FOB 賣値ノ三・三三ヲ政府ニ仕拂フモノトス  
利權者ハ利權企業ニ使用セラレタル木材ノ造材及輸出ニ關スル作業ニ付テハ一般規定ニ基キ總テノ一般國稅地方稅關稅及手数料、港灣稅ヲ含ムモノトシテ仕拂フモノトス  
本條ニ定メタル一般税金ハ各作業年度終了後三ケ月以内ニ浦潮斯德ニ於ケルソヴ

イェト一社會主義共和國聯邦國立銀行支店ニ利權者之ヲ納附ス  
利權者ノ一般税金仕拂延滞ノ場合ニハ未納金額ニ對シ一ケ月一分ノ割合ヲ以テ過税金ノ仕拂フモノトス税金仕拂ノ延滞一ケ年ニ及ブトキハ政府ハ本契約第參拾參條ニ基キ利權契約ヲ解除スルノ權利ヲ有ス

第十七條 利權者ハ利權企業ニ供給又ハ設備ノ爲各種ノ機械及其部分品又ハ技術上ノ物件及材料ヲ關稅及特許料ヲ仕拂フコトナクシテ輸入スル權利ヲ有ス又企業ニ必要ニシテ北樺太ニ輸入ヲ禁止セラレサル勞働者及従業員ニ供給ノ食料品及日常品ニ亦同然ナリ

以上ノ權利ヲ行使スル爲利權者ハ當該年度ニ於テ輸入セラルヘキ物品ノ數量ヲ示セル正確ナル明細表ヲ日本ニ於ケルソヴイェト一社會主義共和國聯邦ノ通商代表者ノ認可ヲ得ル爲メ毎年提出スルモノトス  
日本ニ於ケルソヴイェト一社會主義共和國聯邦通商代表者ノ認可ヲ受ケタル目錄表ニ記載サル、總テノ物件ニ對シテハソヴイェト一社會主義共和國聯邦稅關機關

ハ別個ノ許可ヲ要セスシテ輸入セシムヘキモノトス  
利権企業ノ勞働者並ニ従業員ニ對スル最モ必要ナル食料品及物件ハ外國ヨリノ輸入  
品タル一ツツイエト一社會主義共和國聯邦内ノ輸入品タルトシテ間ハス北樺太鑛山地  
方ノ長官ノ認可シタル値段ニヨリ利権者之ヲ供給スルモノトス

第十八條 第拾七條ニ從ヒ利権者ニヨリ外國ヨリ輸入セラルタル總テノ日常品並ニ食料品  
ハ當該地方政府機關ノ許可ヲクシテハ之ノ内地市場ニ販賣スルコトヲ得ス  
若シ右許可ノ與ヘラレサル場合ハ利権者ハ前項記載ノ物品ヲ自由ニ且ツ支障ナク外  
國ニ返送スルノ權利ヲ與ヘラル

第十九條 石炭採掘並ニ調査ニ試掘ノ作業ニ必要ナル程度ニ於テ利権地域内ノ地表ヲ使  
用スルノ權利ヲ利権者ニ許與スル此目的ノ爲メ利権者ハ前記ノ地域ニ於テ住宅及住  
宅ニ非ル建物及各種技術上ノ建設物等ヲ建設スルコトヲ得  
土蔵利権地ノ南東部分ニ於テ採掘スル、石炭運搬ノ爲メ利権者ハ「ホストソヤ」並ニ  
同河左岸支流ノ沿岸一帯及「マカリエ」ニキ「一鑛區」地域ニ於テ石炭運搬ノ爲メ建

設セラルヘキ總テノ建設物並ニ建物方「マカリエ」ニキ「一鑛區」ノ正當ナル稼行ニ  
障碍トナラサル限り「マカリエ」ニキ「一鑛區」ノ採掘鑛區地域ノ地表ヲ使用スルコトヲ  
得

利権者ノ請願ニ依リ農務人民委員會地方機關ハ利権者ノ企業及其勞働者及従業員ニ  
供給ノカメ必要ナル農村經濟ヲ營ニ地所及住宅地ノ利権地域内ノ地表ニ於テ分與ス  
ヘシ農村經濟地區ノ使用ハ一般法令ニ準據スルコトヲ要ス

本條ノ規定ハ第三者又ハ地方機關ノ合法的占用ノ地表ニハ適用セラハス若シ利権者  
カ其企業ヲ組織シ擴張スルノ目的ヲ以テ右地區ノ占用ヲ必要トスル場合ニハ之ニ付  
當該使用者ト協定ソナス權利ヲ許與ス

第二十條 利権者ハ利権期限ヲ越エサル期間内利権地域内及本目的ノ爲メ特別ノ條件ニ  
基キテ獲得セラル利権地域外ノ地域ニ於テ引込道路修理工場鍛冶場倉庫等ノ如キ企業  
ニ直接必要ナル各種附帶建設物ヲ建設シテ之ヲ利用シ又利権者ノ企業ノ従業員及勞  
働者ノ必要トスル供給品及日用品ノ生産ノ爲各種ノ工場及糧食倉庫ヲ建設スルノ權



利ヲ有ス

其他利權者ハ北樺太ニ於テ利權地域外ニ事務所及倉庫（倉庫ハ其都度地方官憲ノ許可ノ下ニ）並ニ莫斯科一ハバロフスク一浦潮斯德各市ニ代理店設置ノ權利ヲ有ス  
利權者ハ地方官憲並ニ鑛山労働者職業組合（同盟）トノ協定ニヨリ利權企業ノ労働者及従業員ノ爲各種ノ文化教育及醫療衛生機關ヲ設置スル權利ヲ許與セラル

第二十一條 利權者ハ利權地域内ニ於テ他人ニ販賣ノ目的ニ非ル限り利權企業ニ必要ナル粘土、砂石、石灰等各種ノ普通埋藏物ヲ無償ニテ採取スルコトヲ得利權地域以外ニ於ケル石ノ普通埋藏物ノ利用ハ一ソヴイエト一社會主義共和國聯邦鑛山法ノ一般規定ニ基キ許可セラルモノトス

第二十二條 利權者ハ許與セラレタル地域内ニ於テ無償ニテ水、水面及水力ヲ使用スル權利ヲ有ス尙之カ爲メニ利權者ハ地方官憲ノ許可ノ下ニ各種ノ營造物ヲ建設スル權利ヲ有ス  
許與セラレタル權利ヲ行使スルニ際シ利權者ハ以下ノ義務ヲ負フモノトス

イ、水、水面及水力使用ニ際シ隣接地區ノ利益ヲ侵害セサルコト

ロ、隣接地區ヨリ排水シ又ハ引水スル爲自己ノ地區内ヲ通シテナス溝渠、排水路其他ノ工作物ノ築造ヲ許諾スル事及隣接地區ヨリ利權地域ヲ通過シテ道路其他ノ運搬設備ノ建設ヲ妨ケサルコト

ハ、一般共用ノ流水ニ關シテハ衛生取締規定ニ準據スルコト

ニ、水、水面及水力使用ニ際シテハ如何ナル場合ニ於テモ漁業及交通ニ關シ地方住民ノ利益ヲ侵害スヘカラス

利權地域外ニ於ケル水ノ使用ハ地方官憲トノ特別ナル協定ニヨリ無償ニテ許可セラレハシ

第二十三條 利權者ハ販賣ノ目的ニ非スシテ企業ニ必要ナル限り利權地域上ニ存スル森林使用ノ權利ヲ有ス

利權地域外ニ於テ利權者ハ極東土地廳トノ協定ノ下ニ北樺太ニ於テ自己企業ノ用ニ供スル爲メ必要ナル伐木地區ヲ獲得スルコトヲ得

伐木林地ハ利權企業地ニ搬入スルニ便利ナル事ト採掘戻一噸ニ付坑木用材一・五立方呎ノ割合ヲ以テ計算サル、利權者ノ坑木用材ニ對スル需要トヲ考慮シナルヘク五年間分ヲ前以テ指定セラルヘキモノトス利權契約期間ノ最初ノ三年間終了後出來ル丈第二ノ五年間分ニ對スル伐木林地區ヲ指定スヘキモノトス毎年ノ伐木林地區ハ其伐木期日ノ到來一ヶ年前ニ設定スヘシ

利權者ハ自己ニ許與サレタル伐木林地區ニ於テ造材シタルモノニシテ利權企業ノ爲ニ使用セラレサル木材ヲ一般規定ニ基キ外國ニ輸出スルノ權利ヲ許與セラル  
政府ハ利權者ニ開發ノ爲メ許與シタル伐木林地區ニ於テ利權者上記伐木林地區ノ引渡ヲナシタル期間中他ノ伐採者ヲ入レシメザル義務ヲ負フ

利權地域内外ニ於テ利權者ニ許與サレタル坑木用材ハ一九一二年許可サレタル現行率ニ從ヒ拂下ケラルモノトス  
前項條件ハ利權契約有效期間中各五ヶ年毎ニ政府ニヨリ改定セラルルコトアルヘシ但シ料率ノ改定ニ際シ坑木用材ノ値段ハ北極太ニ於ケル同種國營企業ニ拂下ケラル

同一値段ヨリ高ク決定セラル事ナシ

利權者ハ滿山監督地方機關ノ證明書ニ基キ發給セラルル農務人民委員會地方機關ノ許可ノ下ニ常設道路ノ開發防火手段ヲ講スル爲メ及建物及建設物ノ用地切開キノ爲メ森林伐採ノ權利ヲ許與セラル此方法ニヨリ伐採サレタル木材ハ料金ヲ課セラズ政府ノ處分ニ屬ス

右ニ關係ナク利權者ハ利權企業ニ不足スル數量支ケ極東州内ニ於テ入札ニヨリ立木ヲ買得スル權利ヲ許與セラル

第二十四條 利權者ノ企業ニ於ケル勞働條件ハ一ツツイエト一社會主義共和國聯邦ノ現行法令並ニ將來之ニ付發布スル事アルヘキ法令及利權者ト當該職業組合(同盟)トノ團體契約ニヨリ規律セラルモノトス

以上ノ條件ハ國籍ノ如何ヲ問ハス利權企業ニ於ケル總テノ勞働者及從業員ニ適用セララルモノトス勞働者及從業員ノ社會保險料ハ同種國營企業ト同一率ニヨリ利權者ニ於テ仕拂フモノトス

第二十五條 利權企業ノ爲利權者ハ以下ノ權利ヲ有ス

イ、外國人タル事務員、技術者及高等ノ資格アル勞働者及從業員各別ニ其五割迄雇  
傭スルコト

(備考)

一、上記ノ制限ハ取締役及鐵山支配人ニ適用セラレズ

二、炭切夫ハ高等ノ資格有ル勞働者ト看做ス

ロ、中等及下等ノ資格有ル外國勞働者及人夫ヲ總數ノ二割五分ヲ超エサル範圍ニテ  
雇傭スルコト

(備考)

利權契約ノ効力ヲ發生シタル日ヨリ最初ノ五ヶ年間海上ニ於ケル石炭積込ニ從  
事スル勞働者ハ本條イ項ニ從ヒ五割ノ内ニ合ム

若シ極東勞働支部カ利權者ノ要求ニ對シソツイエト一社會主義共和國聯邦ノ市民  
或ハ其領土内居住ノ外國人ヨリ必要ナル數量ノ勞力ヲ提供スルコト能ハサル場合ニ  
ハ利權者ハ不足數タケノ外國勞働者及從業員ヲ任意雇傭スルコトヲ得  
イ及ロ兩項ニ示サレタル外國勞働者及從業者ノ率ハ漸次減少セラルヘク且三年毎ニ

改定セラルヘキモノトス

第二十六條

利權企業ノ勞働者及從業員並ニ其家族ノ北樺太出入ニ際シテ旅券手續ニ付  
合理的ナル便法講セラルヘシコレカ爲メソツイエト一社會主義共和國聯邦政府ハ  
東京及函館駐在ノ自國領事館並ニ北樺太ニ於ケル外務人民委員會ノ派遣員ニ適當ナ  
ル命令ヲ與フヘシ

第二十七條

各利權地域ノ範圍内ニ於テ其内部連絡ヲ保障スル爲メ利權者ハ任意ニ電話  
線ヲ新設シ又既設線ヲ利用スルノ權利ヲ許與セララル

利權者カ利權者ノ支配下ニ非ル地域ニ局部的ニ即チ自己ノ企業ト亞港市又ハ隣接セ  
サル利權地域間ヲ連絡セシムル爲メ電話線架設ヲ希望スル場合ハ右權利ハ前記電線  
ノ架設及使用ニ付郵便電信人民委員會ノ規定及標準ニ準據シ且ツ該委員會地方機關  
ノ監督ヲ受クル條件付ニテ利權者ニ許與セラル本條件ハ利權地域外ニアル既設電話  
線ニモ適用セラルモノトス

利權者ハ利權企業ノ作業ノ妨グトナラサル限り電話設備ヲ北樺太ニ於ケル政府機關

並ニ其代理人ノ使用ニ供スヘキ義務ヲ負フ右使用ノ條件ハ利權者ト政府機關ノ合意ニヨリ定メラルヘシ

二四

第二十八條 利權企業ノ船舶及利權者ノ備船ハ一ソヴィエト一社會主義共和國聯邦ノ現行法令ニ從ヒ北樺太海岸ニ於ケル開港場ニ入港スルノ權利ノ有ス

北樺太沿岸ノ他ノ地點ニコレヲ船舶ノ寄港ハ此地點ニ付豫メ交通人民委員會ト協定ヲナスノ條件ニ於テノミ許可セラルヘシ此場合ニ於テ船舶ハ利權者ノ選擇ニヨリ最寄税關ニ於テ検査ヲ受ケ其證明書ヲ得ルカ又ハ積込及陸揚ノ地點ニ於テ船舶ノ検査ヲ受タル事ヲ得後者ノ場合ニ於テ税關官吏ノ派遣費ハ利權者之ヲ負擔ス

開港場ニ於ケル港灣税ハ將來北樺太沿岸ニ於テ開港セヨトタル場合一般規定ニ基キ利權者ヨリ徴收サルモノトス

勞務ニ對スル仕拂ハ一般規定ニ據ル

上記ノ船舶ハ利權企業生産品及其設備品並ニ供給品ノ運搬、企業ノ勞働者及従業員ノ食料品並ニ供給品ノ運搬及勞働者、従業員並ニ其家族ノ輸送ニノミ使用スルモノ

トス

石炭貯ノ曳船、木材及利權企業上必要ナル供給品及勞働者従業員並ニ其家族ノ運搬ニ從事スル利權企業ノ小型補助船舶一六十馬力迄ノ小蒸汽船及發動機船一ハ北樺太西海岸ニ沿ヒ自由航行並ニ何等ノ支障ナク亞港ニ寄港スルノ權利ヲ有ス

第二十九條 豫メ地方官憲當該機關ノ承諾ヲ得防波堤積込棧橋及繫留所ヲ建設シ並ニ起重機及其他ノ陸揚及積込用設備ヲ設置スル權利ヲ利權者ニ許與ス

利權者ハ前項ノ防波堤棧橋及繫留所附近ニ於テ船舶ノ積込及陸揚ニ際シ何等ノ支障ナク且自由ニ海面ヲ使用スル權利ヲ有ス

若シ將來企業發展ニ關聯シ利權者カ築港ノ必要ヲ認ムルトキハ港ノ位置計畫及築造ノ條件ニ付豫メ交通人民委員會ト協定セサルヘカラス

利權者ノ建設シタル港ハ交通人民委員會ノ支配ニ移ル而シテ交通人民委員會ト協定セシ條件ニヨリ港ノ一定區域ヲ利權者ノ營業的使用ニ許與スヘキコトヲ豫メ決定ス

第三十條 利權企業ノ總テノ建物及築造物ハ其總テノ設備トモ利權者ハ一ソヴィエト一

二五

社會主義共和國聯邦保險機關ニ自己ノ勘定ヲ以テ政府ノ名義ニヨリ附保セサルヘカ  
ラス

利權者ニ對スル保險料率ハ同種國營企業ト同一トス  
火災ノ爲附保財產消滅又ハ損害ヲ受ケタル場合政府ハ保險金ヲ利權者ノ名義ニヨリ  
一ソツイエト一社會主義共和國聯邦國立銀行ニ預金ス該保險金ハ政府ノ監督ノ下ニ  
只利權企業復興ノ爲ニノミ利權者ハ支出スルモノトス

第三十一條 利權期間ノ滿了ニ際シ利權權業ハ總テノ建築物、改良工事、設備及備品ト  
共ニ本契約ニ從ヒ最後ノ五年間維持セラレタル平均生産ニ劣ラサル生産ヲ支障ナク  
可能ナラシムル狀態ニ於テ無償ニテ政府ニ移轉スヘシ  
但政府ハ本契約有效期間最後ノ拾ケ年間ニ於テ費用ニ付政府ノ承諾ヲ得テ利權企業  
ニ對シ設備セル建物及改良工事ニシテ左記ノ原價償却率ニヨリ原價償却セラレサル  
部分ヲ利權者ニ賠償スル義務ヲ有ス  
即チ利權者ノ出費ニ對スル毎年原價償却率ハ石造建築物三分、機械及設備七分、及

木造建築物及貯五分トス

材料、食糧品、及供給品ニシテ貯藏中ノモノ製品、半製品、資金及其他ノ流動資産  
ハ利權者ノ所有ニ殘ル

利權者ハ利權期間ノ終了ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ本條ノ條件ヲ守リ企業ヲ政府ニ引渡  
ス義務ヲ有ス此期間中ニ利權者ハ政府ト總清算ヲ終了セザルハカラム上記條件ヲ違  
行シタル後利權者ノ所有ニ屬スル財產ハ利權者ニ於テ一ケ年以内ニ何等ノ支障ナク  
且無税ニテ利權地域ヨリ搬出スルコトヲ得ヘシ

指定ノ期間ニ利權地域ヨリ搬出セラレサル利權者ノ財產ハ無償ニテ政府ノ所有ニ歸  
ス  
利權者ノ如何ナル負債及義務モ何處ニテ發生シタルヲ問ハス政府ニ移轉スルコトナ  
ス

第三十二條 若シ本契約ノ有効期間中ニ契約ノ全部又ハ一部ノ履行力不可抗力ノ爲不可  
能トナリシトキハ不可抗力ノ繼續期間中當該義務履行ノ延期ヲ及互ニ於テ許與スル

義務ヲ有ス但契約ノ基本期間ヲ延長スルコトナシ

二八

第三十三條 政府ハ左ノ場合ニ限り期間中企業ヲ中止スルノ權利ヲ有ス

イ、ソヴィエト一社會主義共和國聯邦ノ裁判機關又ハ外國裁判機關ノ法律上有效

トナリタル判決ニヨリ利権者カ仕拂不能ノ債務者トシテ宣告セラレタルトキ

ロ、利権者カ本契約ノ第十二條第一項及第三項第十四條末項第十六條及第十八條ニ記載セラレタル條件違反ノ場合

此際政府ハ契約中止前一ヶ月ノ間隔ヲ以テ書面ニヨリ二回ノ通告ヲ發セザルヘカラス

是等ノ場合ニ於テ利権企業ハ契約中止ニ際シ存在スル状態ニ於テ本契約第三十一條ノ條件ヲ守リ無償ニテ政府ニ移轉スルモノトス

政府ハ本條項ニ從ヒ利権ヲ中止セシメテ前條ノ條件違反ニヨリ政府ニ蒙ラシメタル損害賠償ヲ利権者ニ要求シ且何時ニテモ右契約違反行爲ヲ排除シ要求スル權利ヲ保留ス

第三十四條 政府ハ本契約違反ニヨリ蒙リシ損害ヲ利権者ニ請求スルノ權利ヲ有ス

第三十五條 本契約並ニ附屬書及補足書ノ解釋及實行ニ關シ政府並ニ利権者間ノ總テノ爭議及不一致ハソヴィエト一社會主義共和國聯邦最高法院ニ於テ決定スルモノトス利権者並ニ第三者例ハ八國機關、一コミラチトゾ一其他ノ機關及個人トノ間ニ於ケル私權ノ性質ヲ帶ヒタル爭議ハ通常ノ方法ニヨリソヴィエト一社會主義共和國聯邦裁判機關之ヲ決定ス

本條ハ相互ノ合意ニヨリ兩者間ノ爭議解決ヲ仲裁々例ニ付スル權利ヲ排除スルモノニ非ス

第三十六條 本契約ノ效力發生ノ日ヨリ利権者ハ本契約第十一條ニヨリ政府ヨリ利権者ニ引渡サルル財産ニ對シ本契約第十一條ニ定メラレタル評價ニ從ヒ一ケ年ニ付此財產價額ノ四分ノ割合ヲ以テ借料ヲ政府ニ仕拂フモノトス  
借料ハ各作業年度終了後三ヶ月以内ニ浦潮斯德ニ於ケルソヴィエト一社會主義共和國聯邦國立銀行支店ニ納入スルモノトス

二九

第三十七條 本利權契約ハ利權地域内ニ於テ發見セルルコト有ルヘキ石炭以外ノ有用ナル埋藏物ノ採掘權利ヲ利權者ニ許與スルモノニ非ス

第三十八條 本契約ハ不定金額契約トシテ一九二三年國家印紙稅法適用ニ關スル命令第十三條イ項ニ從ヒ普通印紙稅ヲ仕拂フモノトス

本契約ニ依ル比例印紙稅ハ本契約調印ニ際シ正確ニ決定シ得ル報償金並ニ毎年年度終了後利權者ヨリ政府ニ仕拂フヘキ其他ノ仕拂金ニ對シ計算セラルルモノトス  
毎年仕拂ハルヘキ比例印紙稅ハ本契約第十四條ニ約定シタル報償仕拂ト同時ニ利權者ニヨリ一ソツイエト一社會主義共和國聯邦國立銀行當該地方支店ニ納入スルモノトス

第三十九條 契約原本ハ一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民委員會總務部ニ保存シ利權者ニハ一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民委員會書記官ノ保證シタル契約寫本ヲ交附ス

第四十條 一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民委員會ノ全權者及利權全權者ニヨ

リ契約調印ノ日ヲ以テ本契約ノ效力發生ノ日ト定ム

第四十一條 政府ノ法律上ノ宛名

莫斯科市一マーラヤ・ドゥミートロヴカ一街十八番地一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民委員會ニ屬スル利權委員會本部トス

利權者ノ法律上ノ宛名

一アレクサンドロヴスター市一バリシヤヤ・アレクサンドロヴスカヤ一街二十二番地北一サガレンニ石炭企業組合トス

右指定ノ宛名ハ兩者ノ爲義務的ノモノニシテ右住所宛ニ發送セラレタル總テノ信書ハ受取人ノ受取ノ證有ルトキハ交付サレタルモノト看做サル

兩者共住所變更ニ際シテハ文書ヲ以テ遲滞ナク通知スル義務有ルモノトス  
一九二五年十二月八日付(議事録第三百三十四號第二項)決議ニヨリ一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民委員會ノ委任ニ基キ

一ソツイエト一社會主義共和國聯邦人民經濟最高會議議長

北「サガレン」石炭企業組合代表者

奥村政雄

エフ・ゼルヂンスキー

三三

一九二五年十二月八日付（議事録第百三十四號第二項）決議ニヨリ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會ノ委任ニ基キ本契約書ヲ蠟緘ス  
外務人民委員代理

エム・リツトヴィーノヴ

契約書原本ニ對シ一留六十五哥ノ收入印紙ヲ仕拂ヘリ  
右原本ト相違ナシ

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦人民委員會書記官

エル・ソオーチエヴァ



收入印紙  
一留六十五哥  
一九二五年十二月二十二日消印



附

北樺太鑛業株式會社ニ對スル利權讓渡許可書

第八四三二六二二號

北サガレン石炭企業組合 御中

利權委員會本部ハ一九二七年二月十五日附USSR人民委員會會議ニ於テ左記決定ヲ爲セルコトヲ御通知申上候

議定書第二〇三號第四四

北サガレン石炭企業組合ニ對シ一九二五年十二月十四日附利權契約ヲ株式會社「北樺太鑛業株式會社」ニ讓渡スル事ヲ許可ス

一九二七年二月二十四日

利權委員會本部長代理ステプンオウイチ

三四

北京條約  
利權契約  
追加契約  
追加契約

(二千平方露里試掘地域)

(試掘期限延長及狹小地域)

北樺太石油株式會社

国立公文書館	
排架番号	2 A 1
	別 241
	6の参考資料

北  
京  
條  
約

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ムコトノ目的  
トスル帝國會社ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

攝 政 名

大正十四年三月三十日

内閣總理大臣	子爵	加藤高明
農商務大臣	高橋是清	
外務大臣	男爵	幣原喜重郎
司法大臣	小川平吉	

法律第三十七號

條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ムコトノ目的トスル帝國會社ニ付テハ  
勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

附 則

本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕大正十四年法律第三十七號條約ニ基ク外國トノ利權契約ニ依リ外國ニ於テ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國會社ニ關スル法律ノ施行期日ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十五年三月五日

內閣總理大臣

若 槻 禮 次 郎

外務大臣

男 爵 幣 原 喜 重 郎

司法大臣

江 木 翼

商工大臣

片 岡 直 温

勅令第八號

大正十四年法律第三十七號ハ大正十五年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕日本國及ソヴィエト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書(乙)ニ基ク利權契約ニ依リ北權太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

攝政 名

大正十五年三月五日

內閣總理大臣

若 槻 禮 次 郎

商工大臣

片 岡 直 温

勅令第九號

第一條 日本國及ソヴィエト社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約關係議定書(乙)ニ基ク利權契約ニ依リ北權太ニ於テ石油又ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル帝國株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二條 會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款及事業目論見書ヲ具シ商工大臣ニ會社設立ノ免

許ヲ申請スヘシ

前項ノ免許ノ申請ニハ株式申込證ノ謄本ヲ添付スヘシ

第三條 株式ハ記名式トシ帝國國民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニシテ議決權ノ過半數  
カ外國人若ハ外國法人ニ屬セサルモノニ非サレハ之ヲ所有スルコトヲ得ス

第四條 定款變更、合併、及解散ノ決議並重要財産ノ讓渡ハ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ重要財産ノ範圍ハ商工大臣之ヲ指定ス

第五條 會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ收支豫算ヲ添ヘ商工大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
事業計畫ヲ變更セムトスルトキ亦前項ニ同シ

第一項ノ認可ノ申請ハ營業年度開始三月前ニ之ヲ爲スヘシ  
但初營業年度ニ於テハ會社ノ設立登記後二月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ位置及深度ヲ指定シテ試験ヲ命シ其他事業計畫ノ  
變更ヲ命スルコトヲ得

第七條 會社ノ採取シタル石油ニ付テハ政府ハ時價ヲ標準トシ優先シテ之ヲ購入スルコトヲ得

第八條 會社ノ採取シタル石油ノ購入ニ付テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第九條 政府ノ北權太ニ於ケル財産ヲ會社ニ對シテ讓渡スル場合ニ於テハ其ノ代價ハ會社ノ設

立登記後四年日以後ニ於テ其配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ達シ一年百分ノ拾ノ割  
合ヲ超過シタル年ノ翌年ヨリ起算シ拾年以内ニ於テ之ヲ年賦償還セシムルコトヲ得

第十條 會社ハ商工大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ利益金ノ處分スルコトヲ得ス

第十一條 每營業年度ニ於テ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ拾五ノ割合  
ヲ超過スルトキハ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

但シ當該營業年度ヲ除キ其ノ前三年ニ包含セラルル營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ利益金額  
(該利益金額中政府ニ納付シタル金額アルトキハ之ヲ控除ス)ヲ通算シ拂込資本金額ニ對シ  
一年百分ノ拾五ノ割合ニ達セサルトキハ其ノ不足額ヲ當該營業年度ニ於ケル配當シ得ヘキ利  
益金額ヨリ控除シ其ノ殘額カ拂込資本金額ニ對シ一年百分ノ拾五ノ割合ヲ超過スル場合ニ限  
リ會社ハ該超過額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スヘシ

第十二條 會社ハ定時總會開會前ニ財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、收支決算  
書及株主名簿ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第十三條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ノ業務若ハ財産ノ狀況ノ報告ヲ命シ又ハ官吏

ヲシテ之ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 商工大臣ハ會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十五條 商工大臣ハ會社ノ決議法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ其ノ決

議ヲ取消スコトヲ得

商工大臣ハ取締役ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ若ハ公益ヲ害スト認メタルトキ又ハ取締役商

工大臣ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條 第五條第六條第九條及第十條ノ規定ハ石炭ノ掘採ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トス

ル會社ニ關シテハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正十五年三月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員カソツイエト

社會主義共和國聯邦全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國及ソツイエト「社會主義共和國聯邦

間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ關係議定書ト共ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 嘸

攝 政 名

大正十四年二月二十七日

內閣總理大臣 子爵 加藤 高明  
外務大臣 男爵 幣原 喜重郎

條約第五號

日本國及ソツイエト「社會主義共和國聯邦

間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約

日本國及「ソツイエト」社會主義共和國聯邦ハ兩國間ニ善隣及經濟的協力ノ關係ヲ促進セムコ  
トヲ希望シ右關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全  
權委員ヲ任命セリ

支那共和國駐劄特命全權公使 從四位勳一等 芳澤 謙吉

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ中央執行委員會

支那共和國駐劄大使 レフ・ミハイロヴィチ・カラハン

右各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條

兩締約國ハ本條約ノ實施ト共ニ兩國間ニ外交及領事關係ノ確立セララルヘキコトヲ約ス

第二條

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ハ千九百五年九月五日ノ「ボーツマス」條約カ完全ニ效力ヲ存續スルコトヲ約ス

千九百十七年十一月七日前ニ於テ日本國ト露西亞國トノ間ニ締結セラレタル條約、協約及協定ニシテ右「ボーツマス」條約以外ノモノハ兩締約國ノ政府間ニ追テ開カルヘキ會議ニ於テ審査セラ ルヘク且變化シタル事態ノ要求スルコトアルヘキ所ニ從ヒ改訂又ハ廢棄セラレ得ヘキコトヲ約ス

第三條

兩締約國政府ハ本條約實施ノ上ハ千九百十七年ノ漁業協約ノ締結以後一般事態ニ付發生シタルコトアルヘキ變化ヲ考量シ右漁業協約ノ改訂ヲ爲スヘキコトヲ約ス

右改訂協約ノ締結ニ至ル迄ノ間「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ日本國臣民ニ對スル漁區ノ貸下ニ關シ千九百二十四年ニ確立セラレタル實行方法ヲ維持スヘシ

第四條

兩締約國ノ政府ハ本條約實施ノ上ハ左記ノ原則ニ從ヒ通商航海條約ノ締結ヲ爲スヘク且右條約ノ締結ニ至ル迄ノ間兩國間ノ一般交通ハ右原則ニ依リ往セラルヘキコトヲ約ス

(一) 兩締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他方ノ法令ニ從ヒ、イ、其ノ領域内ニ到リ、旅行シ且居住スルノ完全ナル自由ヲ有スヘク、ロ、身體及財産ノ安全ニ對シ恒常完全ナル保護ヲ享有スヘシ

(二) 兩締約國ノ一方ハ私有財産權並通商、航海、産業及其ノ他ノ平和的業務ニ從事スルノ自由ヲ最廣キ範圍ニ於テ且相互條件ノ下ニ他方ノ臣民又ハ人民ニ對シ自國領域内ニ於テ自國ノ法令ニ從ヒ付與スヘシ

(三) 自國ニ於ケル國際貿易ノ制度ヲ自國ノ法令ヲ以テ定ムルノ各締約國ノ權利ヲ害スルコトナ



ク、兩國ノ通商、航海及産業ヲ成ルヘク最惠國ノ地歩ニ置クハ兩締約國ノ意嚮ナルニ依リ兩締約國ハ兩國間ノ經濟上又ハ其ノ他ノ交通ノ増進ヲ妨クルニ至ルコトアルヘキ禁止、制限又ハ課金ヲ他方締約國ニ對シ差別的ニ行フコトナカルヘキモノトス

又兩締約國ノ政府ハ兩國間ニ於ケル經濟上ノ關係ヲ調整シ且促進スル爲通商及航海ニ關聯スル特別ノ協定ヲ締結スルノ目的ヲ以テ事態ノ要求スル事アルヘキ所ニ從ヒ隨時商議ヲ爲ス事ヲ約ス

### 第五條

兩締約國ハ互ニ平和及友好ノ關係ヲ維持スルコト、自國ノ法權内ニ於テ自由ニ自國ノ生活ヲ律スル當然ナル國ノ權利ヲ充分ニ尊重スルコト、公然又ハ陰密ノ何等カノ行爲ニシテ苟モ日本國又ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ領域ノ何レカノ部分ニ於ケル秩序及安寧ヲ危殆ナラシムルコトアルヘキモノハ之ヲ爲サス、且締約國ノ爲何等カノ政府ノ任務ニ在ル一切ノ人及締約國ヨリ何等カノ財的援助ヲ受クル一切ノ團體ヲシテ右ノ行爲ヲ爲サシメサルコトノ希望及意嚮ヲ嚴肅ニ確認ス

又締約國ハ其ノ法權内ニ在ル地域ニ於テ、イ、他方ノ領域ノ何レカノ部分ニ對スル政府ナリト稱スル團體若ハ集團又ハ、ロ、右團體若ハ集團ノ爲政治上ノ活動ヲ現ニ行フモノト認めラルヘキ

外國人タル臣民若ハ人民ノ存在ヲ許ササルヘキコトヲ約ス

### 第六條

兩國間ノ經濟上ノ關係ヲ促進スル爲又天然資源ニ關スル日本國ノ需要ヲ考量シ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ一切ノ領域内ニ於ケル鑛産、森林及其ノ他ノ天然資源ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國ノ臣民、會社及組合ニ許與スルノ意嚮ヲ有ス

### 第七條

本條約ハ批准セララルヘシ

各締約國ノ右批准ハ成ルヘク速ニ其ノ北京駐劄外交代表者ニ由リ他方ノ政府ニ通知セララルヘク且本條約ハ右通知中後ニ爲サレタルモノノ日ヨリ完全ニ實施セララルヘシ

批准書ノ正式交換ハ成ルヘク速ニ北京ニ於テ行ハルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本條約一通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉 (印)

エル・カラハン (印)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
 朕大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員カ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全  
 權委員ト共ニ署名調印シタル日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本  
 的法则ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ加納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十五年大正十四年二月二十五日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ嘸ヲ鈴  
 セシム

御名 御 嘸  
 攝政 名  
 外務大臣 男 爵 幣 原 喜 重 郎

議 定 書 (甲)

日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ハ兩國間ノ關係ヲ律スル基本的法则ニ關スル條約  
 ニ本日署名スルニ當リ同條約ニ關聯スル諸問題ヲ規定スルノ有益ナルコトヲ認メ其ノ各全權委員  
 ニ由リ左ノ諸條ヲ協定セリ

第 一 條

各締約國ハ他方ノ大使館及領事館ニ屬スル動産及不動産ニシテ自國ノ領域内ニ現存スルモノヲ  
 右他方ニ引渡スコトヲ約ス  
 東京ニ於テ前露西亞國政府ノ占有シタル土地カ東京ノ都市計畫又ハ公共ノ目的ノ爲ニスル事業  
 ニ對シ支障ト爲ルカ如キ位置ニ在リト認メラルル場合ニ於テハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦  
 邦政府ハ右支障除去ノ爲日本國政府ノ爲スコトアルヘキ提議ヲ考慮スルノ意嚮アルモノトス  
 「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ領域内ニ設置  
 セラルヘキ日本國大使館及領事館ニ對スル相當ノ敷地及建物ノ選定ニ付一切ノ適當ナル便益ヲ日  
 本國政府ニ與フヘシ

第 二 條

前露西亞國政府即チ露西亞帝國政府及之ヲ繼承シタル臨時政府ノ發行シタル公債及國庫證券ニ依リ日本國ノ政府又ハ臣民ニ對シテ負ヘル債務ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於ケル調整ニ留保セラルルコトヲ約ス

尤モ右問題ノ調整ニ當リ日本國ノ政府又ハ臣民ハ一切ノ他ノ條件ニシテ均シキニ於テハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府カ同様ノ問題ニ付他ノ何レノ國ノ政府又ハ國民ニ與フルコトアルヘキモノヨリモ不利益ナル地位ニ置カルルコトナカルヘシ又締約國ノ一方ノ政府ノ他方ノ政府ニ對スル請求權又ハ締約國ノ一方ノ國民ノ他方ノ政府ニ對スル請求權ニ關スル一切ノ問題ハ日本國政府ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府トノ間ノ將來ノ商議ニ於ケル調整ニ留保セラルルコトヲ約ス

第三條

北「サガレン」ニ於ケル氣候ノ狀態カ現ニ同地方ニ駐屯スル日本國軍隊ノ即時本國輸送ヲ妨クルニ鑑ミ右軍隊ハ千九百二十五年五月十五日迄ニ同地方ヨリ完全ニ撤退セラルヘシ  
右撤退ハ氣候ノ狀態カ之ヲ許スニ至ラハ直ニ開始セラルヘク且日本國軍隊ノ撤退シタル北「サガレン」ノ總テノ地方ハ直ニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ當該官憲ニ完全ナル主權ヲ於

テ還付セラルヘシ

行政ノ引渡及占領ノ終了ニ關スル細目ハ「アレクサンドロウスク」ニ於テ日本國古領軍司令官ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦代表者トノ間ニ協定セラルヘシ

第四條

兩締約國ハ其ノ一方カ何レカノ第三國ト締ヒタル軍事同盟ノ條約若ハ協定又ハ其ノ他ノ秘密協定ニシテ他方締約國ノ主權、領土權又ハ國家的安全ニ對スル侵害又ハ脅威ト成ルヘキモノノ現ニ存在セサルコトヲ互ニ聲明ス

第五條

本議定書ハ同日附ヲ以テ署名セラレタル日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ  
千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉(印)

エルクカラハン(印)

兩締約國ハ日本國ト「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦トノ全權委員間ニ本旨署名セラレタル議定書(甲)第三條ニ規定セラレタル所ニ從ヒ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ締結セラルヘキ利權契約ニ對スル基礎トシテ左ノ如ク協定セリ

一、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ日本國代表者ニ依リ千九百二十四年八月二十九日聯邦ノ代表者ニ交付セラレタル覺書ニ記載セラルル北「サガレン」ニ於ケル油田ノ各ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス

右開發ノ爲日本國當業者ニ貸付セラルヘキ地積ヲ決定スルノ目的ヲ以テ右油田ノ各ハ各十五乃至四十「デシアテイン」ノ基準日方形ニ區分セツルヘク且全地積ノ五割ニ相當スル右方形ノ數ハ日本人ニ割當テラルヘシ但シ右日本人ニ貸付セラルヘキ方形ハ原則トシテ相隣接スヘカラサルモ日本人ノ現ニ掘鑿スルハ作業中ナル一切ノ坑井ヲ包含スヘキモノトス右覺書ニ記載セラルル油田中貸付セラレサル殘餘ノ地積ニ關シテハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府カ右地區ノ全部又ハ一部ヲ外國人ノ利權ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本國當業者ハ右利權ニ關スル事項ニ付均等ノ機會ヲ與ヘラルヘキコトヲ約ス

二、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約締結ノ後一年内ニ選定セラレヘキ一千平方「ヴエルスト」ノ地積ニ亘リ北「サガレン」ノ東海岸ニ於テ五年乃至十年ノ期間油田ヲ調査試験スルコトヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許可スルコトヲ約ス又油田カ日本人ニ依ル右調査試験ノ結果確定セラレタル場合ニ於テハ右確定セラレタル油田ノ地積五割ノ開發ニ對スル利權ハ日本人ニ許與セラルヘシ

三、「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラルヘキ特定ノ地積ニ亘リ北「サガレン」ノ西海岸ニ於テ炭田ノ開發ニ對スル利權ヲ日本國政府ノ推薦スル日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス、又「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ利權契約ニ於テ決定セラルヘキ特定ノ地積ニ亘リ「ドウエ」地方ニ於ケル炭田ニ關スル利權ヲ右日本國當業者ニ許與スルコトヲ約ス、又前二項ニ掲ケラルル特定ノ地積以外ノ炭田ニ關シテハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府カ之ヲ外國人ノ利權ニ提供スルコトニ決スルトキハ日本國當業者ハ右利權ニ關スル事項ニ付均等ノ機會ヲ與ヘラルヘキコトヲ約ス

四、前諸號ニ規定セラルル油田及炭田ノ開發ニ對スル利權ノ期間ハ四十年乃至五十年タルヘシ

五、日本人タル利權取得者ハ右利權ニ對スル報償トシテ炭田ノ場合ニ於テハ其ノ總産額ノ五分

乃至八分ヲ又油田ノ場合ニ於テハ其ノ總額ノ五分乃至一割五分ヲ「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ニ對シ毎年提供スヘシ但シ自噴油井ノ場合ニ於テハ右報償ハ其ノ總産額ノ四割五分迄之ヲ増加スルコトヲ得、報償トシテ提供セラルヘキ産額ノ割合ハ利權契約ニ於テ確定的ニ定メラルヘク且右契約中ニ定メラルヘキ方法ニ依リ年産額ノ率ニ應シ等差ヲ設ケラルヘシ

六、右日本國當業者ハ企業ノ目的ニ要スル木材ヲ伐採スルコトヲ且交通竝物資又生産物ノ運輸ヲ容易ナラシムル爲諸般ノ施設ヲ爲スコトヲ許サルヘシ右ニ關スル細目ハ利權契約ニ於テ定メラルヘシ

七、前記ノ報償ニ鑑ミ又企業カ當該地區ノ地理上ノ位置及其ノ他ノ一般狀態ニ依リ受クヘキ不利益ヲ考慮シ右企業ニ要スル又ハ之ヨリ得タル何等カノ物件物資又ハ生産物ノ輸入及輸出ハ無税ニテ許可セラルヘク且右企業ハ其ノ收益的經營ヲ事實上不可能ナラシムルコトブルヘキ如何ナル課税又ハ制限ヲモ加ヘラルルコトナカルヘキコトヲ約ス

八、「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ右企業ニ對シ一切ノ適當ナル保護及便益ヲ與フヘシ

九、前諸號ニ關聯スル細目ハ利權契約ニ於テ協定セララルヘシ

本議定書ハ同日附ヲ以テ署名セラレタル日本國及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書ニ通ニ署名調印セリ

千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉 (印)

エルクカラハン (印)

告 示

◎外務省告示第二十號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ帝國全權委員ニ左ノ聲明書ヲ手交セリ

大正十四年二月二十七日

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎

聲 明 書

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦及日本國間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ニ本日署名スルニ當リ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員タル下名ハ本國政府ニ於テ千九百十五年九月五日ノ「ボーツマス」條約ノ效力ヲ承認スルコトハ同國政府ニ於テ右條約ノ締結ニ付前帝政府ト政治上ノ責任ヲ分ツコトヲ何等意味セサルコトヲ聲明スルノ光榮ヲ有ス

千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

エル・カラハン (印)

◎外務省告示第二十一號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權委員トノ間ニ左ノ公文ヲ交換セリ

大正十四年二月二十七日

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎

交 換 公 文

(來 翰)

以書翰啓上致候陳者本官ハ日本國ノ全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員ニ手交セラレタル覺書ニ記載セラレタル油田及炭田ニ付北「サガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ實行中ナル作業ハ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ行ハルヘキ利權契約ノ締結ニ至ル迄續行セラルヘキコトニ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ聲明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記條

件ハ日本人ニ依リテ遵守セラルヘキモノニ候

- 一、作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覺書ニ掲ケラレタル地區、使用セラルル労働者及専門家ノ數、機械並其ノ他ノ條件ニ關シテハ右覺書ノ記載事項ニ嚴ニ準據シテ續行セラルヘシ
  - 二、石油及石炭ノ如キ產出物ハ之ヲ輸出シ又ハ販賣スルコトヲ得ス右作業ニ關係アル従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ
  - 三、「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ許與セラレル作業續行ノ許可ハ將來ノ利權契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ホササルヘシ
  - 四、北「サガレン」ニ於ケル日本國無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ將來ノ協定ニ留保セラルヘク且私人及外國人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ現存法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラルヘシ
- 本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具
- 千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

日本國特命全權公使 芳澤謙吉 閣下

エ ル ・ カ ラ ハ シ

(往 頼)

以書翰啓上致候陳者本官ハ閣下ヨリノ本日附左記ノ書翰ヲ領承スルノ光榮ヲ有シ候

- 本官ハ日本國ノ全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員ニ手交セラレタル覺書ニ記載セラルル油田及炭田ニ付北「サガレン」ニ於テ現ニ日本人ノ實行中ナル作業ハ日本國軍隊カ北「サガレン」ヨリ完全ニ撤退シタル日ヨリ五月内ニ行ハルヘキ利權契約ノ締結ニ至ル迄續行セラルヘキコトニ「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ニ於テ同意スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ聲明スルノ光榮ヲ有シ候但シ左記條件ハ日本人ニ依リテ遵守セラルヘキモノニ候
- 一、作業ハ千九百二十四年八月二十九日ノ覺書ニ掲ケラレタル地區、使用セラルル労働者及専門家ノ數、機械並其ノ他ノ條件ニ關シテハ右覺書ノ記載事項ニ嚴ニ準據シテ續行セラルヘシ
  - 二、石油及石炭ノ如キ產出物ハ之ヲ輸出シ又ハ販賣スルコトヲ得ス右作業ニ關係アル従業員及裝備ノ用ニ限り之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ
  - 三、「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ許與セラルル作業續行ノ許可ハ將來ノ利權契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ホササルヘシ

四、北「サガレン」ニ於ケル日本國無線電信所ノ運用ニ關スル問題ハ將來ノ協定ニ留保セラレ  
ヘク且私人及外國人ノ無線電信所設置ヲ禁止スル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ現存  
法令ニ合致スル方法ニ於テ調整セラレヘシ本國政府ノ名ニ於テ本官ハ日本帝國政府ハ右書翰  
ニ全然同意ナル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ

芳 澤 謙 吉

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦大使

「レノ・ミハイロヴィチ・カラハン」閣下

◎外務省告示第二十二號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和  
國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本の法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエト」社會主義共和  
國聯邦全權委員ヨリノ左ノ附屬公文ヲ受領セリ

大正十四年二月二十七日

外務大臣 男 爵 幣 原 喜 重 郎

附 屬 公 文

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦及日本國間ノ關係ヲ律スル基本の法則ニ關スル條約ニ本  
署名スルニ當リ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ全權委員タル下名ハ茲ニ日本國政府ニ對シ  
千九百二十年ノ「ニコラエウスケ」事件ニ對スル誠實ナル遺憾ノ意ヲ表スルノ光榮ヲ有シ  
千九百二十四年一月二十日 北京ニ於テ

エ ル ・ カ ラ ハ ン

◎外務省告示第二十三號

大正十四年一月二十日支那國北京ニ於テ帝國全權委員ハ日本國及「ソヴィエト」社會主義共和  
國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本の法則ニ關スル條約ノ署名調印ニ際シ「ソヴィエト」社會主義共和  
國聯邦全權委員ト共ニ左ノ署名議定書ニ署名調印セリ

大正十四年二月二十七日

外務大臣 男 爵 幣 原 喜 重 郎

署 名 議 定 書

支那國駐劄日本國特命全權公使芳澤謙吉及支那國駐劄「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦大使



「レフ・ミハイロヴィチ・カラハン」ハ良好妥當ト認メラレタル各自ノ全權委任狀ニ基キ本日北  
 京ニ會合シテ左ノ文書ヲ審査セリ

- 一、日本國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約
- 二、議定書二一通
- 三、聲明書一通
- 四、交換公文一件
- 五、附屬公文一通

全權委員ハ右文書ニ掲ケラレタル總テノ用語及條項ニ同意シタルヲ以テ正式ニ各文書ニ署名調  
 印セリ

尙兩全權委員ハ日本國全權委員ニ依リ千九百二十四年八月二十九日ソヴィエト社會主義共和  
 國聯邦全權委員ニ手交セラレ且日本人カ北「サガレン」ニ於テ作業中ナル油田及炭田ノ狀態ニ關  
 スル説明ヲ掲ケタル覺書ヲ本議定書ニ添附スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩締約國ノ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テシタル本議定書二一通ニ署名調印セリ  
 千九百二十五年一月二十日 北京ニ於テ作成ス

芳澤謙吉(印)  
 エル・カラハン(印)

千九百二十四年八月二十九日日本代表者ニ  
 依リ聯邦ノ代表者ニ交附セラレタル覺書

石油試掘作業

此等試掘作業ハ政府ノ爲ニ株式會社北辰會ニ依リテ行ハレ居レリ

作 用	位 置	地 積	試 掘 井
「オ」	「オハ」河ノ流域ニ於テ「ウルクト」湖ノ西二哩半	「エーカ」 二、五〇〇	四
「エ」	「エハビ」湖ノ西一哩	一、六〇〇	ナシ
「ビ」	「ベルトウン」河ニ沿ヒ「キヤツクル」湖ノ南西六哩	一、二〇〇	ナシ
「ト」	「メトヴオ」河口ヨリ西五哩	二、五〇〇	一
「サ」	「ボアタシン」河ニ沿ヒ「チアイヴオ」湖ノ西三哩	一、三〇〇	一
「イ」	「ノグリツク」河(「トウイミ」河ノ支流)ノ流域ニ於 テ「マイヴオ」湖ノ西七哩	一、六〇〇	一
「ウ」	「トウイミ」河ノ流域ニ沿ヒ同河ノ河口ノ南三哩	八〇〇	ナシ
「カ」	「ナビリスキー」湖ノ北「カタングリ」湖ノ岸	一、六〇〇	一

三、使用セラルル専門家 二〇

労働者 四〇〇 (夏季)

四、機 械

「ハイドロリック・ロータリ」式

「スタンダード・ケーブル」式

「ダイアモンド・ボーリング」式

「スプリング・ボーリング」式 (人力ニヨルモノ)

三 深 掘 用

二 浅 掘 用

五、設 備

イ、通 信 用 各所ノ作業ヲ連絡スル電話線「オハ」及「チアイヴオ」ニ於ケル無線

電信所

ロ、運 搬 用 舢舨及傳馬船十二隻ノ外各所ノ作業ヲ連絡スル爲夏季使用セラルル小型

蒸汽船一隻及發動機船數隻

ハ、建 設 物

職員及労働者用家屋	三〇	一	二	七	八	六	一	一五
掘 鑿 用 機	一	三	三	一	一	二	二	一
機 關 場	六	三	一	一	一	一	一	一
貯 油 所 (土製)	三	三	一	一	一	一	一	一
燃料油タンク (鋼製)	四	三	一	一	一	一	一	一

六、輕 便 鐵 道 ナシ

「ウルクト」灣ト「オハ」ニ於ケル工場トノ間二哩半ニ亘ル「トロツコ」線及「カタング

リ」ト「ナビル」トノ間約三哩ニ亘ル他ノ「トロツコ」線

七、石 油 ノ 輸 出 ナシ

炭 坑 作 業

一、作 業 者

「ドゥーエ」鑛山 三菱會社ハ占領軍ノ爲ニ作業シ居レリ

「ロガトウイ」鑛山 「スタヘエフ」會社及三菱會社カ合同事業トシテ作業シ居レリ

二、鑛山ノ位置

三〇

「ドゥーエ」鑛山 海ニ近キ「ポストウアヤ」ノ流域ニ於テ「アレクサンドロウスク」港ノ南約六哩、現ニ作業中ノ水平坑ハ二、但シ堅坑ナシ、千九百二十三年ノ産額約五萬噸  
「ロガトウイ」鑛山 海ニ面シ「アレクサンドロウスク」港ノ南約十哩、現ニ作業中ノ坑二、堅坑ナシ、千九百二十三年ノ産額約三萬噸

三、専門家及勞働者ノ數

「ドゥーエ」鑛山 専門家 勞働者  
五 約二〇〇  
「ロガトウイ」鑛山 三 約一五〇

(右數ハ夏季ノモノトス)

四、機械

「ドゥーエ」鑛山ニ於テハ小型機關車ハ石炭ノ運搬ノ目的ノ爲ニ使用セラル

「ロガトウイ」鑛山ニ於テハ機械ヲ使用セス採掘及運搬ハ人及馬ニ依リテ行ハレ居レリ

五、建設物

「ドゥーエ」鑛山ヨリ海岸ニ至ル一哩強ノ「トロツコ」線及「ロガトウイ」ニ於ケル四分ノ一

哩弱ノ他ノ「トロツコ」線ヲ除キ炭坑用ニハ特殊ノ建設物ナシ

六、輸送

「ドゥーエ」鑛山ノ産額ハ占領軍及占領區域内ノ住民ニ依リ消費セラレ島外ニ搬出セラルルモノナシ

「ロガトウイ」鑛山ノ産額ノ約三萬噸ハ三菱及「スタヘエフ」ニ依リテ千九百二十三年ニ輸出セラレタリトノコトナリ

芳澤謙吉

外務省告示第二十四號

帝國政府ハ本年一月二十日支那國北京ニ於テ署名調印セラレタル日本國及「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦間ノ關係ヲ律スル基本的法則ニ關スル條約カ本年二月二十五日御批准濟ノ旨ヲ同月二十六日在支芳澤公使ヲ通シ「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦政府ニ通知シ又同聯邦政府ハ同條約カ本年二月二十日同聯邦政府ニ依リ批准セラレタル旨同月二十六日在支「カラハン」大使

利  
權  
契  
約

ヲ通シ帝國政府ニ通知シタリ  
大正十四年二月二十七日

外務大臣 男 幣原 喜重郎

利 權 契 約

千九百二十五年十二月十四日莫斯科市ニ於テ。一方「ソヴィエト社會主義共和國聯邦(ソ聯邦)政府(以下單ニ政府ト稱ス)ハ千九百二十五年十二月八日付ソ聯邦人民委員會ノ決定(プロトコール第百參拾四號第一項)ニ基キテ行動スル最高國民經濟會議々長」フエリクス・エド・ムンドヴィイチ・ヂエルヂンスキーニ依リ代表セラルル最高國民經濟會議ヲ通シ又他方ソ聯邦外務人民委員部宛千九百二十五年七月七日附在莫斯科日本國大使ノ通告ニ依リ千九百二十五年一月二十日北京ニ於テ署名セラレタル日本國及ソ聯邦間ノ基本的相互關係ニ關スル條約ノ議定書(乙)ニ規定セララル日本國政府ノ推薦スル當業者タル北「サガレン」石油企業組合(以下單ニ利權者ト稱ス)ハ同組合代表者ニシテ且ツ同組合ノ名ニ於テ實際ニ本契約ニ署名スルノ權限ヲ有スル旨證明シタル千九百二十五年十二月五日附在莫斯科日本國大使發給ノ證明書第四號ニ基キ行動スル中里重次ヲ通シ左記條件ヲ以テ鑛業企業ノ利權ニ關スル本契約ヲ締結セリ

第 一 條

ソヴィエト社會主義共和國聯邦政府ハ一般法令ノ例外トシテ且本契約ノ範圍内ニテ本契約所定ノ地域ニ於テ鑛山試掘、鑛業及其等ノ附帶事業ヲ行ヒ且之ニ依リテ利益ヲ取得スルノ權利ヲ利

權者ニ許與ス

右目的ヲ以テ政府ハ本契約ニ指示セラレタルソ聯邦所屬ノ財産ヲ本契約ノ期間及條件ヲ以テ利權者ノ利用ノ爲メ引渡シ且本契約ノ條件ヲ遵守シテ新設備ヲ爲シ及之ヲ使用スルノ權利ヲ利權者ニ許與ス

利權者ハ本契約ニ依リ利權者ニ許與セラレタル權利及特權ノ範圍内ニ於テ行動シ且整備セル産業的及商業的企業ニ適スルカ如ク自己ノ事業ヲ經營シ以テ本契約所定ノ一切ノ自己ノ義務ヲ履行スルモノトス

## 第 二 條

本契約中別段ノ規定ナキ限り利權者ハソ聯邦ノ領域ニ於テソ聯邦現行ノ又ハ將來發布セララルコトアルヘキ法令及右法令ニ基キ行動スル官憲ノ指令ニ從フヘシ

## 第 三 條 (註)參照

利權者ハ本契約履行ノ爲メ契約中別段ノ規定ナキ限りソ聯邦ノ一般法令ニ從ヒテ商行為ヲ行ヒ財産ヲ貸借シ取得シ及處分シ裁判上ノ原告又ハ被告トナルノ權利ヲ有シ且法人ノ爲スヘキ決算公告ニ關スルソ聯邦ノ一般法令ニ從フト共ニ一般ニ法人トシテノ權利ヲ行使スルノ權利ヲ有ス

### (註) 第三條關係(決算公告ニ關スル問題)

利權本部ハ擇太ニ於テ記入サルル會社ノ帳簿ニハソ聯邦内ニテ行ハルル一切ノ利權事業ヲ包含スヘキモノト思考ス、依テ労働者ニ對スル供給、設備ノ輸入、資本ノ投下其他ニ關スル如キ行為ハソ聯邦ニ於ケル利權企業ノ帳簿ニ記入サルヘキモノトス。石油ノ販賣、資本ノ募集、貸借人トノ關係外國ニ於ケル従業員労働者ノ支拂其他ニ關シテ外國ニ於テ行ハルル會社ノ行為ハソ聯邦領域外ニ於テ起ルモノナルニ付擇太ニ於テ記入サルル企業ノ帳簿ニハ包含ノ必要ナキハ勿論ナリトス。本説明ニ適應シテ利權本部ハ會社ガ提出ヲ要スヘキ決算報告ノ様式ノ正確ナル列記表ヲ財政機關ニ通知スヘシ——一九三〇年二月十六日附利權本部説明——利權本部ハ會社ヨリ次ノ如キ決算公告様式ヲ免レ得ルモノト認ム

- 1、第六號様式
  - 2、第七號様式
  - 3、第九號様式
  - 4、第一〇號様式
  - 5、第一一號様式
  - 6、第一五號様式
  - 7、第一八號様式
- 之ヲ同時ニ利權本部ハ次ノ様式ノ決算ハ會社之ヲ提出ノ義務アルモノトス
- 1、バランスシート
  - 2、第一號様式

- 3、第二號樣式
- 4、第三號樣式
- 5、第四號樣式
- 6、第五號樣式
- 7、第八號樣式
- 8、第一二號樣式
- 9、第一三號樣式
- 10、第一四號樣式
- 11、第一六號樣式
- 12、第一七號樣式

一九三〇年三月三十一日附利權本部說明

第四條

本契約ニ依リ利權消滅後政府ニ引渡サルヘキ利權企業ヲ組成スル財産ハ之ヲ處分シ擔保ニ供シ又ハ利權者ノ債權者請求ノ目的トナスコトヲ得ス  
 鑛場ノ修理、改造又ハ其設備補充ニ依リ古機械設備用品又ハ諸材料カ不用トナリタルトキハ該物件ハ利權者ノ完全ナル支配ニ移リ利權者ハ豫メ政府ニ通告スルノ條件ヲ以テ之ヲ處分シ並關稅及特許手数料ヲ支拂フコトナク外國ニ輸出スルコトヲ得

第五條

本條ノ規定ハ現存スル設備並利權者カ新ニ輸入スヘキ設備ノ何レニモ適用ス  
 利權企業ヲ組成スル財産ハ徵發沒收又ハ其他強制處分ヲ受クルコトナシ。但シ利權者ハ戰時ニ於ケル軍用徵發ニ關スル一般規定ニ從フヘク右徵發ハ正當ニ補償サルヘキモノトス  
 利權者ハ又交通及通信線ノ必要上行ハルル土地收用ニ關スル法令及規則ニ從フヘシ  
 本條ハソ聯邦ニ於ケル現行ノ租稅郵便及稅關ニ關スル一般の法令ニ基キテ行ハルル徵收手續ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第六條

本利權契約ノ効力發生後ソ聯邦ノ中央又ハ地方官憲ノ法令其他ノ決定又ハ指令ニシテ本契約ニ依リ利權者ニ屬スル權利ヲ制限シ又ハ無効ナラシムルモノアリタルトキハ之ニ依リテ生スル利權者ノ一切ノ損害ハ政府之ヲ賠償スルモノトス  
 右規定ハ第四十條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外政府ノ一方的行爲ヲ以テスル利權契約ノ期限前ノ廢止又ハ變更ヲ意圖スルモノニ非ス

第七條

本契約實施ノ全期間中利権企業ハ利権者ノ獨占的經濟的使用及管理ニ屬スヘシ。但政府ハ其權限アルモノヲシテ利権者ノ生産的及商業的行爲ヲ監視セシムルノ權利ヲ保留ス。然レ其政府代表者ハ右監視中利権者ノ生産的經濟的行爲カソ聯邦ノ法令若クハ利権契約ノ規定ニ違反セサル限リ上記行爲ニ干渉スルコトヲ得ス

第八條

利権者ハ政府ヨリ派遣セラレヘキ地質學者、技師及技手ニ對シ利権企業ニ於ケル生産ヲ研究スルコトヲ許容スルノ義務ヲ有ス。尙利権者ハ千九百二十三年五月二十二日附法令(千九百二十三年度政府法令第四十九號第四百八十四條)ノ規定ニ基キソ聯邦ノ諸高等技術學校ノ學生及卒業期ニアル者ヲ實習ノ爲メ毎年自己ノ企業ニ於ケル作業ニ採用スルノ義務ヲ有ス

第九條

利権者ハ本契約ノ效力發生ノ日ヨリ一ケ年内ニ株式會社ヲ設立スルノ義務ヲ有ス。利権者ハ該會社ニ對シ本契約ヨリ生スル一切ノ權利及義務ヲ引繼クモノトス。前記引繼ハ政府ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス。但該認可ハ日本國政府カ設立セラルヘキ會社ヲ推薦スルコトヲ條件トシテ與ヘラルヘキモノトス

右ノ外利権者及將來ニ於テ設立セラルヘキ株式會社ハ本契約ヨリ生スルソノ權利及義務ノ全部又ハ一部ヲ政府ノ許可ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ第三者ニ引繼クコトヲ得ス

第十條

政府ハ利権者ニ對シ本契約ニ掲クル期間及條件ヲ以テ北樺太東海岸油田ノ左記鑛區ニ於テ石油「キール」及可燃瓦斯ノ産業的試掘及採掘ノ獨占的權利ヲ許與ス

一、「オハ」油田區域

總面積九二五「デシヤテイン」。本區域ハ三〇鑛區ニ分割セラレ共ノ中二〇鑛區(正方形)ハ各三五「デシヤテイン」ニシテ、計七〇〇「デシヤテイン」又一〇小鑛區ハ各二二・五「デシヤテイン」ニシテ、計二二五「デシヤテイン」。總計九二五「デシヤテイン」トス。五小鑛區ハ本區域ノ西側ニ他ノ五小鑛區ハ東側ニ在リ。本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハ「ロクター」式第壹號井トシ同井ヨリ座標ニ沿フテ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄五九二・一六「サージエン」南方境界迄八五六・九九「サージエン」東方境界迄七三八・二二「サージエン」及西方境界迄七九三・七二「サージエン」。「ロクター」式第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利権者ニ提供セラル



右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ利權者ニ提供セラル。網式第壹號井カ右分割ニ際シ政府ニ屬スヘキ鑛區ニ入ルコトナルモ北京條約ニ基キ本條ニ掲クル八油田區域内ニ存在スル一切ノ日本坑井ハ日本側ノ區域ニ包含セラルヘキモノナルヲ以テ兩當事者ノ同意ニ依リ左ノ交換ヲ行ヘリ。即チ本區域ノ西方境界ヨリ小鑛區ノ列ヲモ算入シテ第三列目及同區域ノ北方境界ヨリ第三列目ニ位スル網式第壹號井ヲ含ム鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシメ共代リトシテ前記鑛區ノ西方（隣接スル）ニ並列シ且本區域ノ西方境界ヨリ小鑛區ノ列ヲモ算入シテ第二列目及本區域ノ北方境界ヨリ第三列目ニ位スル鑛區ハ政府ニ之ヲ屬セシム。上記ニ關聯シテ附圖中ノ赤色ヲ施セル鑛區ハ之ヲ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム。

二、「エハビ」油田區域

總面積五九二「デシヤテイ」。本區域ハ各三七「デシヤテイ」ノ一六鑛區（正方形）ニ分割セラレ計五九二「デシヤテイ」トス。本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハK3ト標記セル上總掘第參號井トシK3ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ。

北方境界迄一五一・二五「サージエン」、南方境界迄二〇四〇・七五「サージエン」、東方境界迄三三〇・五〇「サージエン」及西方境界迄八二二・五〇「サージエン」。

三、「ピリツン」油田區域

總面積四四四「デシヤテイ」。本區域ハ各三七「デシヤテイ」ノ一六鑛區（正方形）ニ分割セラレ計四四四「デシヤテイ」トス。本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハK1ト標記セル上總掘第壹號井トシK1ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ。北方境界迄三三九・二四「サージエン」、南方境界迄八五二・七二「サージエン」、東方境界迄四九七・二二「サージエン」及西方境界迄三九六・七四「サージエン」。K1ト標記セル上總掘第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利權者ニ提供セラル。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム。右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ施セル鑛區ハ之

ヲ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム

四、「ヌトウオ」油田區域

總面積九二五・二〇「デシヤテイン」。本區域ハ各三八・五五「デシヤテイン」ノ二四鑛區（正方形）ニ分割セラレ計九二五・二〇「デシヤテイン」トス

本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハ西部ニ於テハR1ト標記セル「ロータリ」式第壹號井トシR1ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄五六五・八四「サージエン」、南方境界迄二二五九・一八「サージエン」、東方境界迄三八一・六七「サージエン」及西方境界迄二二六・六七「サージエン」。又東部ニ於テハ總面積ノ形狀ヲ決定スルタメノ基點ハK1ト標記セル上總掘第壹號井ニシテK1ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄九八〇・〇「サージエン」、南方境界迄二二六・六七「サージエン」、東方境界迄一〇七・五〇「サージエン」及西方境界迄一四一三・三五「サージエン」、R1ト標記セル「ロータリ」式第壹號井及K1ト標記セル上總掘第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利權者ニ提供セラレ。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム。

五、「チャイウオ」油田區域

右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ以テ施セル鑛區ハ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム

總面積四四四「デシヤテイン」、本區域ハ各二七・七五「デシヤテイン」ノ一六鑛區（正方形）ニ分割セラレ計四四四「デシヤテイン」トス。本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハC1ト標記セル綱式第壹號井トシC1ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄五五八・六四「サージエン」、南方境界迄四七三・六四「サージエン」、東方境界迄四五八・六四「サージエン」及西方境界迄五七三・六四「サージエン」。C1ト標記セル綱式第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利權者ニ提供セラレ。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム。右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ施セル鑛區ハ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利權者ニ屬セシム

六、「ヌイウオ」油田區域

總面積五九二「デシヤテイン」、本區域ハ各三七「デシヤテイン」ノ一六鑛區（正方形）ニ分割セラレ計五九二「デシヤテイン」トス

本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハC1ト標記セル綱式第壹號井トシC1ヨリ座標

ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄五〇七・二五「サージエン」、南方境界迄六八四・七五「サージエン」、東方境界迄五二六「サージエン」及西方境界迄六六六「サージエン」。C1ト標記セル綱式第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利権者ニ提供セラル。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム。右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ施セル鑛區ハ之ヲ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム

七、「ウイグレクトゥイ」油田區域

總面積二九五・九一「デシヤテイン」、本區域ハ各二四・六六「デシヤテイン」ノ二鑛區（正方形）ニ分割セラレ計一九五・九一「デシヤテイン」トス。本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハK2ト標記セル上總掘第貳號井トシK2ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄一七三・二八「サージエン」、南方境界迄五五六・五六「サージエン」、東方境界迄六〇一・五六「サージエン」及西方境界迄三七一・五六「サージエン」K2ト標記セル上總掘第貳號井ヲ含ム鑛區ハ利権者ニ提供セラル。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム。右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ施セル鑛區ハ之ヲ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム

八、「カタンダリ」油田區域

總面積五九二「デシヤテイン」本區域ハ各三七「デシヤテイン」ノ一六鑛區（正方形）ニ分割セラレ計五九二「デシヤテイン」トス

本區域ノ形狀ヲ決定スルニ際シ採リタル基點ハ Notary No. 1ト標記セル「ロータリ」式第壹號井トシ Notary No. 1ヨリ座標ニ沿ヒ本區域ノ境界ニ至ル距離左ノ如シ

北方境界迄九三九「サージエン」、南方境界迄二五三「サージエン」、東方境界迄四六七・二五「サージエン」。及西方境界迄七二四・七五「サージエン」。Notary No. 1ト標記セル「ロータリ」式第壹號井ヲ含ム鑛區ハ利権者ニ提供セラル。右鑛區ヲ基礎トシ西洋將棋式配列（相隣接セサル）ノ一切ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム。右ニ關聯シ附圖中赤色ヲ施セル鑛區ハ之ヲ政府ニ又無着色ノ鑛區ハ之ヲ利権者ニ屬セシム

備考一 實地ニ於ケル劃定作業ノ結果トシテ或ル區域内ニ於テ政府ノ鑛區中ニ利權契約ノ締結當時存在シタル坑井ヲ含ムコトカ判明シタル場合ニハ政府ハ前記坑井ヲ中心トシ

テ畫ケル半徑十五「サージエン」ノ圓形内ノ地域ト共ニ該坑井ヲ政府ノ鑛區中ヨリ分與スヘシ。右ノ場合ニ於テ利權者ノ鑛區中ヨリ右ト同一面積ノ地域ハ政府ノ選擇ニ依リ政府ノ鑛區ニ添加セララルヘシ

備考二 區域ノ形狀ヲ決定スル座標ハ經線及緯線ノ方向ニ引カルヘシ

備考三 本條所載ノ八油田區域ノ圖面ハ之ヲ本契約ニ添付ス

備考四 八油田區域ノ探掘區域ニシテ附圖中無着色ノモノハ本契約ノ意味ニ於ケル利權地域ヲ構成ス

第十一條

鑛業的試掘及探掘ノ爲メ利權者ニ提供セララルヘキ鑛區ノ範圍内並右目的ノ爲前記鑛區外ニ於テ特ニ利權者ニ引渡サルヘキ地域内ニアル建築物及動産ニシテ石油企業ニ直接關係アリ政府ニ所屬シ且本契約ノ締結當時政府カ占有シ居ラサルモノハ利權者ノ使用ノ爲メ之ニ引渡サルヘシ。右建築物及動産ハ利權者カ希望スルコトアルヘキモノニ限り利權者ノ使用ノ爲メ之ニ引渡サルヘシ。引渡サルヘキ全財産ニ就テハ兩當事者ノ代表者立會ノ上財産目錄及評價表ヲ作製シ且財産ノ引渡ニ關シテハ特別ノ調書ヲ作製シテ兩當事者之ニ署名スヘシ。右調書ハ本利權契約ニ添付セララルヘシ

本契約ノ第十條ニ從ヒ利權者ニ引渡サルヘキ石油鑛區ノ實地境界線ノ設定及其境柱ノ建設ハ本契約署名直後ノ夏期中ニ利權者ノ代表者立會ノ上政府之ヲ行フ。同時ニ兩當事者ノ代表者立會ノ上實地ニ於テ設定セララル石油鑛區ヲ掲クル確定地圖ヲ作製スヘシ。兩當事者ノ署名シタル調書及圖面ハ本契約ニ添付セララルヘシ。財産ノ引渡及測定作業ニ關スル一切ノ費用ハ利權者之ヲ負擔スヘシ

備考 本契約ノ效力發生ノ日ヨリ政府カ利權者ニ對シ財産ヲ正式ニ引渡ス時迄利權者ハ右財産ヲ使用スルノ權利ヲ許與セララルヘシ

第十二條 (註)參照

政府ハ北樺太ノ東海岸ニ於ケル一千平方露里ノ地域ニ於テ石油「キール」及可燃性瓦斯ノ探掘及試掘ヲ爲スノ獨占的權利ヲ本契約ノ效力發生ノ日ヨリ起算シテ十一年ノ期間本契約ニ掲クル條件ヲ以テ利權者ニ許與ス

右地域ハ本契約ノ效力發生ノ日ヨリ一ケ年内ニ利權者トノ協議ヲ以テ政府之ヲ決定シ其境界ハ本契約ニ添付セララルヘキ地圖ニ之ヲ記載スヘク且該地圖ハ本契約ノ不可分的部分タルヘシ

(註) 一九三六年十月十日附追加契約

第一條 一九二五年十二月十四日附利權契約第十二條ノ變更トシテ政府ハ利權者ニ對シ左記權利ヲ一九四一年十二月十四日迄ノ期間延長スルコトヲ決定ス

(イ) 坑井ノ深度及位置ニ關シ蘇聯邦重工業人民委員部ト利權者ト協定濟ナル(重工業人民委員部發利權者宛一九三四年六月二十七日附第一三、一六、七號、一九三四年九月十四日附第一三、一八、七號及一九三五年三月四日附第一三、二二號書信寫本協定ニ添附ス) 坑井ノ試掘權

(ロ) 「チエムルニ、ダーク」、「チャクレ、ナムビ、チャムケ」及「ウエンケリ、大ノシ」地方ニ於ケル前記利權契約第十二條規定ノ試掘作業權

(註) 本協定第二條記載ノ面積狭小試掘區域ニ於ケル前記利權契約第十二條規定ノ試掘作業權  
(註) 重工業人民委員部發一九三四年六月二十七日附第一三、一六、七號及全年九月十四日附第一三、一八、七號書信ハ利權契約第十四條(註)參照

第十 三 條 (註)參照

前條ニ掲ケル地域内ニ於テ利權者ハ試掘期間中任意ノ數及場所ニ於テ地質調査ノ結果ニ從ヒ各九六〇「デシヤテイン」ノ面積ノ一定ノ個々ノ試掘區域ヲ鑛業的試掘ヲ行フ爲毎年撰定スルノ權利ヲ有ス

前項ニ掲ケタル試掘區域ハ矩形タルヘク其邊ハ三對二ノ比率ヲ以テ經線及緯線ノ方向ヲ取ルヘ

利權者ハ鑛山監督署ノ現地機關ニ對シ之ト協定シタル期間内ニ右區域ニ關スル自己ノ撰擇ニ關シ届ケ出ツヘシ。該届書受領後氣候條件ノ許ス限り最モ短キ期間内ニ鑛山監督署ハ利權者ノ代表者立會ノ上届出テタル試掘區域ノ境界ノ胥地ニ於テ測定シ其境界線ヲ圖面ニ記入シ且試掘區域ヲ各八〇「デシヤテイン」ノ一二試掘鑛區ニ分割スヘシ。其邊ハ一對二ノ比率ナルコトヲ要ス

(註) 一九三六年十月十日附追加契約

第二 條

一、一九二五年十二月十四日附利權契約第十三條規定ノ除外例トシテ利權者ニ對シ左記面積狭小試掘區域ノ例外的ニ設定スルモノトス

(イ) 北「オハ」試掘地方第三面積狭小試掘區域  
其境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

南方ニ於ケル境界線ハ元北「オハ」第一試掘區域ノ境界線ニ沿ヒ、東部ニ於テハ元北「オハ」第一試掘區域(第六十四號鑛區)ノ東標柱ヨリ西方ニ一、一三〇米ノ距離ニ在リ、西方ニ於テハ同上標柱ヨリ西方ニ三、七九〇米ニ在リ、北方ニ於テハ北「オハ」試掘地方ノ北境界線ニ沿フモノトス  
(ロ) 「エハビ」試掘地方第五面積狭小試掘區域  
其境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

北境界線ハ「エハビ」第三試掘區域ノ南方境界線ト一致シ、南境界線ハ「エハビ」試掘地方ノ南境界線ト一致ス、其他ノ境界線ノ方向ハ「エハビ」第三試掘區域ノ同様境界線ノ經線ト一致ス

(六)「クホドラニー」試掘地方第二面積狭小試掘區域  
其境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セララル

南境界線ハ重工業人民委員部發一九三五年三月四日附第一三二二號書信ニヨリ劃定セラレタル「クホドラニー」試掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニシテ、北境界線ハ南境界線ヨリ二六六〇米ノ距離ニ離レタル緯線ナリ、東境界線ハ前記「クホドラニー」試掘區域ノ東境界線ヨリ東方ニ五〇〇米ノ距離ニ離ル、經線ニシテ、西境界線ハ前記「クホドラニー」試掘區域ノ東境界線ヨリ西方ニ二一六〇米ノ距離ニ離ル、經線ナリ

(三)「カタングリ」試掘地方第二面積狭小試掘區域  
其境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セララル

北境界線ハ「ウイグレククトゥイ」探掘區域ニ至ル迄ノ「カタングリ」第四試掘區域ノ南境界線ニシテ、南境界線ハ「カタングリ」第三試掘區域ノ東境界線ニ至ル迄ノ「カタングリ」探掘區域ノ北境界線ナリ、西境界線ハ「ウイグレククトゥイ」探掘區域ヨリ「カタングリ」探掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニ至ル迄ノ「カタングリ」第三試掘區域ノ東境界線ニシテ、東境界線ハ「カタングリ」第四試掘區域ノ東境界線ノ繼續ナリ

二、本條記載ノ面積狭小試掘區域ノ實地劃定並之等區域ノ試掘鐵區ハノ分割及更ニ探掘鐵區ハノ分割ハ利權契約第十三條及第十四條記載ノ鐵區ノ大キサ及形狀ニ左記變更ヲ加ヘ前記兩條ニヨリ行ハル、モ

ノトス

(イ)北「オハ」試掘地方第三面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ八試掘鐵區ニ分割セララル即全區域ハ緯線ニ沿ヒ二等分セラレ經線ニ沿ヒ四等分セラレ其結果八鐵區ヲ得ルモノトス

(ロ)「エハビ」試掘地方第五面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ十二試掘鐵區ニ分割セララル即全區域ハ緯線ニ沿ヒ三等分セラレ經線ニ沿ヒ四等分セラレ其結果十二試掘鐵區ヲ得ルモノトス

(ハ)「クホドラニー」試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ北「オハ」地方第三面積狭小試掘區域ニ對スル本項(イ)規定ト同様ノ方法ニヨリ八試掘鐵區ニ分割セララル

(ニ)「カタングリ」試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ一箇ノ北方鐵區及五箇ノ南方鐵區ヨリナル六試掘鐵區ニ分割セララル、北方鐵區ノ南境界線ハ「ウイグレククトゥイ」探掘區域ノ南境界線ノ繼續ニシテ五箇ノ南方試掘鐵區ハ殘リノ部分ヲ經線ニ沿ヒ等分ニ分割スルコトニヨリ得ラル、モノトス

(ホ)本項(イ)(ロ)(ハ)及(ニ)記載ノ試掘鐵區ヲ探掘鐵區ハノ分割ハ前記利權契約第十四條規定ノ場合ニ於テ各試掘鐵區ヲ緯線ニ沿ヒ二箇ノ等分ノ探掘鐵區ニ分割スル方法ニヨリ行ハル、モノトス

第三條

「チエムルニ、ターギ」、「チヤカレ、ナムビ、チヤムグ」及「ウエングリ、大フジ」試掘地方ニ於テ前記利權契約第十三條ニヨリ定メラル、キ試掘區域ニ關スル坑井ノ數、位置及深度並本協定第二條記載ノ各面積狭小試掘區域ニ關スル坑井ノ數、位置及深度ハ利權者及重工業人民委員部トノ間ニ於ケル一九三二年七月十一日附協定ニヨリ規定セラレタルカ如ク利權者ニヨリ蘇聯邦重工業人民委員部ト協定セララル

ルモノトス、而シテ各面積狭小試掘區域ニ於ケル坑井數ハ九六〇「アシヤチン」試掘區域ニ於ケルト同  
數ノモノ即ニ乃至四試掘坑井タルヘシ

#### 第四條

本協定ニ定メナキ事項ニ關シテハ總テノ場合試掘作業ハ利権者ニヨリ一九二五年十二月十四日附利權  
契約ノ規定ニ從ヒ實現セラル、モノトス

(註) 第十三條關係(試掘區域ノ設定ニ關スル問題)

(イ) 利権本部ハ制定作業ニ着手前並ニ終了前ニ試掘作業ノ開始ヲ許可スルコトハヲ聯邦ニ於ケル鑛山  
作業ノタメ定メラレタル一般手續ニ違反スルコトナルヘキニ付テハ許容スルコトヲ得ス、同時ニ  
利権本部ハ制定作業カ最モ短期間ニ行ハル、爲メ一切ノ方法ヲ講スヘク當該機關ニ對シ適當ノ指示  
ヲ與フヘキニ付制定作業ノ促進ニ依リテ會社ノ利益ハ充タサル、モノト思考ス——一九三〇年二月  
十六日附利権本部說明——

(ロ) 制定作業ニ就テノ問題ニ關シテハ利権本部ハ二月十六日附自己ノ決定ヲ保持ス同時ニ利権本部ハ  
制定作業カ最モ短期間ニ行ハレ且シ制定作業ノ爲メ派遣サル、制定人ノ數ハ會社カ毎年春極東鑛山  
局ニ提出スル届書ニ記載ノ制定班數ニ適應スル様方法ヲ講スヘシ——一九三〇年三月三十一日附利權  
本部說明——

(ハ) 利権本部ハ試掘作業實施中ノ坑井ヨリ得タル石油ハ之カ使用ニ對シ一般的基础ニ於テ採取スル石  
油ト同率ノ利権料ヲ支拂フ事ヲ條件トシテ試掘作業地ニ於ケル生産用及建物(註室ヲモ意味ス)ノ採  
取用トシテ利用スルコトヲ會社ニ許可シ得ルモノト認ム——一九三〇年二月十六日附利権本部說明——

#### 第十 四 條 (註) 參照)

試掘作業ノ結果或ル試掘區域カ工業的價值ナキコト明トナルトキハ利権者ハ鑛山監督署ノ現地  
機關ニ對シ其旨ヲ通知スル義務アリ。而シテ同區域ハ政府ノ處分ニ歸スヘシ

若シ利権者ノ申出ニ依リ試掘作業カ地質調査ノ結果ト相俟テ或ル試掘地區ノ工業的價值アルコ  
トヲ明ニセルトキハ鑛山監督署ノ現地機關ハ各八〇「アシヤチン」ノ試掘地區ヲ二分シ各試掘  
地區ハ各四〇「アシヤチン」ノ正方形ノ二探掘鑛區トナルモノトス

若シ利権者カ工業的價值アル或ル區域ノ試掘終了ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ届出テサリシコトノ政  
府カ試掘材料ニ依リテ發見スルトキハ右區域ハ政府ノ處分ニ歸スヘシ

九六〇「アシヤチン」ノ試掘區域ニ於テ利権者ニ依リ掘鑿セラルヘキ一切ノ坑井中ヨリ利權  
者ハ一ノ基本坑井ヲ指定スヘシ

試掘區域カ正方形探掘鑛區ニ分割セラレタル後坑井カ政府ニ依リ撰擇セラルル探掘鑛區中ニ有  
ルト否トヲ問ハス政府ハ同正方形鑛區全數ノ五〇「パーセント」ヲ西洋將棋式配列(相隣接セサル)  
ニ於テ撰擇スルノ權利ヲ有ス。政府ハ撰擇セラレタル探掘鑛區中ニ存在スルコトアルヘキ坑井ノ  
掘鑿ニ要シタル費用ヲ利権者ニ支拂ハサルモノトス殘餘タル五〇「パーセント」ノ正方形鑛區ヲ政  
府ハ探掘ノ爲メ利権者ニ引渡スモノトス

政府力選擇シタル探掘鑛區中ニ利権者ニヨリ定メラレタル基本坑井カ所在スル場合ニ於テハ政府ハ利権者ノ鑛區ニ隣接セル地域ノ當該部分ト共ニ上記坑井ヲ自己ノ正方形鑛區ヨリ分割シタル上利権者ニ引渡スモノトス。但利権者ノ鑛區中ヨリ政府ノ選擇ニ依リ右ト同面積ノ地域カ政府ノ鑛區ニ添加セラルヘキヲ條件トス

(註) 第十四條、第十五條關係(一九三二年七月十一日附協定)

- 一、 會社ヨリ提出セラルヘキ各地域別試掘作業計畫ハ重工業人民委員部ト協定セララルハシ、協定セラレタル試掘計畫書中ニ各九六〇「センチチン」地域ニ於テニ乃至四試掘坑井ノ掘鑿ヲ規定スルヲ要ス。但シ前記範圍内ノ坑井數並ニ其ノ深度ハ當該各區域ニ於ケル試掘作業ノ實際必要程度如何ニ依リ當事者力之ヲ定ム
- 二、 計畫ノ全般ニ亘ル協定ノ遅延ハ試掘坑井ノ豫定位置及深度ニ付キ重工業人民委員部ニ於テ異存ナキ限リ試掘坑井掘鑿ノ開始ヲ妨クル理由トナラス
- 三、 利権者ハ試掘作業實施ノ際最モ完全ナル結果ヲ得ルコトニ努メ右結果ニ關シ鑛山監督署ニ通告スルモノトス
- 四、 正確ニ利権契約ニ應ジ試掘地域ノ鑛業的價值ハ利権者獨自ニテ之ヲ決定スルモノトス。但シ地域ノ工業的價值ニ關スル届出ハ該地域ニ於テ豫定試掘坑井ノ中一坑井ヲ豫定深度迄ニ掘鑿シテ出油ヲ見タル後ニ於テノミ利権者力之ヲナスハシ

- 五、 利権者ニ依リ地域ノ工業的價值決定セラレタル旨利権者ヨリ届出テタル際政府ハ論テ該地域ノ分割ニ着手スルモノトス
- 六、 若シ地域ノ工業的價值ニ關スル届出並ニ同地域分割ノ時迄ニ協定済ノ試掘計畫未タ完了ニ至ラサル場合ニハ會社ハ探掘作業ト併行シテ計畫ノ範圍ニ於ケル試掘作業ヲモ繼續シ且ツ坑井ノ位置ヲ適當ニ變更スルモノトス(政府力選定スル鑛區内ニ入りタル坑井ヲ會社ノ鑛區ニ移ス事)尙會社ニ對シ坑井ノ型ヲ試掘坑井ヨリ試掘坑井型ニ變更スル權利ヲ許與ス
- 七、 會社ノ鑛區ニ於ケル坑井ノ新シキ位置ノ選定豫定深度ノ變更及其ノ他本條ニ記載ナキ最初ノ試掘計畫ノ變更ハ當事者ト協定ノ上行ハルヘキモノトス
- 八、 第六條ニ規定セル試掘作業ノ繼續ニ關スル協定ノ遅延ハ重工業人民委員部ニ依ル探掘計畫ノ確認並ニ該地域ニ於ケル會社ノ探掘事業ノ開始ヲ妨クル理由トナラス
- 九、 本協定ハ本日ヨリ七日以内ニ重工業人民委員部評議委員會ニ於テ確認セラレタル後效力ヲ發生スルモノトス

(註) 第十四條、第十五條關係

一九三二年七月十一日附協定ニ基ク試掘作業計畫ヲ左ノ通り決定ス(一九三四年六月二十七日附重工業書翰第一三、一六、七號及一九三四年九月十四日附重工業書翰第一三、一八、七號並ニ一九三五年三月四日附重工業書翰第一三三二號參照)

地	區	坑	井	番	號	深	度	(米)
エ	ハ	ビ	第一	區	域	第	一	號
同		右	第	二	號			九〇〇
								八〇〇





企業ニ於テ鑛山監督署及利権者ノ各代表者ヨリ成ル混成委員會ニ依リ施行セラル、油層ノ保護ニ關スル特別規定ヲ遵守シ利権者ニ提供セラレタル試掘區域及探掘鑛區ニ於テ石油ヲ探掘シ試掘シ及探掘スルノ義務ヲ有スルモノトス

利権者ハ探掘鑛區ニ於ケル石油ノ試掘及探掘ノ一般計畫ニシテ最近ノ營業年度ニ對スルモノヲ本契約ノ效力發生ノ日ヨリ一ケ年ノ期限内ニ極東鑛山局ニ提出スルノ義務ヲ有ス。試掘地域ニ關シテハ最近ノ營業年度ニ對スル試掘計畫ハ試掘地域決定ノ日ヨリ六ケ月以内ニ權利者ニヨリ極東鑛山局ニ提出セラルヘシ。爾後右計畫ハ毎年各營業年度開始ノ二ヶ月前ニ提出セラルヘシ

石油ノ試掘及探掘ノ計畫並其實行方法ハ最モ完全ナル試掘及油田ノ正當且經濟的ナル探掘ヲ保障スル様立案セラル可シ

利権者ハ試掘及探掘作業ノ結果トシテ得タル一切ノ資料並技術的及統計的報告ヲ鑛山監督署ノ現地機關ト協定シタル期間ニ同機關ニ提出スルノ義務ヲ有ス。右ニ拘ラス鑛山監督署ノ機關ハ何時ニテモ利権者ニ依リ行ハルル試掘及探掘作業ヲ審査スルノ權利ヲ有ス。尙利権者ハ右審査實行ニ際シ右機關ニ充分ナル援助ヲ與ヘ且其要求ニ依リテ手坑調査報告及掘鑿報告、各坑井ノ掘鑿日報ノ謄本、分析表、「コア・パレル」ニヨリ採取シタル地質ノ標本及其他ノ技術的資料ノ提出ス

ルノ義務ヲ有ス。又利権者ハ利権者ノ提出シタル資料ヲ檢査スル目的ヲ以テ鑛山監督署機關ノ派遺員カ原油ノ比較標本ヲ得ル爲メ現場ニ入ルコトヲ許容スルノ義務アルモノトス

### 第十 六 條

利権者ハ各探掘鑛區受領後一ケ年以内ニ地形測量ヲ爲シ縮尺五千分ノ一ノ下ラス且五メートルノ間隔ヲ超ヘサル等高線ヲ有シ一切ノ技術的及其他ノ施設並試掘作業場所ヲ記入セル地圖ヲ作成スヘシ

右地形測量ヲ基礎トシ層位、地質構造、含油層及含水層ヲ示セル地質圖ニシテ地質ノ垂直的斷面圖及當該説明ヲ附シタルモノヲ二ケ年以内ニ作成スヘシ

經過シタル各年ノ試掘資料ニ基キ前記地質圖ニ對スル追加ニシテ當該説明ヲ附シタルモノヲ作成スヘシ

地形測量圖及地質圖カ作成セラレタル後利権者ハ其各一部ノ現地鑛山監督署ニ提出シ又地質圖ニ對スル追加ヲ毎年提出スルノ義務ヲ有ス

政府カ一千平方露里ノ試掘地域ヲ決定シタル日ヨリ三ケ年以内ニ利権者ハ前記全地域ノ地形測量ヲナシ且縮尺二萬分ノ一ノ下ラスシテ二〇メートルノ間隔ヲ超ヘサル等高線ヲ有シ且試掘ノ

結果トシテ得タル一切ノ資料ヲ可及的詳細ニ記入セル地圖ヲ作成スルノ義務ヲ有ス

第十四條ニ依リ探掘區域分與ノ爲ニ試掘區域ヲ相等シキ部分ニ分割スルノ申請ヲ爲スニ際シ利権者ハ縮尺五千分ノ一ヲ下ラスシテ五「メートル」ノ間隔ヲ超ヘサル等高線ヲ有シ且試掘作業ノ結果トシテ得タル一切ノ資料ヲ記入セル九六〇「デシヤテイン」ノ全試掘區域ノ地形測量圖一部ヲ鑛山監督署ノ現地機關ニ提出スヘキ義務ヲ有ス

第十七條

本契約ハ其效力發生ノ日ヨリ起算シテ四十五年ノ期間ヲ以テ締結セラレ

備考 本條ニ掲ケタル期間ハ二千平方露里ノ試掘地域ノタメ第十二條ニ規定セラレタル十一ヶ年ノ試掘期間ヲモ含ム

第十八條

本契約ニ依リ利権者ニ許與セラレヘキ權利及特權ニ對シ利権者ハ自噴油ノ除キ原油ノ總産額ニ對シ左記割合ノ利権料ヲ政府ニ支拂フモノトス

三萬「メートル」噸ニ達スル迄ノ年産額ニ對シ 五、〇〇「パーセント」  
四 萬 同 五、二五 同

五	萬	同	五、五〇	同
六	萬	同	五、七五	同
七	萬	同	六、〇〇	同
八	萬	同	六、二五	同
九	萬	同	六、五〇	同
十	萬	同	六、七五	同
十一	萬	同	七、〇〇	同
十二	萬	同	七、二五	同
十三	萬	同	七、五〇	同
十四	萬	同	七、七五	同
十五	萬	同	八、〇〇	同
十六	萬	同	八、二五	同
十七	萬	同	八、五〇	同
十八	萬	同	八、七五	同
十九	萬	同	九、〇〇	同
二十	萬	同	九、二五	同
二十一	萬	同	九、五〇	同

二十二萬	「メートル」噸ニ達スル迄ノ年産額ニ對シ	九、七五	「パーセント」	三〇
二十三萬	同	〇、〇〇	同	
二十四萬	同	〇、二五	同	
二十五萬	同	〇、五〇	同	
二十六萬	同	〇、七五	同	
二十七萬	同	一、〇〇	同	
二十八萬	同	一、二五	同	
二十九萬	同	一、五〇	同	
三十萬	同	一、七五	同	
三十一萬	同	二、〇〇	同	
三十二萬	同	二、二五	同	
三十三萬	同	二、五〇	同	
三十四萬	同	二、七五	同	
三十五萬	同	三、〇〇	同	
三十六萬	同	三、二五	同	
三十七萬	同	三、五〇	同	
三十八萬	同	三、七五	同	

三十九萬	同	四、〇〇	同	
四十萬	同	四、二五	同	
四十一萬	同	四、五〇	同	
四十二萬	同	四、七五	同	
四十三萬	同	五、〇〇	同	
メートル噸ニ達スル迄及之ヲ				
自噴油ヲ得タル場合ニハ利權者ハ之ニ付左記割合ノ利權料ヲ支拂フモノトス				
一〇〇	「メートル」噸ヨリ五〇「メートル」噸ニ達スル迄ノ一晝夜總産額ニ對シ	一五	「パーセント」	
六〇	「メートル」噸ニ達スル迄ノ一晝夜總産額ニ對シ	二〇	同	
七〇	同	二五	同	
八〇	同	三〇	同	
九〇	同	三五	同	
一〇〇	同	四〇	同	
一〇〇	同	四五	同	
「メートル」噸及之ヲ超ユル一晝夜總産額ニ對シ				
本條第二項ニ掲ケタル自噴油トハ機械力ヲ使用スルコトナクシテ一晝夜一〇「メートル」噸ヲ下サル數量ヲ以テ各坑井ヨリ自然流出ニ依リテ得ラル、モノヲ謂フ				

利権者ハ坑井ノ瓦斯ヨリ得ラル、「ガソリン」ノ總産額ニ付キ左記割合ノ利権料ヲ政府ニ支拂フモノトス

三二

- 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ二英「ガロン」ニ達スル迄ノ「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 一〇「パーセント」
  - 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ三英「ガロン」ヨリ三英「ガロン」ニ達スル迄ノ「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 一五「パーセント」
  - 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ三英「ガロン」ヨリ四英「ガロン」ニ達スル迄ノ「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 二〇「パーセント」
  - 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ四英「ガロン」ヨリ五英「ガロン」ニ達スル迄ノ「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 二五「パーセント」
  - 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ五英「ガロン」ヨリ六英「ガロン」ニ達スル迄ノ「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 三〇「パーセント」
  - 一 千立方呎ノ瓦斯中ニ五英「ガロン」及之ヲ超ユル「ガソリン」ヲ含有スルトキハ 三五「パーセント」
- 利権料ハ利権者ニ依リ各營業年度終了ノ日ヨリ遅クトモ三ヶ月以内ニ毎年支拂ハルヘク且金平價ニ依ル北亞米利加合衆國（北米合衆國）ノ弗ヲ以テソ聯邦國立銀行「ウラチヴオストク」支店ニ支拂ハルヘシ

利権料トシテ支拂ハルヘキ石油量ノ貨幣ノ相當額ニ換算スル爲メニハ亞米利加ノ石油雜誌「ナショナル・ベトリウム・ニュース」ニ掲載セラレル報道ニ基キ重質油ニ就テハ「カリフォルニア」井戸元ニ於ケル又輕質油ニ就テハ「ガルフ」ニ於ケル北米合衆國ノ井戸元ニ於ケル相當品質ノ原油ニ對スル平均値段ニシテ營業年度終了前ノ最近三ヶ月間ニ於ケルモノヲ採用ス

利権料トシテ支拂ハルヘキ「ガソリン」ノ貨幣ノ相當額ニ換算スル爲メニハ右雜誌ニ掲載セラレル報道ニ基キ「ガルフ」（北米合衆國）ノ相當品質ノ「ガソリン」ニ對スル平均値段ニシテ營業年度終了前ノ最近三ヶ月間ニ於ケルモノヲ採用ス

備考一。雜誌「ナショナル・ベトリウム・ニュース」休刊ノ場合ニハ政府及利権者間ニ於ケル協定ニ依リ他ノ米國石油雜誌ヲ選定スヘシ

備考二。輕質油トハ〇・九〇ニ及夫以下ノ比重ヲ有スル原油ヲ謂ヒ重質油トハ〇・九〇ニヲ超ユル比重ヲ有スル原油ヲ謂フ

備考三。利権企業ニ於ケル營業年度トハ四月一日ヨリ三月三十一日迄トス

樺太石油力横濱取引所ニ於テ建前セラレ且北樺太ノ東海岸ヨリ横濱港ニ至ル商業上ノ海路運賃カ定メラルル場合ニ於テ政府及利権者ノ同意アルトキハ横濱取引所ノ建値ニ依リ利権料ノ貨幣相當額ヲ計算スルコトヲ得。右ノ場合ニハ計算ノ基礎トシテ運賃及保險料ニ關スル正當ナル費用ノ

三三

ミヲ差引タル C.I.F. 横濱ノ相當品質樺太原油ノ横濱取引所ニ於ケル平均建値ニシテ營業年度終了前ノ最近三ヶ月間ニ於ケルモノヲ採用ス  
利権料支拂ノ遅延アル場合ニハ利権者ハ未納額ニ對シ月一「パーセント」ノ延滞料ヲ支拂フモノトス。利権料ノ支拂フ一ヶ年遅延シタルトキハ政府ハ本契約第四十條ニ基キ利権契約ヲ解除スルノ權利ヲ有ス

(註) 第十八條關係(燃料トシテノ瓦斯無料使用ニ關スル問題)

利権本部ハ利契第十八條ニ依リ會社ハ採油總量及坑井ノ瓦斯ヨリ採取ノ瓦斯總量ニ依リテノミ利権料ヲ支拂ヒ又之ニ基キ會社ハ瓦斯ノ特性ニ依リ瓦斯倫採取不可能ナル瓦斯ニ關スル場合瓦斯ニ對スル利権料ノ義務的支拂ヲ免ゼラルモノナルコトヲ説明ス。尙利権本部ハ第十八條ノ意味ニ依ルニ此ノ場合單ニ産油地ヨリ採油ノ場合ノ發生瓦斯使用ニ止ムルコトヲ特記ス即チ會社ハ特別ノ瓦斯坑井ヨリ瓦斯ヲ誘引ノ場合ニハ瓦斯使用ノ權利ナキモノナリ何トナレハ瓦斯使用ハ石油流出ヲ劣勢ナラシムルカ爲メナリ

一九三〇年二月十六日附利権本部説明  
利権本部ハ二月十六日附自己ノ決定ノ擴張トシテ會社ハ會社カ瓦斯ヨリ技術的特性ノタメ瓦斯倫ヲ採取シ得サル瓦斯ニ關スル場合ニハ瓦斯ニ對スル利権料ヲ免除セラルコトヲ説明ス同時ニ利権本部ハ會社ハ石油坑井ヲ瓦斯採取専用トスル權利ヲ有セサルコト、但シ瓦斯採取ノ爲メ石油ノ流レノ上ニアラサル特別ノ瓦斯井ヲ掘鑿スルノ權利ハ喪失セサルコトヲ説明ス 一九三〇年三月三十一日附利権本部説明

第九條

利権者ハソノ採收セル石油、「ガソリン」及「キール」ヲ支障ナク且無關稅ニテ國外ニ輸出スルノ權利ヲ有シ之カ爲メ利権者ハ其輸出セントスル石油、「ガソリン」及「キール」ノ豫定數量ヲ在日本國ノ聯邦通商代表又ハソ聯邦内外商業人民委員部ノ當該機關ニ毎年申告シ其中申告シタル數量ノ石油、「ガソリン」及「キール」ノ輸出許可ヲ無料ニテ右官憲ヨリ受領スルモノトス

第十條 (註參照)

裁判上ノ手数料並ニ本契約ニ特ニ定メラレタル課金及支拂金ヲ除ク一切ノ一般的國稅地方稅及課金ノ代リニ利権者ハ政府ニ支拂フヘキ利権料ノ總產額ヨリ差引キタル原油及「ガソリン」ノ年産額ノ價格ノ三、八四「パーセント」ヲ政府ニ支拂フモノトス。石油及「ガソリン」ノ價格ハ本契約第十八條ニ從ヒ利権料ノ計算ノ爲使用セルト同一ノ方法ニ依リ決定セララルヘシ  
利権者ハ本條ニ定メラレタル綜合稅ヲ毎年利権料ノ支拂ト同時ニソ聯邦國立銀行ノ「ウラヂヴオストク」支店ニ納付スルモノトス  
綜合稅納付ノ遅延アル場合ニハ利権者ハ未納額ニ對シ月一「パーセント」ノ延滞料ヲ支拂フモノトス。一ヶ年間納稅ヲ遅延スルトキハ政府ハ本契約第四十條ニ依リ利権契約ヲ解除スルノ權利ヲ

有ス

(註) 第二十条關係(諸税及諸公課免除ニ關スル問題)

- (イ) 利権本部ハ港灣税ハ一般國稅ナルヲ以テ會社ハ之ヨリ免除セラル、モノナルコトヲ説明ス
- (ロ) 利権本部ハ水先案内税ハ利権企業ノ船舶ガ水先案内人ノ役務ヲ使用スル場合ニノミ會社ヨリ徵收サルベキモノナルコトヲ説明ス
- (ハ) 利権本部ハ將來ニ對シ即チ本決定ナ會社ニ通知ノ時ヨリ宿舎建築ニ對スル社會保險ニ關スル増額支拂ヲ免除スルコトヲ通知ス
- (ニ) 利権本部ハ會社ニ對シ汽罐検査料ノ支拂免除ニ關スル會社ノ請願ヲ許可スルコトヲ得
- (ホ) 現存法規ニ依リ會社ノ度量検査ヲ行ノモノナルニ付利権本部ハ度量衡ニ對シテ會社ヨリ料金を徵收スルハ正當ナルコトヲ説明ス — 以上一九三〇年二月十六日附利権本部説明 —

第二十一条

利権者ハ利権企業ニ對スル供給及設備用トシテノ一切ノ種類ノ機械、其部分品、技術的物及材料並勞動者及勤務員ニ供給セラルヘキ必要ナル日用品及食料品ヲ支障無ク且關稅及特許手数料ヲ支拂フコトヲ輸入スルノ權利ヲ有ス

右權利ヲ行使スル爲利権者ハ當該年度ニ輸入豫定ノ前記物品ノ正確ナル品目名稱及數量ヲ示セル日録ヲ毎年在日本國ソ聯邦通商代表若クハソ聯邦ニ於ケル内外商業人民委員部ノ當該機關ニ提出シ輸入許可ヲ受ク可シ

利権者ハ修繕ヲ要スル個々ノ機械ノ利権企業ニ於テ修繕ニ得サル場合ニハ之ヲ無關稅ニテ輸出シ且再輸入スルノ權利ヲ有ス

修繕ノ必要ハ鑛山監督署ノ現地機關ニ依リ證明セラルヘシ。輸出セラレタル機械ハ輸出ノ日ヨリ十三ヶ月以内ニ利権企業ニ返送セララルヘシ

機械ノ輸出ニ當リ利権者ハ輸出物件價格ノ五倍額ノ保證金ノ一ウラヂオストック市又ハ「アレクサンドロフスク」市ニ於ケル國立銀行支店ニ納付スヘキ義務ヲ有ス。修繕ノ爲メ輸出セラレタル設備カ右期間内ニ返送セラレサルカ又ハ右期間内ニ同一價格ノモノニ依リ取り替ヘラレサル場合ニハ利権者カ納付シタル保證金ハ政府ノ處分ニ歸スルモノトス

利権者カ附帶企業ノ設備及施設ニ關スル個々ノ工事ヲ請負ハシムル場合ニハ政府ハ請負者ノ所有ニ屬スル生産用器具及材料ヲ無關稅且特許手数料數ヲ支拂フコトヲ輸入シ且輸出スルノ權利ヲ附與ス。輸入及輸出セラルヘキ生産用器具及材料日録ハ利権者ニ依リ締結セラレタル請負契約及當該請負者ニ其請負事業ヲ實行スルノ權利ヲ附與スル政府ノ許可書ニシテ利権者ノ提出スルモノニ基キ在日本國ソ聯邦通商代表又ハソ聯邦内外商業人民委員部ノ當該機關ニ依リ確認セラルヘシ

利権企業ノ労働者及勤務員ノ私有財産ハ現行ノ關係法規ニ依リソ聯邦ヘノ輸入及輸出ヲ許サルヘシ

在日本國ソ聯邦通商代表又ハソ聯邦内外商業人民委員部ノ當該機關ニ依リ認可セラレタル目錄ニ列記セラレタル一切ノ物品ハソ聯邦ノ稅關機關ニ依リ個々ノ許可ナクシテ通關ヲ許サルヘシ

國外ヨリ輸入セラレ及ソ聯邦内ニ於テ取得セラレタル食料品及生活必需品ノ利権企業ノ労働者及勤務員ニ對スル供給ハ利権者ニヨリ實費ニテ行ハルヘシ。但右價格ハ北樺太鑛山監督署長ニ依リ確認セラル、モノトス

第二十一條 (註)參照

第二十一條ニ依リ利権者カ國外ヨリ輸入シタル一切ノ日用品及食料品ハ當該現地政府機關ノ許可ヲ以テスルニ非サレハ内國市場ニ於テ利権者ニ依リ賣却セラル、コトヲ得ス

右許可力與ヘラレサル場合ニハ利権者ニ對シ右物品ヲ支障ナク無關稅ニテ且特許手数料ヲ支拂フコトナク國外ニ再輸出スルノ權利ヲ與フルモノトス

(註) 第二十二條關係(日用品及食料品ノ逆輸出ニ關スル問題)

利権本部ハ利権契約第二十二條ニ依リ會社カ利権地ニ輸送セル日用品及食料品ヲ逆輸出スルノ權利ヲ提

供スルモノナルコトヲ説明スル必要アリト思考ス。尙同條ハ會社カ之等商品ノ餘分ヲ採大ニ於ケル因營販賣機關ニ對シテ鑛場酒保ヨリ利権企業ノ労働者及勤務員ニ對スル販賣値段ニテ販賣スルコトヲ少シモ禁止シ居ラズ、但シ上記商品ヲ利権企業ニ在職セサル個人ニ對スルカ如キ販賣ヲナス權利ハ權利契約ハ提供シ居ラズ。——一九三〇年二月十六日附利権本部説明——

利権本部ハ會社ハ國營商業機關ニ對シ労働者ニ對スル販賣値段ニハ非スシテ實價ヲ以テ利権店舗ヨリ商品ヲ販賣スル權利ナ有スルコトヲ説明ス。——一九三〇年三月三十一日附利権本部説明——

第二十二條

利権者カ行フ原油ノ試掘及採掘ニ關スル作業カ之ヲ必要トスル限り、利権者ニ對シ試掘區域及採掘鑛區ノ地表ヲ無料ニテ使用スルノ權利ヲ與フルモノトス。利権者ハ右目的ヲ以テ上記地域ニ於テ居住用及居住用ニ非サル建築物並各種ノ技術的施設其他ヲ設クルコトヲ得

前記地域ノ地表並同地域外ニ於テ利権者ノ企業並其労働者及勤務員ノ需要ニ供スル爲農業人民委員部ノ現地機關トノ協定ニ依リ農業ノ營ムニ要スル地區及一般農事用土地ヲ利権者ニ割り當ツルモノトス。農業地區ノ使用ハ法令ノ一般原則ニ從ヒテ行ハルヘシ

本條ノ規定ハ第三者又ハ現地營造物ニ依リ合法的ニ使用セラルル地區ニ適用セラレサルモノトス。利権者ハ其企業ノ組織及發展ノ爲上記地區ヲモ占有スルコト必要トナリタル場合ニハ利権者



ハ右ニ付當該使用者ト協定スルノ權利ヲ賦與セラルルモノトス

四〇

第二十四條 (註參照)

利權者ハ利權期間ヲ超ヘサル期間中試掘區域並採掘鑛區及現地官憲トノ協定ニ基キ上記地域外ニ於テ當該目的ノ爲無料ニテ取得セラル、地區ニ於テ左記各種ノ附帶施設即引込線、土道、狹軌道、索道、修繕工場、製材所、實驗室、鍛冶工場、倉庫、ガソリンプラント、大ナラサル製油所、發電所等直接企業ノ需要ニ應スル爲必要ナル一切ノ施設ヲ建造シ且利權者ノ企業ノ勤務員及労働者ニ對スル供給品及必要ナル日用品ノ製造スル各種ノ工場並食料品倉庫ヲ建設スルノ權利ヲ有ス

利權者ハ政府トノ特別協定ニ依リテノミ製油所及原油加工工場ヲ建設スルコトヲ許サルヘシ

利權者ハ現地官憲及鑛山労働者組合トノ協定ニ依リ利權企業ノ労働者及勤務員ノ爲メ文化教育的及醫療衛生的ノ施設ヲ爲スノ權利ヲ與ヘラル、モノトス

(註) 第二十四條關係(水面使用ニ關スル問題)

- (イ) 利權本部ハ海底送油管ノ附近ニ於テ總ノ船舶ノ投錨ヲ禁止スルコトニ關スル會社ノ提言ニ同意スルコトヲ得本希望實現ノ爲メニ會社ハ地方機關ト海底送油管ノ通過地ニ標識ヲ附スルノ件ニ關シ協定スルヲ要シ且ツ本件ニ關シテハ交通人民委員部ノ利權委員會ト交渉スルモノトス
- (ロ) 同様ニ會社ハ油槽船繫留設備ノ附近ニ於テ凡テノ船舶ノ投錨禁止ニ關スル問題ニ付交通人民委員部

ノ利權委員會ト交渉ヲ開始スヘキモノトス 一九三〇年二月十六日附利權本部説明

第二十五條

利權者ハ個々ノ油田相互間及個々ノ油田ト海岸トノ間ヲ連絡スル送油管ヲ無料ニテ敷設スルノ權利ヲ有ス。右送油管ノ方向ノ撰定並送油管敷設ノ設計及一切ノ技術的條件ハソ聯邦政府ニ依リ確認セラルヘシ

利權者ハ無料ニテ送油管ヲ北樺太領海内ニ於テ送油船ノ錨地迄海中へ延長スルノ權利ヲ有ス。右送油管ノ方向ノ撰定並設計及一切ノ技術的ノ條件ハソ聯邦政府ニ依リ確認セラルヘシ

利權者カ一油田ニ於ケル各個ノ採掘鑛區ヲ送油管ニ依リテ連絡スルコトヲ欲スル場合ニ於テハ方向ノ問題ニ付キ鑛山監督署ノ現地機關ト豫メ協定スルコトヲ條件トシテ右權利ハ利權者ニ與ヘラルヘシ

利權者ハ利權企業ノ作業ヲ妨ケサル限り政府ノ要求ニ依リ政府ニ屬スル原油ヲ利權者ノ送油線ニ依リ輸送スルコトヲ引受クルノ義務ヲ有ス。右ノ目的ノ爲政府ハ其送油線ヲ利權者ノ送油管ト連絡スルノ權利ヲ有ス

政府ニ屬スル原油ノ利權者ノ送油管ニ依リ輸送スル料金ハ利權者ノ原油ノ輸送實費ニ依リテ定

メラルルモノトス

第二十六條

利権者ハ利権企業ニ必要ニシテ他ニ賣却スル事ヲ目的トセサル各種ノ普遍的發掘物例ヘハ粘土、砂、石及石炭等ヲ利権地域内ニ於テ無料ニテ採取スルコトヲ得。利権企業ニ必要ナル右普遍的發掘物ニシテ利権地域外ニ在ルモノ、使用ハ現地鑛山監督署長カ發給スル許可證ニ依リ同シク無料ニテ許可セラルヘシ

第二十七條

利権者ハ其提供セラレタル鑛區地域内ノ水、水域及水力ヲ無料ニテ使用スルノ權利ヲ有ス。右目的ノ爲メ利権者ハ現地官憲ノ許可ヲ得テ各種ノ施設ヲナスノ權利ヲ有ス

利権者ハ其與ヘラレタル權利ヲ行使スルニ際シ左記ノ義務ヲ負フ

- (イ) 水、水域及水力ノ利用ニ關シ隣接鑛區ノ利益ヲ害セサルコト
- (ロ) 利権者ノ地區ニ隣接スル地區ヨリノ排水及誘水ノ爲メ利権者ノ地區ヲ通シテ溝渠排水路及其他ノ設備ヲ施スコトヲ許シ且利権地區ヲ通シ隣接地區ヨリノ道路及輸送施設ヲ行フヲ妨ケサルコト

(ハ) 一般利用ノ流水ニ關シテハ衛生監督規則ニ從フコト

(ニ) 何レノ場合ニ於テモ水、水域及水力ノ使用ニ際シ漁業及交通ニ關スル地方住民ノ利益ヲ害セサルコト

利権鑛區地域外ノ水及水域ノ使用ハ現地官憲トノ特別協定ニ依リ同シク無料ニテ許可セラルルモノトス

第二十八條

利権者ハ豫メ交通人民委員部ノ極東機關ノ認可ヲ得且其監視ノ下ニ浚渫作業ヲ行フノ權利ヲ有ス

利権者ノ右作業ハ水路ノ公用使用ノ利益ヲ害セス且隣接鑛區ノ作業ヲ妨ケサルコトヲ要ス

第二十九條

利権者ハ販賣ノ目的ニ非スシテ企業ノ需要ノ爲必要ナル限り試掘區域及採掘鑛區ニ於ケル森林ヲ利用スルノ權利ヲ有ス

右鑛區ノ地域外ニ於テハ利権者ハ極東土地局トノ協定ニ依リ北樺太ニ於テ利権者ノ企業ノ需要ノ爲必要ナル伐採用森林區域ヲ取得スルコトヲ得

本條第一項及第二項ニ依リ利権者ニ提供セラルヘキ森林ハ第十條ニ掲ケタル八油田ノ採掘鑛區ニ於ケル森林ヲ除クノ外現行公定評價ニ依ル支拂ヲ爲スコトヲ條件トシテ利権者ニ拂下ケラルヘシ

前項ノ條件ハ利権契約ノ實施期間中五ケ年毎ニ政府ニ依リテ改訂セラル、コトヲ得

第十條ニ掲ケタル八油田ノ採掘鑛區ニ於ケル森林ハ企業ノ需要住宅ノ建築文化教育及衛生的施設並ニ暖房ノタメ無料ニテ利権者ニ與ヘラルヘシ

道路及送油管ヲ敷設シ防火手段ヲ講シ並建築物及施設用地ノ伐開ヲ行フニ要スル森林伐採作業ハ鑛山監督署ノ現地機關ノ證明書ニ基キ農業人民委員部ノ現地機關カ附與スル許可ヲ以テ行ハルヘシ。右手續ニ依リ伐採セラレタル木材ニ對シテハ支拂ヲ要セス

第三十條 (註)參照

利権者ノ企業ニ於ケル労働條件ハソ聯邦ノ現行法令及本件ニ關シ將來發布セラル、コトアルヘキ法令並利権者カ當該職業組合ト締結スル團體契約ニ依リ律セラルヘシ

右條件ハ國籍ノ如何ニ拘ラス利権企業ノ一切ノ労働者及勤務員ニ適用セラル、モノトス

労働者及勤務員ノ社會保險料ハ同種ノ國營企業ト同一額ヲ以テ利権者ニ依リ納ムセラル、モノトス  
利権者ハソ聯邦ニ於テ規定セラレタル衛生、住宅規則ニ適合スル住宅ノ利権企業ノ一切ノ労働者及勤務員ニ對シ無料ニテ提供スルノ義務ヲ有ス

(註) 一九三六年十月十日附追加契約

第五條

一九二五年十二月十四日附利権契約第三十條ニ左記項目ヲ追加ス

利権者ハ利権企業ノ常備労働者及従業員ノ一切ノ家族員ニ對シテモ亦同様ノ標準ニヨリ無料ニテ宿舍ヲ提供スル義務アルモノトス

本條ニヨリ利権企業ノ労働者及従業員並常備労働者及従業員ノ家族員ニ對シテ提供セラルヘキ宿舍ハ在樺太蘇州石油企業ニ於ケル當該年度實在ノ標準以下タルヲ得ス

(註) 一九三六年十月十日附重工業人民委員部發售信第K一—一五號

本日署名セラレタル一九二五年十二月十四日附利権契約ノ追加契約第五條ニヨリ會社カ引受ケタル事項ニ關聯シ左記通告ス

貴方申出ニ依レハ利権企業ノ一切ノ労働者及従業員並常備労働者従業員ノ一切ノ家族員ニ對シ前記第五條規定ノ標準ニヨリ宿舍保護ノ程度ニ宿舍ヲ増設スルニハ相當ノ期間ヲ必要トスル以上重工業人民委員部機關ハ貴方願出ヲ考慮シ會社カ一九三九年秋期購入迄労働力申込書ヲ提出スル際會社ハ自己ノ申込書ニ於テ一切ノ労働者及従業員並常備労働者、従業員ノ一切ノ家族員ニ對シ前記第五條規定ノ標準通り完全ニ宿舍ノ保護ヲナスヘキ自己ノ義務ニ依ルヘキコトヲ要求セサルハ右單ニ左記標準ヲ會社カ實行スルノ要求ニ限定スヘシ

- 四六
- 一、一九三七年秋期傭入及一九三八年春期傭入申込書提出ニ際シ會社ハ一九三七年十一月一日迄ニ各勞働者及從業員並常備勞働者從業員ノ各家族員ニ對シ左ノ通り保證スルノ義務ニヨルモノトス
    - (イ) 「オハ」探掘油田及北「オハ」探掘鐵區ニ於テハ居住實面積四・五平方米ナラサル標準ニヨル
    - (ロ) 其他ノ一切ノ探掘油田及探掘鐵區ニ於テハ居住實面積四平方メートルナラサル標準ニヨル
    - (ハ) 一切ノ試掘區域及試掘鐵區ニ於テハ居住實面積三・五平方米ナラサル標準ニヨル
  - 二、一九三八年秋期傭入及一九三九年春期傭入申込書提出ニ際シ會社ハ一九三八年十一月一日迄ニ各勞働者及從業員並常備勞働者、從業員ノ各家族員ニ對シ左ノ通り保證スルノ義務ニヨルモノトス
    - (イ) 一切ノ探掘油田及探掘鐵區ニ於テハ居住實面積四・八乃至五平方米ナラサル標準ニヨル
    - (ロ) 一切ノ試掘區域及試掘鐵區ニ於テハ居住實面積四乃至四・五平方米ナラサル標準ニヨル
  - 三、一九三九年秋期傭入以降、會社ハ勞働力申込書提出ノ際各勞働者及從業員並常備勞働者、從業員ノ各家族員ニ對シ前記追加契約第五條規定ノ標準即毎年一月十五日以前ニ「トレスト・サハリンネフチ」又ハ其權利繼承者ノ交付スル證明書ニヨル當該年度ノ一月一日現在一切ノ「サカレン」蘇州石油企業ニ於ケル實在平均標準ナラサル居住實面積ヲ保證スルノ義務ニヨルモノトス
    - 「トレスト・サハリンネフチ」又ハ其權利繼承者ハ毎年十月一日會社ニ對シ翌年ノ一月一日「トレスト」ノ有スヘク豫定シ居ル居住實面積ノ概略標準ヲ通知スルモノトス
- 前記第三項規定ノ除外例トシテ一九三九年十一月一日以降試掘區域及試掘鐵區ニ於テ各勞働者及從業員並常備勞働者、從業員ノ各家族員ハ會社ニ依リ居住實面積四・五平方米ナラサル標準ニヨリ保證セラルヘキモノトス

第三十條 (註)參照)

- 利權企業ノ所要ニ供スル爲利權者ハ左ノ權利ヲ有ス
- (イ) 五〇「パーセント」ノ限度度外國人タル管理部技術部員並高級熟練勞働者ヲ招致スルコト
- 備考 右制限ハ所長支所長及鑛場各部長ニ適用セラレサルモノトス
- (ロ) 外國人タル中級及下級熟練勞働者並平勞働者ヲ總員數ノ二十五「パーセント」ヲ超ヘサル範圍ニ於テ招致スルコト
- 利權者ハ必要トスル勞働力ノ熟練資格別人員數ヲ毎年四月一日及七月十五日迄ニ「ウラヂオオストク」市ニ於ケル勞働支部ニ申出ツルモノトス
- 「ウラヂオオストク」市ニ於ケル勞働支部ハ右支部カ利權者ノ申出ニ依リ利權者ニ提供シ得ヘキ勞働者及勤務員ノ員數ヲ五月十五日及八月三十日迄ニ利權者ニ通知スル義務アルモノトス
- 「ウラヂオオストク」市ヨリ利權企業地迄ノ勞働者及勤務員ノ往復輸送ハ利權者之ヲ行ヒ且輸送ニ關スル各種ノ費用ハ利權者之ヲ負擔スヘシ。利權者ハ「ウラヂオオストク」市ヨリ輸送セラルル其雇傭勞働者及勤務員ニ對シ乗船七日前ヨリ起算シ賃銀ヲ支拂フノ義務ヲ有ス
- 「ウラヂオオストク」市ニ於ケル勞働支部カ利權者ノ要求ニ依リソ聯邦ノ人民又ハソ聯邦ノ領域

内ニ居住スル外國人中ヨリ所要ノ勞働力ヲ提供スルコト能ハサルトキハ利權者ハ其裁量ニ依リ不足數ノ外國人勞働者及勤務員ヲ雇傭スルノ權利ヲ有ス。利權者ノ要求ニ基キ「ウラジオストック」市ノ勞働支部ニ依リテ提供セラルヘキ外國人勞働者及勤務員ハ本條(イ)項及(ロ)項ニ規定セラレタル外國人比率中ニ包含セラレサルモノトス

政府ノ同意ニ依リ利權者ハ尙北樺太ノ「アレクサンドロフスク」市及「アムール」河岸ノ「ニコラエフスク」市ニ於ケル勞働支部ニ對シ勞働力ノ供給ヲ求ムルコトヲ許サルヘシ

(イ)項及(ロ)項ニ掲ケタル外國人勞働者及勤務員ノ比率ハ漸次低減セラルヘク三ケ年毎ニ改訂セラルヘシ

利權企業内ニ於テ發生シタル重大ナル損害ニシテ利權企業ノ勞働者ニ依リ右損害復舊シ得ス而モ之ヲ急速ニ復舊スルノ必要アル場合ニ於テハ利權者ハ右損害修理ノ爲之ニ要スル期間中自己ノ裁量ニ依リ員數ノ専門家及勞働者ヲ招聘スルノ權利ヲ附與セラルヘシ

本條ニ規定セラレタル聯邦ノ人民タル勞働者及勤務員並外國人タル勞働者及勤務員ノ比率ハ千九百二十六年十月迄ニ利權者ニ依リ實施セラルヘシ。上記ニ關聯シ總テノ移動ハ千九百二十六年ノ航海期間中ニ利權者ニ依リ行ハルヘシ

(註) 一九三六年十月十日附追加契約

第六條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第二項始メヨリ勞働者及從業員ノ檢査ニ「ナル語」迄ノ左ノ通り記載ス(註)(邦文利權契約文面ハ第二項始メヨリ「利權者ニ通知スル義務アルモノトス」迄ノ語ヲ謂フ)

利權者ハ自己ノ必要トスル勞働力ノ熟練別人員數ニ關スル申込ヲ毎年四月一日及七月十五迄ニ哈府重工業人民委員部全權宛、寫シテ東部「サハリ」鐵山監督署宛ニ爲スモノトス

哈府重工業人民委員部全權ハ利權者ノ爲セル申込ニヨリ提供シ得ヘキ勞働者及從業員數ヲ五月十五日及八月三十日迄ニ利權者ニ通知スヘキ義務アルモノトス。右通知書ニハ浦塩市ニ於テ如何ナル勞働者及從業員ナリ何名、又「オハ」市ニ於テ如何ナル勞働者及從業員ナリ何名利權者ニ提供シ得ヘキヤナ記載スルモノトス。重工業人民委員部全權ニヨル勞働者及從業員引渡シ及利權者ニヨル之カ受入レハ浦塩市及「オハ」市ニ於テ行ハル、モノトス。浦塩市及「オハ」市ニ於テ利權者ハ勞働者及從業員ノ職名、熟練及作業經歷ヲ確認スル當該機關發給ノ書類ニシテ此等勞働者及從業員ノ提示スル書類ニ基キテノミ勞働者及從業員ヲ受入ル、モノトス

第七條

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第三項ニ於ケル「浦塩市ニ於ケル勞働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變ヘ、又「浦塩市ノ勞働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變フヘシ

第八條

五〇

一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條ニ左記項目ヲ追加ス  
 『労働者及従業員ハ彼等ガ作業ニ採用サレタル熟練ニ相應シ利権者ニヨリ利用セラル、モノトス  
 利権者ハ第一順序トシテ企業ニ在ル労働者及従業員中ヨリ自己ノ必要トスル労働者及従業員ヲ滿タ  
 スモノトス。特ニ季節労働者及従業員ヲ常備労働者及従業員ニ移ス方法及常備労働者及従業員ヲ更ニ  
 今後ノ作業期間ニ殘留セシムル方法ニヨルモノトス。季節労働者及従業員ヲ季節期間終了後常備勞  
 働者及従業員ニ移ス方法ニヨリ労働者及従業員ヲ編入スルコト及常備労働者及従業員ヲ契約期間終  
 了後更ニ今後ノ作業期間ニ殘留セシムルコトハ若シ此等労働者及従業員ノ熟練ガ所要ノ常備労働者  
 及従業員ノ熟練ニ相應シタル場合行フモノトス』

第三十一條 (註)參照

利權企業ノ労働者及勤務員並其家族ノ北樺太出入旅行ニ就テハ旅券手續ニ關スル合理的便宜ヲ  
 規定セラルヘシ。之カ爲メソ聯邦政府ハ東京及函館ニ於ケルソノ領事館並北樺太ニ於ケル外務人  
 民委員部代表ニ對シ適當ナル訓令ヲ發スヘシ

(註) 第三十二條關係(日本人労働者ニ對スル旅券及居住證明ニ關スル手續ニ付テノ問題)

利權本部ハ常備労働者ニ對シテハ一ケ年ノ期間ニ對シ季節労働者ニ對シテハ六ケ月ノ期間ニ對シ旅券  
 及居住證明ノ交付ヲ許可スルコトヲ得。——一九三〇年二月十六日附利權本部說明——  
 本條ノ意味ハ現行法思フ變更ヲ豫定スルモノニ非ス。テ貴企業ノ日本人労働者ノ入國ニ對スル査證

及居住證明ニ對ル査證ノ期限延長ニ關シ貴會社ニ對スル特典タルナリ。——一九三〇年三月三十一日附  
 利權本部說明——

第三十三條

各個ノ採掘鑛區内ニ於テ其内部連絡ヲ保證スルタメ利権者ハ其裁量ニ依リ無料ニテ新ニ電話線  
 ヲ架設シ又ハ現存ノ電話線ヲ使用スルノ權利ヲ與ヘラルヘシ  
 利権者カ同一油田ノ各個ノ採掘鑛區ノ電話線ニ依リテ連絡セント欲スル場合ニ於テハ右權利ハ  
 政府採掘鑛區ヲ管轄スル機關ト右敷設ニ關シ事前ノ協定ヲ遂クルコトヲ條件トシテ利権者ニ附與  
 セラルヘシ。利権者カ各個ノ油田ニ存在スル採掘鑛區間若クハ利權企業ノ各個ノ施設ト利權企業  
 ノ一般的電話網トノ間ノ電話線ニ依リ連絡シ又ハ一千平方露里ノ試掘地域内ニ於ケル若クハ右試  
 掘地域ト採掘鑛區トノ間ノ電話連絡ヲ設定セント欲スル場合ニハ之ヲ行フノ權利ハ右電話線ノ建  
 設及利用カ郵便電信人民委員部ノ規則及標準ニ完全ニ準據シ且右人民委員部ノ現地機關ノ監督ノ  
 下ニ利権者ニ依リ行ハルルコトヲ條件トシテ利権者ニ附與セラルヘシ。右規定ハ各個ノ油田ノ地  
 域外ニ亘ル現存電話線ニモ均シク適用セラルヘシ

利権者ハ北樺太ニ於ケル政府ノ機關及其代表者ニ對シ電話施設ヲ無料ニテ使用スルコトヲ許ス

ノ義務ヲ有ス。但上記ノ使用ハ利權企業ノ業務ヲ妨ケサルコトヲ要ス。右使用ノ手續ハ政府ノ機關及利權者間ノ協定ニ依リ定メラルヘシ

五二

第三十四條

「オハ」及「チイウオ」ニ於ケル無線電信所シテ聯邦政府ニ引渡スコトニ關シテ聯邦政府及日本國政府間ニ於テ協定成立スル迄ノ間ソ聯邦政府ハソ聯邦ノ領域内ニアル無線電信所ノ運用ニ關スル現行規則ニ從ヒ郵便電信人民委員部ノ現地機關ノ監督ノ下ニ右電信所ヲ經營スルコトヲ利權者ニ許可スルモノトス

利權契約ノ有效期間中ニ利權地域ニ於テ新ナル無線電信所ヲ設置スル必要ヲ生シ且ソ聯邦政府カ必要ノ無線連絡ヲ利權者ニ提供スルコト能ハサルトキハ郵便電信人民委員部トノ別個ノ協定ニ基キ利權者ニ對シ之カ設置ノ權利ヲ許與セラルルコトアルヘシ

第三十五條

利權企業ノ船舶及利權者ニ依リテ儲船セラレタル船舶カ北樺太ノ沿岸ニ於ケル一般使用港ニ入ルノ權利ハソ聯邦ノ現行法令ニ從ヒ利權者ニ與ヘラルヘシ。但役務ニ對シ現ニ設定セラレ居リ及將來設定セラルルコトアルヘキ一切ノ支拂ヲ爲スヘキモノトス

右船舶カ北樺太ノ沿岸ニ於ケル他ノ地點ニ寄港スルコトハ上記地點ニ關シ交通人民委員部ト豫メ協定スヘキコトヲ條件トシテノミ許可セラルヘシ。但右ノ場合ニハ船舶ハ最寄ノ稅關ニ於テ檢査セラレ且同稅關ヨリ適當ノ證明書ヲ受クルコトヲ要ス。尙船舶ノ檢査ハ現地稅關官吏トノ協定ニ依リ荷積及荷揚ノ場所ニ於テ行ハルルコトヲ得。但右ノ場合ニハ稅關官吏ノ派遣ニ關スル費用ハ利權者之ヲ負擔スヘシ

右船舶ハ利權企業ノ生産物又ハ利權企業ノ設備品及供給品ノ輸送、企業ノ労働者及勤務員ニ對スル食料及供給品ノ輸送並勤務員、労働者、其家族及利權企業ニ派遣セラルル人員ノ輸送ニノミ使用セラルルコトヲ要ス

石油「バー」ジ「ア」曳船、利權企業ノ需要ニ供スヘキ木材、食料品及供給品並ニ勤務員、労働者及其家族ノ輸送ニ從事スル小型補助船舶（小蒸汽船ニシテ四〇馬力ヲ超ヘサルモノ）、發動機船及登簿總噸數百五十噸ニ達スル迄ノ一隻ノ汽船）ハ北樺太ノ東海岸ニ沿ヒテ自由ニ航行スルノ權利ヲ有ス

第三十六條

現地官吏ノ當該機關トノ事前ノ協定ヲ以テ大ナラサル荷積棧橋及繫船岸ヲ建設シ並起重機其他

五三

ノ荷揚及荷積ノ装置ヲ設クル權利ヲ權利者ニ賦與スルモノトス

將來利權者カ其企業ノ發展ニ伴ヒ港灣建設ノ必要ヲ認ムル時ハ該港灣ノ位置建設ノ設計及條件ハ豫メ交通人民員部ト協定セララルコトヲ要ス

利權者ニ依リ建設セラレタル港灣ハ交通人民委員部ノ支配ニ歸スヘシ。但交通人民委員部トノ協定ニ依ル條件ヲ以テ利權者ノ經濟的使用ノ爲メ權利者ニ對シ港灣ノ一定區域ヲ劃定スヘキコトヲ豫メ決定スヘシ

第三十七條

利權者ハ利權企業ノ一切ノ建造物及施設ヲ其總テノ設備及備品ト共ニ其ノ實價ニ依リ現行火災保險規則ニ從ヒテソ聯邦ノ保險機關ニ利權者ノ負擔ヲ以テ且政府ノ名義ノ下ニ火災保險ニ付スルノ義務ヲ有ス。利權者ハ坑井内ノ挿入管、送油管、水道管、蒸氣管、豫備管、軌道及土工事ノ保險ニ附セサルノ權利ヲ有ス。但其火災ニ依ル燒失又ハ損害ノ場合ニハ利權者ハ自己ノ負擔ヲ以テ右施設ヲ復興スルコトヲ要ス

保險料ハ同種ノ國營企業ト同一額ニ於テ利權者ヨリ徵收セララルヘシ  
保險ニ附セラレタル財産カ火災ニ罹レル場合ニ於テハ保險機關ハ保險規則ニ規定セラレタル期

限内ニ火災ニ依ル損害ノ評價ニ着手スヘク且清算終了後利權者ノ請求ニ依リ清算書類ノ寫ノ利權者ニ交附スヘシ。利權者ハ保險機關代表者ノ火災現場ヘノ到着ヲ俟タヌシテ火災ニ依リ燒失又ハ損害ヲ被リタル財産ノ復舊ニ着手スルノ權利ヲ有ス。但此場合ニ於テハ火災ニ依ル損害ノ豫備的評價ハ現地官憲ノ代表者立會ノ上利權者ニヨリ行ハルヘシ

火災ニ依ル損害ニ對スル保險金ハ政府ニ依リ利權者ノ名義ヲ以テソ聯邦國立銀行支店中ノ一ニ供託セララルヘシ

利權者ハ利權企業ノ復舊ノ程度ニ應シ部分的ニ保險金ノ前拂ヲ受ケ之ヲ政府ノ監督ノ下ニ専ラ企業ノ復興ニ使用スヘシ

第三十八條

利權ノ期間満了後利權企業ハ一切ノ建造物、改良工事、設備及備品ト共ニ本契約ニ依リ最後ノ五年間ニ於テ行ハレタル平均生産ニ劣ラサル範圍ニ於テ生産ヲ支障ナク繼續シ得ヘキ形狀及狀態ニ於テ無料ニテ政府ニ歸スルモノトス

政府ハ利權期間満了直後六ヶ月以内ニ本契約有効期間ノ最後ノ十ヶ年間ニ於テ利權企業内ニ行ハレタル建物及改良工事ノ原價償却未了ノ部分ヲ右支出カ政府ノ同意ニ依リ行ハレタルコトヲ條



件トシ且左記原價償却率計算ニ基キ利権者ニ補償スルノ義務ヲ有ス利権者カ行ヒタル支出ニ對スル毎年ノ原價償却率ハ

石造建物、鐵製「タンク」及鐵管ニ對シテハ 三パーセント

機械及設備ニ對シテハ 七パーセント

木造建物及「パージ」ニ對シテハ 五パーセント

トス

材料、食料品及供給品ノ各々ノ貯蔵品、既製品、半製品、資金並其他ノ流動資本ハ引續キ利権者ノ所有トス

利権者ハ利権期間満了後三ヶ月以内ニ本條ノ條件ニ從ヒ企業ヲ政府ニ引渡スヘキ義務ヲ有ス。右期間内ニ利権者ハ一切ノ計算ヲ政府トノ間ニ終了スルコトヲ要ス。前記條件ノ履行後一年以内

ニ利権者ハ其殘存スル所有財産ヲ利権地域ヨリ支障ナク且無關稅ニテ搬出スルコトヲ得。右期間内ニ利権地域ヨリ搬出セラレサル利権者ノ財産ハ無料ニテ政府ノ所有ニ歸スヘシ

利権者ノ債務及義務ハ其發生場所ノ如何ノ間ハス政府ニ轉嫁セラレサルモノトス

第三十九條

本契約有効時中何時ニテモ本契約又ハ其個々ノ規定ノ履行力不可抗力ニ因リ不可能トナリタル場合ニ於テハ兩當事者ハ不可抗力ノ繼續期間中當該義務ノ履行ノ延期ヲ相互ニ許容スルノ義務ヲ有ス。但之カ爲メ本契約ノ基本ノ期限ヲ延長スルコトナカルヘシ

第四十條

政府ハ左記ノ事由ニ依リ利権ヲ其期限前ニ廢止スルノ權利ヲ有ス

(イ) ソ聯邦ノ裁判機關又ハ外國ノ裁判機關ノ判決ニシテ法律の效力ヲ發生シタルモノニ依リ利権者カ破産セル債務者タルコトヲ宣告セラレタル場合

(ロ) 利権者カ本契約第十五條第一項、第十八條、第二十條及第二十二條ニ掲ケラレタル條件ニ違背シタル場合。但政府ハ本契約ヲ解除スル前ニ於テ一ヶ月ヲ隔テ、二回ノ警告書ヲ發スルコトヲ要ス

右ノ場合ニ於テハ利権企業ハ本契約第三十八條ノ規定ニ從ヒ無料ニテ政府ニ歸スヘシ政府ハ本條ニ從ヒ利権ヲ廢止スルコトナク上記諸條ノ規定ノ違背ニヨリテ政府ノ被リタル損害ノ補償ヲ利権者ニ請求シ及何時ニテモ該違背事項ノ排除ヲ請求スルノ權利ヲ保留ス

第四十一條

政府ハ本契約ノ違背ニ依リテ生シタル損害ノ補償ヲ利権者ニ請求スルノ權利ヲ有ス

第四十一條

本契約並其附録及追加ノ解釋及實行ニ關スル政府及利権者間ノ一切ノ紛議並異論ハソ聯邦ノ最高裁判所ニ依リ解決セラルヘシ

利権者ト第三者例ヘハ國家營造物、「コイペラテイーヴ」機關及其他ノ團體並個人トノ間ニ於ケル私權的性質ヲ有スル紛議ハ一般的手續ニ從ヒソ聯邦裁判機關ニ依リテ解決セラルヘシ

然レ其右ハ兩當事者カ同意スル場合ニハ兩者間ノ紛議解決ノ爲仲裁々判ニ付スル双方ノ權利ノ排除スルモノニ非ス

第四十三條

本契約ノ效力發生ノ日ヨリ利権者ハ本契約第十一條ニ從ヒ政府ニ依リテ引渡サルヘキ財産ニ對シ本契約第十一條ニ掲ケタル評價ニ從ヒ該財産ノ價格ノ四「パーセント」ノ額ヲ以テ毎年賃借料ノ政府ニ支拂フヘシ

賃借料ハ利権者ニ依リ本契約第十八條ニ掲ケタル利権料ト同時ニソ聯邦國立銀行「ウラジヴォストク」支店ニ納入セラルヘシ

第四十四條

本利權契約ハ原油、「キール」及可燃性瓦斯ヲ除キ利權地域ニ於テ發見セラルルコトアルヘキ他ノ有用埋藏物ヲ探掘スルノ權利ヲ利権者ニ許與スルモノニ非ス

右規定ハ本契約第二十六條ニ依リ利権者ニ其探掘權ヲ附與セラレタル普遍的發掘物ノ採收ニ適用セラレス

第四十五條

本契約ハ不定金額ニ對スル契約ナルヲ以テ千九百二十三年ノ國家印紙稅法ノ適用ニ關スル訓令第十三條(イ)項ニ依リ通常印紙稅ノ支拂ヲ要ス

本契約ニ關スル比例印紙稅ハ各前年度ニ對シ利権者ヨリ政府ニ支拂ハルヘク且本契約署名ノ時ニ於テ確定セラレ得サル利權料及其他ノ支拂金額ニ對シ算出セラルルモノトス

各年度ニ對シ支拂ハルヘキ比例印紙稅額ハ本契約第十八條ニ規定セラレタル利權料ヲ納付スルト同時ニ利権者ニ依リソ聯邦國立銀行現地支店ニ納付セラルルモノトス

第四十六條

本契約ノ原本ハソ聯邦人民委員會議事務局ニ保管セラルルヘク利権者ニ對シテハソ聯邦人民委員

會議書記官ニ依リテ認證セラレタル本ヲ交付スヘシ

第四十七條

ソ聯邦人民委員會カ署名ヲ委任シタル代表者及利権者ノ代表者ニ依ル本契約ノ署名ノ日ヲ以テ本契約ノ效力發生ノ日ト認ム

第四十八條

政府ノ法律上ノ所在地左ノ如シ

莫斯科市「マールヤ、ドミトロフカ」十八番地ソ聯邦人民委員會附屬利権委員會本部

利権者ノ法律上ノ所在地左ノ如シ莫斯科市「プロシチヤヂ、レウオリユツイー、ボリシヤヤ、モスコフスカヤ、ゴスチンニツア」

上記所在地ハ兩當事者ニ對シ義務的所在地ニシテ之ニ配達セラレタル通信ハ宛名人ノ受領證アル場合ニハ交付セラレタルモノト看做サルモノトス

所在地ノ一切ノ變更ニ關シテハ兩當事者ハ遲滞ナク書面ヲ以テ相互ニ通知スルノ義務ソ有ス

千九百二十五年十二月八日附決定（プロトコール第百三十四條第一項）ニヨリソ聯邦人民委員會ノ委任ニ依リ

ソ聯邦最高人民經濟會議々々長

エフ・ジエルジンスキ

北樺太石油企業組合代表者

中里重次

千九百二十五年十二月八日附決定（プロトコール第百三十四條第一項）ニヨリソ聯邦人民委員會ノ委任ニ依リ本契約ヲ副署セリ

外務人民委員代理

エフ・リトヴィノフ

本契約原本ニ對シ印紙税「ルーブル」六十五「コペーク」支拂ハレタリ

ソ聯邦人民委員會書記官

エル・ソオテイエツ

本謄本ハ原本ニ相違ナキコトヲ認證ス

追加契約  
(二千平方露里試掘地域)

追加契約

千九百二十七年二月二十一日 於モスクワ市

一方「ソヴェート」社會主義共和國聯邦（ソ聯邦）政府（以下單ニ政府ト稱ス）ハ千九百二十七年二月十五日附人民委員會議ノ決定（「プロトコール」第二〇三號第一項）ニ基キ行動スル最高人民經濟會議議長「ソレリアン・ウラヂミロウキツチ・クイブシエフ」ニ依リ代表セラレタル最高人民經濟會議ヲ通シ、他方北「サガレン」石油企業組合ノ權利義務繼承者タル北樺太石油株式會社（以下單ニ利權者ト稱ス）ハ其代表者成富道正ヲ代理トシ、千九百二十五年十二月十四日附利權契約ニ依リ北樺太石油株式會社ニ許與セラレタル原油、「キール」可燃性瓦斯ニ對スル探鑿及試掘ノ獨占的權利ヲ利權者カ實行スル爲メ北樺太東海岸ニ於テ面積一千平方露里ノ地域ノ區劃ニ關シ本契約ヲ締結ス

第一條 本契約ニ記載ノ地域ハ千九百二十五年十二月十四日附利權契約第十二條ニ依リ、政府

ニ於テ利權者ト協議ノ上之ヲ決定セリ

第二條 一千平方露里ノ試掘地域ハ拾壹ノ獨立セル地方ニ分割セラレ

第一號ヨリ第九號ニ至ル九地方ハ經緯度ノ方向ヲ以テ貫通セル側邊ヲ有スル直角形ナリ

第十號地方ハ東海岸方面ヲ除クノ外經緯度ヲ以テ貫通スル側邊ヲ有スル突出セル直角形ヲ爲ス  
第十一號地方ハ日下確定セラレス下記ノ境界内(第四條)ニ於テ本契約カ效力ヲ發生シタル日ヨ  
リ二ヶ年以内ニ、面積壹百平方露里ノ地域ノ境界ヲ確定スル權利ヲ利權者ニ許與セラル、但右  
地方ノ側邊ハ經緯度ノ方向ヲ有スハキモノトス

第三條 各地方ノ境界ヲ決定スルニ際シテ基點ヲ決定セリ。尙隅點ノ位置ハ基點ノ座標ニ據リ  
テ之ヲ定メタリ

各地方ノ隅點ハ左ノ文字ヲ以テ之ヲ表示ス

“a” 各地方ノ北東隅ヲ表示ス

“b” 各地方ノ南東隅ヲ表示ス

“c” 各地方ノ南西隅ヲ表示ス

“d” 各地方ノ北西隅ヲ表示ス

第十地方ハ八個ノ隅點即チ “a” “b” “c” “d” “e” “f” “g” “h” ノ以テ之ヲ定

ム  
子午線ノ方向ハ天文學上ノ子午線ニ據ル

第四條 地方ノ番號ハ北ヨリ南ニ及フモノトス

第一 地方 『北オハ』

地方ノ面積ハ五十平方露里ニ等シ

基點ハ『オハ』採掘區域『ロータリ』式第一號井(R.I.)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 北方ハ八露里二一七「サージエン」 東方ハ二露里

“b” 北方ハ二露里九二「サージエン」 東方ハ二露里

“c” 北方ハ二露里九二「サージエン」 西方ハ六露里

“d” 北方ハ八露里二一七「サージエン」 西方ハ六露里

第二 地方 『エハビ』

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

基點ハ『オハ』採掘區域『ロータリ』式第一號井(R.I.)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 南方ハ七・七五露里 東方ハ九露里

- "b" 南方へ二〇・九六露里 東方へ九露里
- "c" 南方へ二〇・九六露里 東方へ一露里
- "d" 南方へ七・七五露里 東方へ一露里

第三地 方「クキドラニー」

地方ノ面積ハ五十平方露里ニ等シ

基点ハ「クキドラニー」河口ヨリ上流約六露里ニ位スル同河左岸ニアル石油露面トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

- "a" 北方へ六・二五露里 東方へ二・五〇露里
- "b" 東方へ二・五〇露里
- "c" 西方へ五・五〇露里
- "d" 北方へ六・二五露里 西方へ五・五〇露里

第四地 方「ボロマイ」

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

基点ハ「ピリツン」探掘區域上總式第一號井(K.I)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

- "a" 北方へ一六・五〇露里 東方へ五露里
- "b" 北方へ 四露里 東方へ五露里
- "c" 北方へ 四露里 西方へ三露里
- "d" 北方へ一六・五〇露里 西方へ三露里

第五地 方「北バターシン」

地方ノ面積ハ二十五平方露里ニ等シ

基点ハ「チャイウオ」探掘區域總式第一號井(C.I)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

- "a" 北方へ四露里一二「サージエン」 東方へ二露里
- "b" 北方へ五五八・六四「サージエン」 東方へ二露里
- "c" 北方へ五五八・六四「サージエン」 西方へ六露里
- "d" 北方へ四露里一二「サージエン」 西方へ六露里

第六地 方「南バターシン」

地方ノ面積ハ七十五平方露里ニ等シ

基點ハ「チャイウオ」探掘區域綱式第一號井(C1)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 南方ハ 四七三・六四「サージエン」 東方ハ二露里

“b” 南方ハ二〇露里一六〇「サージエン」 東方ハ二露里

“c” 南方ハ二〇露里一六〇「サージエン」 西方ハ七露里

“d” 南方ハ 四七三・六四「サージエン」 西方ハ七露里

第七地 方「チエメルニ—ターギ」

地方ノ面積ハ二百平方露里ニ等シ

基點ハ「ウキニ」河口ヨリ上流約三露里ニ位スル同河左岸ニアル石油露面トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 北方ハ二七露里 東方ハ三露里

“b” 南方ハ 八露里 東方ハ三露里

“c” 南方ハ 八露里 西方ハ五露里

“d” 北方ハ二七露里 西方ハ五露里

第八地 方「カタングリ—ノグリク」

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

基點ハ「スイウオ」探掘區域綱式第一號井(C1)トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 北方ハ 二露里 東方ハ六露里

“b” 南方ハ二二・二七露里 東方ハ六露里

“c” 南方ハ二二・二七露里 西方ハ二露里

“d” 北方ハ 二露里 西方ハ二露里

第九地 方「ムキンゲ—コンギ」

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

基點ハ「コンギ」ムキンゲ兩河ノ合流點ニアル獵人ノ小屋トス

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

“a” 北方ハ七・五〇露里 西方ハ三露里



- "b" 南方へ 五露里 西方へ三露里
- "c" 南方へ 五露里 西方へ二露里
- "d" 北方へ七・五〇露里 西方へ二露里

第十地方「チャクレ」—ナムビ—「チャムグ」

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

基點ハ「チャクレ」河口トス

西方ノ境界ハ階段形ナリ

隅點ノ位置ヲ左ノ如ク定ム

- "a" 北方へ九・二〇露里 西方へ二露里
- "b" 南方へ 五露里 東方へ二・五〇露里
- "c" 南方へ 五露里 西方へ二露里
- "d" 西方へ 二露里 西方へ二露里
- "e" 西方へ 七露里 西方へ七露里
- "f" 北方へ三・五〇露里 西方へ七露里

- "g" 北方へ三・五〇露里 西方へ二露里
- "h" 北方へ九・二〇露里 西方へ二露里

第十一地方「ウエングリ」—大フジ—

地方ノ面積ハ壹百平方露里ニ等シ

隅點ノ正確ナル位置ハ決定セラレズ本地方ノ正確ナル境界ハ本契約第二條ニヨリ利權者之ヲ

定ム

本地方ハ北方「ウエングリ」河ト南方「大フジ」河トノ間ニ位スル幅十五露里ノ「オホツク」海沿岸地帯ニ於テ利權者之ヲ定ム

備考 第二地方「エハビ」ノ境界ハ同境域内ニ「エハビ」探掘面積五九二「デシヤーチン」

カ介在スル事情ヲ考慮シ該探掘面積ヲ本地方ヨリ除外シテ決定セリ

第八地方「カタングリ」—「ノーグリク」ノ境界ハ同境域内ニ「スイウオ」—「ウイグ

レクトウイ」及「カタングリ」ノ探掘區域總面積一、四七九・九二「デシヤーチン」カ

介在スル事情ヲ考慮シテ該探掘ノ面積ヲ本地方ヨリ除外シテ決定セリ

(註) 一九二八年十二月二十四日附第九十二號文書ヲ以テ第十一地方ノ正確ナル境界ヲ左記ノ通り定ム利權本部ニ届出ヲ爲セリ

一、本區域ハ東海岸方面ヲ除ク外經緯度ヲ以テ貫通スル側面ナ有スル直角形ナリトス

二、境界ノ角隅点ノ位置ハ基点ノ座標ニヨリ定ム

三、面積、壹百平方露里

四、基点、大「フジ」河口

五、角隅点ノ位置

- a. 基点ヨリ北ニ二十三露里、西ニ五露里百七十「サージエン」
- b. 基点
- c. 基点ヨリ北ニ零、西ニ七露里四十五「サージエン」
- d. 基点ヨリ北ニ二十三露里、西ニ七露里四十五「サージエン」

第五條 本契約ニハ一時十露里ノ北樺太地圖（地質協會一千九百十四年度版）ニ十一地域ヲ記入セルモノヲ添付ス

政府及利権者ノ代表者ハ右地圖ニ署名セリ

本契約及地圖ハ千九百二十五年十二月十四日附利權契約ノ不可分の部分ヲナス

第六條 利権者ハ本契約ニ對シ普通印紙稅一留六十五哥ヲ支拂フモノトス

第七條 本契約ハ當該委任ヲ受ケタルソ聯邦人民委員會ノ代表者及利権者ノ代表者ニヨリ署名セラレタル後其效力ヲ發生スルモノトス

第八條 本契約ノ原本ハソ聯邦人民委員會ノ事務局ニ保管セラレ、利権者ニハソ聯邦人民委員會會議書記官ノ認證セル謄本ヲ交付ス

千九百二十七年二月十五日ノ決定ニ從ヒ（プロトコール第二〇三號第一項）ソ聯邦人民委員會會議ノ委任ニ依ル

最高人民經濟會議議長 ウエ・クイブキシエフ

北「サガレン」石油企業組合ノ權利義務繼承者タル北樺太石油株式會社ノ委任ニ依ル

成 富 道 正  
露 譯 者 小 西 増 太 郎

千九百二十七年二月十五日ノ決定ニ從ヒ（プロトコール第二〇三號、第一項）ソ聯邦人民委員會會議ノ委任ニ依リ本契約ニ副書セリ

外務人民委員代理 エム・リトウキノフ

原本ニ對シ印紙稅一留六十五哥ヲ支拂ヘリ

本謄本ハ原本ニ相違ナキコトヲ認證ス

ソ聯邦人民委員會會議書記官代理  
フ オ テ イ エ ソ

附 録

一三

(一九二七年三月廿一日附利權本部書翰第六四三二五三三號)

本追加契約ニヨリ利權者ニ許與セラレタル試掘地域外ニ於テ地質調査實施ノ必要生ジタル場合  
ニハ利權本部ハ利權契約第十五條ニ規定スル總テノ條件ヲ適用スルコトヲ條件トシテ右作業實施  
ニ對シ異議ヲ有セズ

追 加 契 約

(試掘期限延長及狹小地域)

追 加 契 約

千九百三十六年十月十日 於モスクワ市

一方「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦（ソ聯邦）政府（以下單ニ政府ト稱ス）ハ一九三六年十月十日附ソ聯邦人民委員會議決定（議定書第一八二六號）ニ基キ行動スル重工業人民委員代理「モイセイ・リウオーヴィチ・ルヒモウイチ」ニヨリ代表セラルソ聯邦重工業人民委員部ヲ通シ、他方北樺太石油株式會社ハ同會社ノ取締役社長ニシテ且同會社ノ名ニヨリ實際ニ本協定ニ署名スルノ權限ヲ有スル旨ノ一九三六年十月一日附在「モスクワ」日本大使館發給ノ證明書第九號ニ基キ行動スル同會社取締役社長左近司政三ヲ通シ左記ノ如ク一九三五年十二月十四日附利權契約ノ追加協定ヲ締結セリ

第一條 一九三五年十二月十四日附利權契約第十二條ノ變更トシテ政府ハ利權者ニ對シ左記權利ヲ一九四一年十二月十四日迄ノ期間ニ對シ延長スルコトヲ決定ス

（イ）坑井ノ深度及位置ニ關シソ聯邦重工業人民委員部ト利權者ト協定濟（重工業人民委員部發利權者宛一九三四年六月二十七日附第三・一六・七號、一九三四年九月十四日附第一三・一八・七號及一九三五年三月四日附第一三・二二號書信寫ヲ本協定ニ添附ス）ナル坑井ノ試掘權

二  
(ロ) 『チエメルニ・グーギ』 『チャクレ・ナムビ・チャムダ』 及 『ウエンダリ・大フジ』 地方ニ於ケル前記利権契約第十二條規定ノ試掘作業權  
(ハ) 本協定第二條記載ノ面積狭小試掘區域ニ於ケル前記利権契約第十二條規定ノ試掘作業權

第二條(一) 一九二五年十二月十四日附利権契約第十三條規定ノ除外例トシテ利権者ニ對シ左記面積狭小試掘區域ヲ例外的ニ設定スルモノトス

(イ) 北『オハ』試掘地域地方第三面積狭小試掘區域  
其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

南方ニ於ケル境界線ハ元北『オハ』第一試掘區域ノ境界線ニ沿ヒ東部ニ於テハ元北『オハ』第一試掘區域(第六十四號鑛區)ノ東標柱ヨリ西方ニ一、二三〇米ノ距離ニ在リ、西方ニ於テハ同上標柱ヨリ西方ニ三、七九〇米ニ在リ、北方ニ於テハ北『オハ』試掘地方ノ北境界線ニ沿フモノトス

(ロ) 『エハビ』試掘地方第五面積狭小試掘區域  
其ノ境界線ハ左ノ方法ニ依リ決定セラル

北境界線ハ『エハビ』第三試掘區域ノ南境界線ト一致シ南境界線ハ『エハビ』試掘地方ノ南境界線ト一致ス

其他ノ境界線ノ方向ハ『エハビ』第三試掘區域ノ全樣境界線ノ經線ト一致ス  
(ハ) 『クキドラニ』試掘地方第二面積狭小試掘區域  
其境界線ハ左ノ方法ニ依リ決定セラル

南境界線ハ重工業人民委員部發一九三五年三月四日附第一、三三二號書信ニヨリ劃定セラレタル『クキドラニ』試掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニシテ北境界線ハ南境界線ヨリ二、六六〇米ノ距離ニ離レタル緯線ナリ、東境界線ハ前記『クキドラニ』試掘區域ノ東境界線ヨリ東方ニ五〇〇米ノ距離ニ離ルル經線ニシテ西境界線ハ前記『クキドラニ』試掘區域ノ東境界線ヨリ西方ニ二、二六〇米ノ距離ニ離ルル經線ナリ

(ニ) 『カタンダリ』試掘地方第二面積狭小試掘區域  
其ノ境界線ハ左ノ方法ニヨリ決定セラル

北境界線ハ『ウキダレクトウイ』探掘區域ニ至ル迄ノ『カタンダリ』第四試掘區域ノ南境界線ニシテ南境界線ハ『カタンダリ』第三試掘區域ノ東境界線ニ至ル迄ノ『カタンダリ』探掘區域

ノ北境界線ナリ、西境界線ハ「ウイグレクト」探掘區域ヨリ「カタングリ」探掘區域ノ北境界線ヲ通過スル緯線ニ至ル迄ノ「カタングリ」第三試掘區域ノ東境界線ニシテ東境界線ハ「カタングリ」第四試掘區域ノ東境界線ノ繼續ナリ

(2) 本條記載ノ面積狭小試掘區域ノ實地測定並ニ之等區域ノ試掘鑛區ヘノ分割及更ニ探掘鑛區ヘノ分割ハ利權契約第十三條及第十四條記載ノ鑛區ノ大キサ及形状ニ左記變更ヲ加ヘ前記兩條ニヨリ行ハルモノトス

(イ) 北「オハ」試掘地方第三面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ八試掘鑛區ニ分割セラル、即全區域ハ緯線ニ沿ヒ二等分セラレ、經線ニ沿ヒ四等分セラレ、其ノ結果八試掘鑛區ヲ得ルモノトス

(ロ) 「エハビ」試掘地方第五面積狭小試掘區域ハ左ノ方法ニヨリ十二試掘鑛區ニ分割セラル、即全區域ハ緯線ニ沿ヒ三等分セラレ經線ニ沿ヒ四等分セラレ其ノ結果十二試掘鑛區ヲ得ルモノトス

(ハ) 「クキドラニ」試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ北「オハ」北方第三面積狭小試掘區域ニ對スル本項(イ)規定ト同様ノ方法ニヨリ八試掘鑛區ニ分割セラル

(ニ) 「カタングリ」試掘地方第二面積狭小試掘區域ハ一個ノ北方鑛區及五個ノ南方鑛區ヨリナル六試掘鑛區ニ分割セラル

北方鑛區ノ南境界線ハ「ウイグレクトウイ」探掘區域ノ南境界線ノ繼續ニシテ五個ノ南方試掘鑛區ハ残りノ部分ヲ經線ニ沿ヒ等分ノ部分ニ分割スルコトニヨリ得ラルモノトス

(ホ) 本項(イ)(ロ)(ハ)及(ニ)記載ノ試掘鑛區ヲ探掘鑛區ヘノ分割ハ前記利權契約第十四條規定ノ場合ニ於テ各試掘鑛區ヲ緯線ニ沿ヒ二個ノ等分ノ探掘鑛區ニ分割スル方法ニヨリ行ハルモノトス

第三條 「チエメルニ・ダーギ」 「チヤクレ・ナムビ・チヤムグ」 及 「ウエングリ・大フジ」 試掘地方ニ於テ前記利權契約第十三條ニヨリ定メラルヘキ試掘區域ニ關スル坑井ノ數、位置及深度並本協定第二條記載ノ各面積狭小試掘區域ニ關スル坑井數、位置及深度ハ利權者及重工業人民委員部トノ間ニ於ケル一九三二年七月十一日附協定ニヨリ規定セラレタル方如ク利權者ニヨリ聯邦重工業人民委員部ト協定セラルモノトス、而シテ各面積狭小試掘區域ニ於ケル坑井數ハ九六(「デシヤチン」試掘區域ニ於ケルト同數ノモノ即ニ乃至四試掘坑井タルヘシ

第四條 本協定ニ定メナキ事項ニ關シテハ總テノ場合試掘作業ハ利權者ニヨリ一九二五年十二

月十四日附利權契約ノ規定ニ從ヒ實現セラルルモノトス

第五條 一九二五年十二月十四日附利權契約第三十條ニ左記項目ヲ追加ス

「利權者ハ利權企業ノ常備労働者及従業員ノ一切ノ家族員ニ對シテモ亦同様ノ標準ニヨリ無料ニテ宿舍ヲ提供スルノ義務アルモノトス

本條ニヨリ利權企業ノ労働者及従業員並常備労働者及従業員ノ家族員ニ對シテ提供セラルヘキ宿舍ハ在樺太ノ側石油企業ニ於ケル當該年度實在ノ標準以下タルヲ得ズ」

第六條 一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第二項始メヨリ「労働者及従業員ノ輸送……」ナル語迄ヲ左ノ通り記載ス

利權者ハ自己ノ必要トスル労働力ノ熟練別人員數ニ關スル申込ヲ毎年四月一日及七月十五日迄ニ哈府重工業人民委員部全權宛、寫シテ東部「サハリン」鑛山監督署宛ニ爲スモノトス

哈府重工業人民委員部全權ハ利權者ノ爲セル申込ニヨリ提供シ得ヘキ労働者及従業員數ヲ五月十五日及八月三十日迄ニ利權者ニ通知スヘキ義務アルモノトス

右通知書ニハ浦鹽市ニ於テ如何ナル労働者及従業員ノ何名、又「オハ」市ニ於テハ如何ナル労働者及従業員ヲ何名利權者ニ提供シ得ヘキヤシ記載スルモノトス

重工業人民委員部全權ニヨル労働者及従業員ノ引渡シ及利權者ニヨル力カ受入レハ浦鹽市及「オハ」市ニ於テ行ハル、モノトス

浦鹽市及「オハ」市ニ於テ利權者ハ労働者及従業員ノ職名、熟練及作業經歷ヲ確認スル當該機關發給ノ書類ニシテ此等労働者及従業員ノ提示スル書類ニ基キテノ労働者及従業員ヲ受入ル、モノトス

第七條 一九二五年十二月十四日附利權契約第三十一條第三項ニ於ケル「浦鹽市ニ於ケル労働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變ヘ又「浦鹽市ノ労働支部」ナル語ヲ「哈府重工業人民委員部全權」ナル語ニ變フヘシ

第八條 一九二五年十二月十四日附利權契約第三十二條ニ左記項目ヲ追加ス

「労働者及従業員ハ彼等方作業ニ採用サレタル熟練ニ相應シ利權者ニヨリ利用セラル、モノトス  
利權者ハ第一順序トシテ企業ニ在ル労働者及従業員中ヨリ自己ノ必要トスル労働者及従業員ヲ滿タスモノトス

特ニ季節労働者及従業員ヲ常備労働者及従業員ニ移ス方法及常備労働者及従業員ヲ更ニ今後ノ作業期間ニ殘留セシムル方法ニヨルモノトス

季節労働者及従業員ヲ季節期間終了後常備労働者及従業員ニ移ス方法ニヨリ労働者及従業員ヲ編入スルコト及常備労働者及従業員ヲ契約期間終了後更ニ今後ノ作業期間ニ残留セシムルコトハ若シ此等労働者及従業員ノ熟練カ所要ノ常備労働者及従業員ノ熟練ニ相應シオル場合ニ行フモノトス

第九條

一、本追加契約ハ二九二五年十二月十四日附利権契約ノ不可分の部分ヲナス

二、本追加契約ハソ聯人民委員會議及利権者ニヨリ之カ權限ヲ與ヘラレタル者ニヨリ署名セラレタル日ヨリ其効カヲ發生スルモノトス

第十條 本追加契約ノ原本ハソ聯邦人民委員會議ノ事務局ニ保管セラレ利権者ニハ認證セラレタル際本ヲ交附スルモノトス

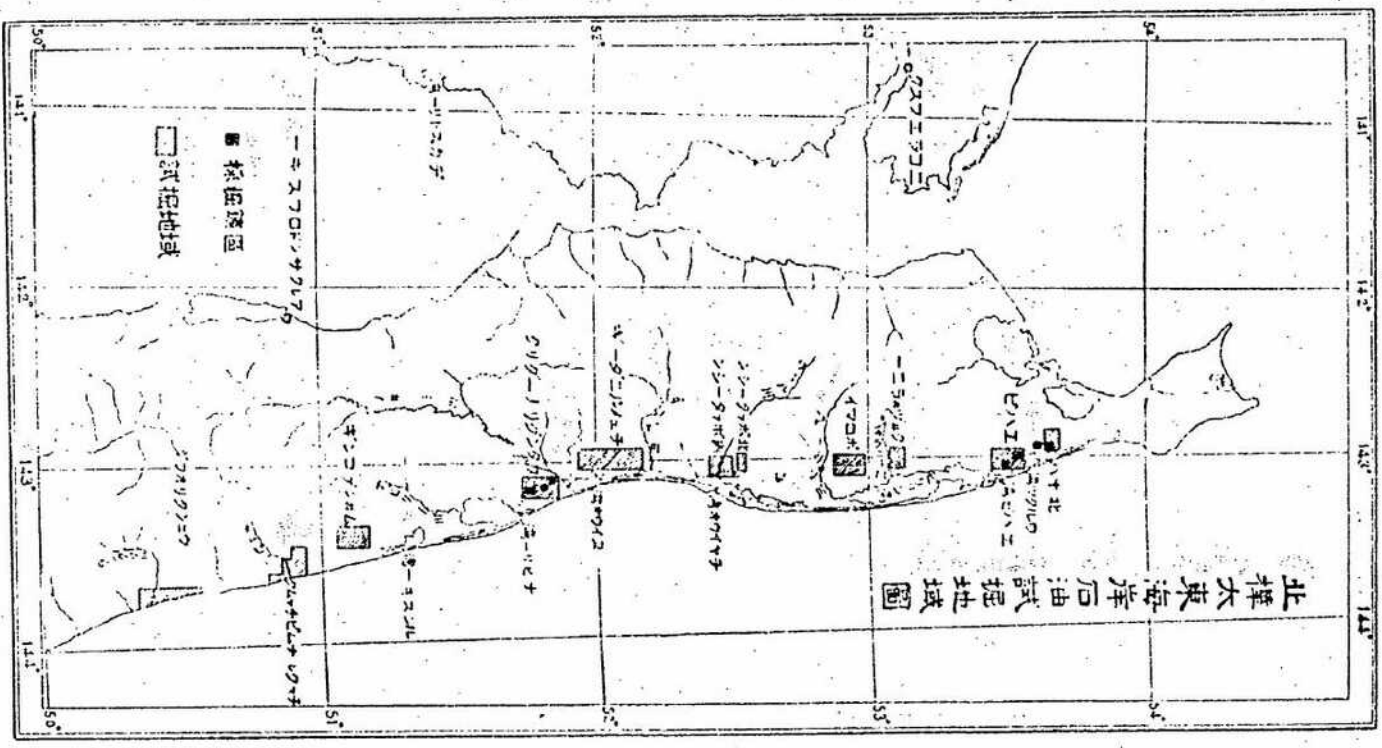
一九三六年十月十日附決定(議定書第一八二六號)ニヨルソ聯邦人民委員會議ノ全權ニヨリ

ソ聯邦重工業人民委員代理 エム・エル・ルヒモウイチ

在モスクワ日本大使館發給ノ證明書第九號ニヨル北樺太石油株式會社ノ全權ニヨリ

北樺太石油株式會社取締役社長 左 近 司 政 三

利権本部秘書 ゼ ル ノ ー ソ





極秘

發表見合也

一九三九年三月二十一日

内閣總理大臣 五

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙外務陸軍逓信三大臣請議  
日滿獨連絡航空路設定ニ關ス